

平成 21 年 度

自己点検・評価報告書

平成 21 年 6 月



学校法人 中国学園

中国短期大学

目 次

平成 21 年度評価用報告書の発刊にあたり	1
《中国短期大学の特色等》	2
《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》	7
《Ⅱ 教育の内容》	11
《Ⅲ 教育の実施体制》	32
《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》	43
《Ⅴ 学生支援》	63
《Ⅵ 研究》	82
《Ⅶ 社会的活動》	87
《Ⅷ 管理運営》	94
《Ⅸ 財務》	105
《Ⅹ 改革・改善》	110
《将来計画の策定》	116
巻末資料	117
おわりに	119

平成21年度評価用報告書の発刊にあたり

中国短期大学学長
自己点検・評価委員会委員長
松 畑 熙 一

大学評価の基本目的は、日常的・定期的に評価することを通して、教育研究活動等の改革・改善に役立て、広く社会に公開することによって、大学・短期大学の自律的な発展を促進していくことにある。大学淘汰の厳しい時代を迎えている今、常に改革・改善への努力をして、本学の個性的特徴を明確にして地域にアピールしていかなければ、低落への道を脱することはできない。

本学は、平成21年度に第三者評価（認証評価）を受けることになっているが、その前提となるのが自己点検・評価で、本学の教育活動等の現状分析と自己評価に基づいて改善・向上方策（将来計画）を立てていくよう努力した。実際の自己点検・評価に際しては、本学の教育理念・目的に照らして本学の特色を充分発揮できているかどうか、改善すべき課題は何か等の観点から総合的に診断・評価していくことに焦点をあててきた。あくまで大学としての質の改善がめざされるものであるから、定量的指標と共にそれぞれの活動内容に関する定性的評価を子細に検討しつつ、評価活動を進めるよう努めている。

本学の建学の精神は「全人育成」であり、学生の精神的・道徳的・文化的・身体的発達を促し、将来の社会・職業生活に生きて働くバランスのとれた人間の育成をめざしている。また、教育理念である「あたたかい心、ひらめく英知、たえぬく努力」を基本とし、「“楽”習力」を求め、学力を広義に解釈し、知識や技能だけでなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等、激しく変化する社会で生きていくために必要な人間力養成を最終目的としながら、高校から大学への接続を良くするための「導入教育」等を通して、明るく意欲と覇気のある学生への教育を重視している。はっきりとした目的意識が持てないでいる学生に対しても「自分の適性・能力を見つけることができる大学」をめざして努力している。従って本学で学ぶ学生の実態やニーズを把握して、学生と大学側とのマッチングを高めるよう大学教育の中身を工夫し、学科の特色づくり、入学の入口から卒業の出口の間にいかに付加価値を付けていくか、学生満足度を高めていくかを絶えず模索している。

教育研究面においては、大学生活、特に授業への学生満足度の向上こそが大学存続・発展の鍵となる。公開授業研究や講演会等、教育改善へのたゆまぬ努力としてのFD研修活動を活発化し、学生・教職員の社会的倫理・規律意識を高めながら心豊かなキャンパスライフを実現するよう努めている。

大学の第三の使命である「社会連携」については、地域に輝き、地域創生を中心的に担う知の殿堂としての大学像の具体化が大きな課題であると受けとめて前進している。

本報告書の作成は、担当委員会のメンバーを中心に全教員・事務職員の総力の結集によるものであり、喜ばしいかぎりである。敬意と感謝を表したい。

《中国短期大学の特色等》

（１）短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

沿革の概略を述べると、昭和２８年学校法人平田洋裁学園が創設者平田定子により開設され、昭和３７年学校法人平田学園に改称、家政科のみの中国女子短期大学（岡山市船頭町）を開学した。その後、昭和３９年保育科増設、昭和４０年岡山市庭瀬８３番地（平成２１年４月岡山市北区庭瀬８３番地に地名変更）に移転、昭和４１年英文科・音楽科を増設、昭和５３年家政科を家政専攻と食物栄養専攻に専攻分離、平成元年学校法人中国短期大学と改称、平成４年経営情報学科を増設し、現在の基礎がほぼ完成した。この間、男女共学化にともない、昭和４１年１月に学校名を中国短期大学に改称、社会の教育におけるニーズの変化にともない、教育目標やカリキュラム改正により科名変更、専攻科の設置、大学評価・学位授与機構認定専攻科として指定を受ける等変化し、５学科・専攻科（３専攻、平成２０年度からは２専攻）を持つ総合短期大学として発展してきた。なお、平成１３年１２月に学校法人中国学園に法人名を改称した。

学校法人中国学園 中国短期大学の沿革を表１に示す。

表１ 学校法人中国学園 中国短期大学の沿革

昭和２８年	５月	学校法人平田洋裁学園開設
昭和３７年	４月	学校法人平田学園に改称、中国女子短期大学開学（岡山市船頭町）、家政科設置
３８年	４月	保母養成施設として指定認可
３９年	４月	保育科増設（幼稚園教諭２級普通免許状取得課程として認可）
４０年	４月	岡山市庭瀬８３番地に移転
４１年	１月	中国女子短期大学を中国短期大学に改称
４１年	４月	栄養士養成施設として指定認可 英文科、音楽科増設
４３年	４月	専攻科音楽専攻設置
５３年	４月	家政科を家政専攻、食物栄養専攻に専攻分離
６１年	４月	保育科を幼児教育科に科名変更 英文科を英語英文科に科名変更
６３年	４月	専攻科に幼児教育専攻・英語英文専攻を増設
平成 元年	４月	学校法人中国短期大学と改称 家政科を生活学科に科名変更、家政専攻を生活教養専攻に改称
４年	４月	経営情報学科増設
７年	４月	専攻科音楽専攻 大学評価・学位授与機構認定
８年	４月	放送大学と単位互換協定締結
１１年	４月	生活学科生活教養専攻を総合生活学科に科名変更 生活学科食物栄養専攻を人間栄養学科に科名変更 英語英文科を英語コミュニケーション学科に科名変更 専攻科に介護福祉専攻を増設
１３年	１２月	学校法人中国学園と改称 認可
１４年	４月	（中国学園大学現代生活学部人間栄養学科設置）

15年 3月	中国短期大学人間栄養学科 募集停止にともない学科廃止 専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止にともない廃止
16年 4月	幼児教育科を保育学科に科名変更 経営情報学科を情報ビジネス学科に科名変更
18年 4月	(中国学園大学子ども学部子ども学科設置・大学院現代生活学研究科設置)
20年 3月	専攻科幼児教育専攻 募集停止にともない廃止

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

1) 所在地：〒701-0197 岡山県岡山市北区庭瀬83番地



図1 岡山県地図



図2 本学近隣の地図

2) 周囲の状況（産業、人口等）

(1) 岡山市の概要

- ① 岡山市は旭川の河口に開けた岡山平野を中心に、南は瀬戸内海に面し、北に中国山地を控えた気候温暖な地域で瀬戸大橋を介して四国高松と繋がっている。岡山市は岡山県の県庁所在地であり、市の中心部は地方の政治都市としての役割を果たす市街地が形成されている。
- ② 産業では農業、繊維関係等があり、地域の産業にもユニークな技術を持つものも多く多様である。最近では地の利を活かした流通センターがあり、新たな産業の可能性のある地域である。なお、岡山市に隣接する倉敷市には水島臨海工業地帯があり、石油精製・石油化学、鉄鋼生産、各種機械生産等で全国でも有数の工業地帯となっている。
- ③ 岡山市の人口・面積等(平成21年4月現在)
面積：789.91 km²
世帯：290,382世帯
人口：702,512人

(2) 本学の周辺

本学は岡山平野の北の平野部に位置し、JR山陽本線庭瀬駅（岡山駅と倉敷駅の間）から徒歩約15分のところに位置し通学に便利である。広島県東部（備後地区）、岡山県南、四国の瀬戸大橋線沿線から1時間程度で通学が可能である。岡山駅（庭瀬駅から9分）は新幹線が停車し、北には岡山空港がある。また、文化面でも、多くの文化施設があり、カルチャーゾーンを形成している。

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、A L O の氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-M a i l 等を記載して下さい。

理事長

氏 名	中 島 博 (なかしま ひろし)	
連 絡 先	TEL	0 8 6 - 2 9 3 - 1 1 0 0
	FAX	0 8 6 - 2 9 3 - 3 9 9 3
	E-M a i l	i n f o @ c j c . a c . j p
略 歴	昭和30年13月	岡山大学法文学部法学科卒業
	昭和30年14月	中島鋳工業株式会社 取締役 (昭和42年11月ナカシマプロペラ株式会社へ改称)
	昭和63年14月	岡山県高等学校教育研究協議会 副会長
	平成16年19月	学校法人中国短期大学 理事長
	平成13年12月	学校法人中国学園 理事長
	平成14年12月	株式会社 ナカシマプロペラ代表取締役会長

学 長

氏 名	松 畑 熙 一 (まつはた きいち)	
連 絡 先	TEL	0 8 6 - 2 9 3 - 1 1 0 0
	FAX	0 8 6 - 2 9 3 - 3 9 9 3
	E-M a i l	k m a t s u h a @ c j c . a c . j p
略 歴	昭和41年13月	広島大学大学院教育学研究科修士課程英語科教育学専攻修了
	昭和42年14月	福岡女学院短期大学英語科専任講師
	昭和47年14月	福岡教育大学教育学部助教授
	昭和60年10月	岡山大学教育学部教授
	平成11年14月	岡山大学 副学長 (～平成17年6月)
	平成17年16月	中国学園大学・中国短期大学 副学長
	平成18年16月	中国学園大学・中国短期大学 学長

A L O

氏 名	橋 内 幸 子 (はしうち さちこ)		
連 絡 先	TEL	0 8 6 - 2 9 3 - 1 1 0 0	
	FAX	0 8 6 - 2 9 3 - 3 9 9 3	
	E-Mail	s - h a s h i @ c j c . a c . j p	
略 歴	昭和52年	3月	岡山大学大学院文学研究科修士課程修了
	昭和57年	4月	中国短期大学英文科専任講師
	昭和61年	4月	中国短期大学英語英文科助教授
	平成14年	4月	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科助教授
	平成16年	4月	中国短期大学英語コミュニケーション学科教授
	平成18年	4月	中国短期大学英語コミュニケーション学科 学科長 (～平成20年3月)

(4) 平成15年度から21年度までの学科・専攻ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%)を作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

表2に現在及び過去7ヶ年の設置学科・専攻の入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%)を示す。

表2 平成15年度～21年度の設置学科、入学定員等

学科等の名称		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
総合生活学科	入学定員	85	85	85	85	85	85	85	
	入学者数	94	90	89	78	93	101	90	
	入学定員充足率(%)	(110)	(105)	(104)	(91)	(109)	(118)	(105)	
	収容定員	170	170	170	170	170	170	170	
	在籍者数	198	180	181	165	173	191	187	
	収容定員充足率(%)	(116)	(105)	(106)	(97)	(101)	(112)	(110)	
保育学科 (幼児教育学科)	入学定員	120	150	150	100	100	100	100	16年度 名称 変更
	入学者数	157	175	167	113	125	104	115	
	入学定員充足率(%)	(130)	(116)	(111)	(113)	(125)	(104)	(115)	
	収容定員	240	270	300	250	200	200	200	
	在籍者数	325	334	342	276	236	230	216	
	収容定員充足率(%)	(135)	(123)	(114)	(110)	(118)	(115)	(108)	
英語コミュニケーション学科	入学定員	75	55	55	55	55	55	55	
	入学者数	38	31	51	48	31	34	26	
	入学定員充足率(%)	(50)	(56)	(92)	(87)	(56)	(61)	(47)	
	収容定員	150	130	110	110	110	110	110	
	在籍者数	84	68	85	100	79	65	61	
	収容定員充足率(%)	(56)	(52)	(77)	(90)	(71)	(59)	(55)	
音 楽 科	入学定員	60	50	50	50	50	50	50	
	入学者数	36	42	30	31	28	25	21	
	入学定員充足率(%)	(60)	(84)	(60)	(62)	(56)	(50)	(42)	
	収容定員	120	110	100	100	100	100	100	
	在籍者数	73	80	71	63	59	56	44	
	収容定員充足率(%)	(60)	(72)	(71)	(63)	(59)	(56)	(44)	
情報ビジネス学科 (経営情報学科)	入学定員	100	100	100	80	80	80	80	16年度 名称 変更
	入学者数	49	69	50	71	70	83	73	
	入学定員充足率(%)	(49)	(69)	(50)	(88)	(87)	(103)	(91)	
	収容定員	200	200	200	180	160	160	160	
	在籍者数	122	118	115	122	142	153	156	
	収容定員充足率(%)	(61)	(59)	(57)	(67)	(88)	(95)	(97)	
専 攻 科 幼児教育専攻	入学定員	10	10	10	10	10	募集停止	—	
	入学者数	6	12	2	0	0	—	—	
	入学定員充足率(%)	(60)	(120)	(20)	(0)	(0)	—	—	
	収容定員	10	10	10	10	10	—	—	
	在籍者数	6	12	2	0	0	—	—	
	収容定員充足率(%)	(60)	(120)	(20)	(0)	(0)	—	—	
専 攻 科 介護福祉専攻	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	
	入学者数	34	27	31	21	31	21	16	
	入学定員充足率(%)	(85)	(67)	(77)	(52)	(77)	(52)	(40)	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	35	27	31	21	31	21	16	
	収容定員充足率(%)	(87)	(67)	(77)	(52)	(77)	(52)	(40)	
専 攻 科 音楽専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
	入学者数	7	9	8	6	5	7	9	
	入学定員充足率(%)	(35)	(45)	(40)	(30)	(25)	(35)	(45)	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	14	16	17	14	11	12	16	
	収容定員充足率(%)	(35)	(40)	(42)	(35)	(27)	(30)	(40)	
中国短期大学 全体	入学定員	510	510	510	440	440	430	430	
	入学者数	421	455	428	368	383	375	350	
	入学定員充足率(%)	(82)	(89)	(83)	(83)	(87)	(87)	(81)	
	収容定員	970	970	970	900	830	820	820	
	在籍者数	857	835	844	761	731	728	696	
	収容定員充足率(%)	(88)	(86)	(87)	(84)	(88)	(88)	(84)	

(5) 平成18年度～20年度に入学した学生の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

表3に過去3ヶ年の入学生の出身地別人数及び割合を示す。岡山地区が約60%となり、また、中国地区でみると約90%を占める。

表3 出身地別学生数(平成18年度～20年度)

地域	18年度		19年度		20年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
岡山	241	65.5	230	60.1	245	65.2
広島	91	24.7	101	26.4	93	24.8
島根	4	1.1	17	4.4	12	3.2
鳥取	7	1.9	11	2.8	4	1.1
山口	1	0.3	2	0.5	0	0.0
九州	2	0.5	3	0.8	1	0.3
四国	15	4.1	13	3.4	12	3.2
関西	1	0.3	3	0.8	2	0.6
※他地方	6	1.6	3	0.8	6	1.6
合計	368	100.0	383	100.0	375	100.0

※留学生を含む

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数の表を平成21年5月1日時点で作成して下さい。

学校法人中国学園が設置する他の教育機関は、中国学園大学1校である。中国学園大学開学とともに、現代生活学部人間栄養学科が平成14年4月に開設され、平成18年4月に子ども学部子ども学科及び大学院現代生活学研究科(修士課程)が開設された。

表4 法人が設置する他の教育機関の現状

(平成21年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
中国学園大学:	岡山県岡山市北区庭瀬83番地	155	638	548
大学院現代生活学研究科		5	10	9
現代生活学部人間栄養学科		80	328	236
子ども学部子ども学科		70	300	303

※収容定員には編入枠を含む。

(7) 評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

特になし。

《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

【建学の精神・教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学は昭和37年岡山市船頭町に、家政科1学科の「中国女子短期大学」として発足した。創設者平田定子によれば、本学は当時の女性の知性と教養、それにも増して精神的にも人間的にも思いやりのある心豊かな感性を身につけた人(女性)を育てるため、「文化の香りのする、心ある、そして風格のある大学をめざして」設立された。これが当初の建学の精神である。この建学の精神は、男女共学に発展した後も不変で、現在なお受け継がれている。昭和39年には保育科を増設し、さらに、昭和40年には現在位置、岡山市北区庭瀬に移転、昭和41年に「中国短期大学」と改称し、英文科、音楽科を増設して、名実共に総合短期大学として歩み始めた。即ち、設立当初、女子教育をめざした本学を男女共学の短期大学へと発展する意図を明らかにしたものであり、岡山に設置された本学がえて「中国」と名付けたのは、「中国地方」を代表する短期大学であり、さらに世界へ向けて文化情報を発信したいという願望でもあった。

このような、建学意図を踏まえて、第二代学長内藤雋輔は各学科の専門の目的は異なっても、全学的に共通する教育理念として、「あたたかい心、ひらめく英知、たえぬく努力」(Compassion, Wisdom, Unyielding Effort)の三徳目を制定した。即ち、本学に学ぶ者は常に「他者、特に弱い立場にある者の心を推測して、限りない愛情と援助をさしのべる心を持ち」、このあたたかい心を自己満足に終わらせないためには「常に自省自戒する英知」が必要であり、「この反省を絶えず忘れずに一步一步を確実に踏みしめていくためには、たえぬく努力」が要請されるということである。

現学長の第六代学長松畑熙一は、時代と社会の変化に鑑み、建学の精神・教育理念について点検・見直しを行った。その結果、建学以来、今なお受け継がれている学園の精神・理念を、バランスのとれた人間を育てる「全人育成」の一語で表し、本学は中国学園大学とともに「地域の中で輝く大学」として、将来の社会の中で有用な人材の育成をめざすことを再確認した。また具体的な指標として、つながりを意味する「連」をキーワードとして設定提唱し、人と人の「連」、人と自然との「連」、人と歴史との「連」が唱道されている。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神・教育の理念については、大学案内に必ず掲載し、入学式の学長の式辞や、入学式後の各学科でのオリエンテーションで説明して理解を深めさせ、卒業に際しては改めてこれらを確認めさせている。また、ホームページ(<http://www.cjc.ac.jp>)に掲載するとともに、学庭の中央の芝生に時計台を置き、台座の石に教育理念の三徳目を刻み、学生、教職員、来学者の目に触れるようにしている。

【教育目的・教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います。(例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等)。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

中国短期大学(以下「本学」と記載)は、上記の建学の精神・教育理念のもと、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を育成するとともに、地域の文化及び福祉の向上ならびに産業の振興に寄与することを共通の目的としている。

本学の設置する学科別の具体的な人材の養成、その他教育研究の目的・目標は次のとおりである。

■総合生活学科

衣、食、住、環境・生活科学、情報、造形、健康、福祉、ビジネス等、現代生活に関わる分野の教育研究を通じ、各人の志向する職業または实际生活に必要な能力の習得を図り、社会に寄与できる人材の育成を目的とする。そのため、各分野に関する科目群を配置した6つのコース(ライフクリエイト、フードクリエイト、アパレル・ファッション、ビジネス、ヒューマンケア、医療・介護事務)を設け、実践的な知識習得と各分野での資格検定取得を支援している。

■保育学科

乳幼児の保育における教育研究を通じ、保育の専門知識ならびに技能の習得を図り、保育現場において、一人ひとりの乳幼児にあわせた指導のできる保育者として寄与できる人材の育成を目的とする。専門職としての資格である、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を2年間で取得させ、有為な社会人を養成する。

■英語コミュニケーション学科

英語に関する専門的な教育研究を通じ、実践的な英語スキルならびに異文化理解に関する知識の習得を図り、英語を駆使して、国際ビジネスや児童英語教育等の専門分野で寄与できる人材の育成を目的とする。国際化社会で求められる英語力と資質を備えた人材の養成と実社会の多様な分野で活用できる資格取得等を主要な努力目標にし、コース制(留学・イマージョン、英語パフォーミングアーツ、児童英語教育、国際キャリア、総合英語)の中で支援している。

■音楽科

音楽に関する理論の知識、ならびに専門実技の能力の習得を図り、音楽による豊かな人間形成を目標として地域社会文化や音楽の分野において、指導者または音楽家として寄与できる人材の育成を目的とする。音楽理論や技術の向上の他に、音楽療法士(2種)や中学校教諭二種免許状や幼稚園教諭二種免許状等、音楽の専門分野における知識や実技を実社会に活かす資格取得を目標としている。

■情報ビジネス学科

情報処理や簿記等の実務技術、ビジネス基礎知識の習得を中心に職業人としての能力を身につけるとともに体験学習等、総合的な人間力を養うことにより、地域の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。実務的なスキルを持った企業人の育成のため、平成20年度よりフィールド&ユニット制を導入し、上級情報処理士、上級ビジネス等の実務士、プレゼンテーション実務士、ウェブデザイン実務士の6種類の実務士及び、初級システムアドミニストレータ、基本情報処理技術者、日商文書処理技能検定、日商簿記検定をはじめとした約12種類の検定資格の取得を授業でサポートしている。

■専攻科介護福祉専攻

本専攻科介護福祉専攻は保育士資格を持つ者が1年間で介護福祉士という国家資格を取得するものである。保育士が持つ能力を最大限に活かした、子どもから高齢者まで支援する専門職養成を目的とする。保育士資格を基礎に国家資格の介護福祉士取得を到達目標とし、介護に関する講義と実習を通じて、幅広い介護分野での専門家を養成することを眼目としている。

■専攻科音楽専攻

音楽の諸学問をさらに2年間、専門的に研究し、より高度な演奏技術の能力の習得を図り、指導者または音楽家として地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする。本専攻は、音楽理論等の専門的な研究と実技関連の錬磨を通じて、四年制大学と同等の芸術学士の取得と、音楽療法士(1種)の資格取得を目標として掲げている。

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどういう方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

学科等の教育目的や教育目標の周知について、学生に対しては、大学案内やオープンキャンパス等により入学以前から開始されており、入学後は学科別オリエンテーションの中で中国短期大学学則をもとに詳しく説明して理解を徹底させている。また、各学科の専任教職員には学科内会議等で常に認識を共有・深化させているが、兼任講師に対しては年度初めに行われるガイダンスの開始以前に周知するようにしている。学外に対しては、ホームページをはじめ、学校案内や各種印刷物で公表している。

【定期的な点検等について】

(1)建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神や教育理念の内容については不変で定期的な解釈の見直しは行っていないが、それらの表現についてはより理想的なものになるよう努力している。各学科の具体的な教育目的等は、社会的ニーズの変化に合わせて修正を加えるべく随時検討している。その結果は教育課程表として具現化され、時に学科名変更に至ることもある。

各学科で検討されたものは、教務委員会、幹部会、教授会、学長等関係組織と共通理解等の整合性について議論され、変更や改革が実施される。

（２）建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

上記（１）で検討された学科別の教育目的・教育目標については、専任教員は当然のことながら、共通した認識を持っているが、ともに教育を実践する他の教職員（主として兼任講師）に対しては、学科長を通じて説明し、教育目的等を達成するための授業内容についての意見交換を行っている。学科によっては、兼任講師を交えた学科の集まりを設けている。

なお、学科別の教育目的・教育目標の点検に対する理事会等の関与については、毎年度、事業計画や予算及び決算を審議する評議員会と理事会に、教育目標項目に関する事業計画及び前年度の実績として提示され、承認を得ている。

【特記事項について】

（１）この《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

学園の創設・発展に寄与した先人に感謝し、建学の精神・教育理念を今一度噛みしめ、今後の努力を誓うため、以下のことを実施している。

- １） 創立記念日を６月１６日と定めている。
- ２） 創立１５周年を皮切りに計４回の創立記念式典を挙行、記念誌を発行、配布している。
- ３） 創立５０周年をめざし、創立５０周年記念事業（記念式典、記念誌発行等）を計画中である。

なお、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを成文化した。近日中に、ホームページに掲載の予定である。

（２）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈添付資料〉
- １．中国学園大学・中国短期大学案内２０１０ pp. １～６、２５～５６
 - ２．平成２１年度学生便覧・授業概要 pp. １～１２

- 〈参考資料〉
- １．過去３ヶ年の中国学園大学・中国短期大学 大学要覧
 - ２．『学校法人 中国短期大学 創立三十周年記念誌』
 - ３．アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー関連資料

《Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成21年度に学科改組等を行った場合は、平成20年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

本学の5学科及び専攻科2専攻の教育課程、及びその概要については、以下のとおりである。なお、**総合生活学科**と**英語コミュニケーション学科**、及び**音楽科**では複数の履修コースを設定しているが、いずれも柔軟な対応が可能なものであり、教育課程表としては提示していない。各学科とも履修モデルを作成・提示して、コース別の履修指導を行っている。

■総合生活学科

本学科では従来の4コース制を充実増設し、平成19年度より6コース制とした。まとまった科目群を履修するようにコース別の履修モデルを明示し、各人の目標に応じ履修指導を行っている。コース別指定科目等は定めていない。

・「ライフクリエイトコース」：生活経営論、消費生活学、衣と生活、食と生活、住と生活等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養を積み上げるとともに、自分の関心のある領域を学習する。広く生活全般に関心のある学生のためのコースであるが、四年制大学への編入も視野に入れている。

・「フードクリエイトコース」：食と生活、食品学、フードコーディネータ論・実習A及びB等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養の上に食に関する領域を学習する。

・「アパレル・ファッションコース」：衣と生活、ファッション造形、ファッションビジネス、アパレル科学等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養の上にアパレル・ファッションに関する領域を学習する。

・「ビジネスコース」：ビジネス実務総論、経営学概論、OA機器演習A等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養の上に生活ビジネスに関する領域を学習する。

・「ヒューマンケアコース」：ヒューマンケアI、ヒューマンケアI演習、社会福祉論等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養の上にヒューマンケアに関する領域を学習する。

・「医療・介護事務コース」：生活と医学、医療管理学、医療事務総論等に代表される科目を履修することにより、幅広い教養の上に医療・介護事務に関する領域を学習する。

表2. 1 総合生活学科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教 養 科 目	国語表現	○				2				○	57(1)	
	芸術	○				2				○	71(1)	
	法学概論	○				2			○		17(1)	
	社会心理学	○				2		○			49(1)	
	社会学	○				2				○	62(1)	
	自然科学概論	○				2				○	15(1)	
	現代職業論	○				2			○		89(1)	
	キャリア開発論	○				2			○	○	68(1)	
	体育実技			○		1				○	37(1)	
	フレッシュアーズセミナー	○				2		○			99(1)	

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養科目	地域創生論	○				2			○		34(1)	
	英語A		○			2			○	○	99(2)	
	英語B		○			2			○		2(1)	
	仏語		○			2					14(1)	
	中国語		○			2				○	12(1)	
専門科目	※生活経営論	○			2					○	99(1)	
	※人間発達学	○				2				○	79(1)	
	※国際関係	○				2			○		64(1)	
	消費生活学	○				2		○			73(1)	
	現代生活とマナー	○				2		○			94(1)	
	※生活環境論	○			2			○			85(1)	
	※生活科学・実験	○		○		2		○			22(1)	
	※生活情報論	○			2					○	102(1)	
	※衣と生活	○			2			○			101(1)	
	※食と生活	○			2			○			101(1)	
	※住と生活	○			2					○	87(1)	
	衣生活実習			○		1		○			8(1)	
	食生活実習			○		1		○			73(2)	
	住生活実習			○		1				○	14(1)	
	※生活と医学	○				2				○	81(1)	
	※ライフステージと健康	○				2				○	39(1)	
	※公衆衛生学	○				2				○	85(1)	
	※社会福祉論	○				2			○		85(1)	
	※食と健康	○				2		○			83(1)	
	※食品学	○				2		○			75(1)	
	フードクリエイティブ論・実習	○		○		2		○			65(2)	
	食品加工学・実習	○		○		2		○		○	54(1)	
	※フードマーケティング論	○				2				○	43(1)	
	※ヒューマンケア I	○				2		○			25(1)	
	ヒューマンケア I 演習		○			1		○			14(2)	
	※ヒューマンケア I A	○				2		○	○		47(1)	
	※ヒューマンケア I B	○				2		○	○	○	22(1)	
	※生活とデザイン	○				2			○		62(1)	
	※色彩学	○				2			○		56(1)	
	生活造形実習 A			○		1			○		19(1)	
	生活造形実習 B			○		1				○	10(1)	
	生活造形実習 C			○		1				○	6(1)	
	※ファッション造形	○				2		○			18(1)	
	※ファッションビジネス	○				2		○		○	12(1)	
	※アパレル科学	○				2		○			19(1)	
	ファッションコーディネート演習		○			1				○	12(1)	
	※OA・生活機器	○				2				○	93(1)	
	※OA機器演習 A		○			1				○	98(2)	
	※OA機器演習 B		○			1		○	○		89(2)	
	※OA機器演習 C		○			1		○		○	86(2)	
	※経営学概論	○				2			○		48(1)	
	ビジネス実務総論	○				2			○		73(1)	
	※サービス産業論	○				2			○		49(1)	
	※簿記	○				2			○		68(1)	
	生活産業実習			○		2		○			41(1)	
	※プレゼンテーション演習		○			1			○		23(1)	
	キャリア開発演習		○			1		○		○	67(1)	
	総合生活学演習		○			1		○			87(1)	
	特別研究		○			4		○		○	73(6)	
	医療事務総論	○				2		○			42(1)	
	医療事務演習		○			1				○	—	平成 21 年度開講
	医療機関実習			○		1		○			—	平成 21 年度開講
ビジネス	ビジネス実務演習		○			2				○	57(1)	
フードコーディネーター 3級	フードコーディネート論	○				2				○	21(1)	
	フードコーディネート論・実習A	○		○		2		○		○	28(1)	
	フードコーディネート論・実習B	○		○		2		○			22(1)	
訪問介護員	2級			○		1		○			14(1)	
	1級					4		○	○	○	4(1)	
						2				○	4(1)	
			○			3		○			4(1)	
				○		4		○			4(1)	
医療管理	医療管理学	○				2				○	60(1)	
秘書士	医療秘書学	○				2		○			42(1)	
介護事務	介護保険事務論	○				2		○			34(1)	

※ 他学科開放科目

■保育学科

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得のためには、関係法令に定められた授業科目の習得が規定されているので、これが卒業要件とほぼ一致するように教育課程が組まれている。本学科では伝統的に音楽系の授業科目を重視している。また、近隣短大にないものとして、保育士資格取得者が1年間で介護福祉士の資格取得可能な専攻科を設置している特色がある。教育課程にもこれを反映して一貫教育の運用が可能になっている。

表2. 2 保育学科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教 養 科 目	国語表現	○				2				○	49(2)	
	芸術	○				2				○	77(1)	
	日本国憲法	○				2			○		106(2)	幼
	社会学	○				2				○	1(1)	
	自然科学概論	○				2				○	68(2)	
	情報処理概論	○				2				○	121(3)	幼
	現代職業論	○				2			○		29(1)	
	体育講義	○				1		○			100(2)	幼、保
	体育実技			○		1		○		○	100(2)	幼、保
	フレッシュヤーズセミナー	○				2		○			104(3)	
	地域創生論	○				2			○		20(1)	
	英語A		○			2			○	○	100(3)	幼、保
	英語B		○			2			○		4(1)	保
	社会福祉	○			2			○			104(2)	幼、保
専 門 科 目	社会福祉援助技術A		○			1				○	120(3)	保
	社会福祉援助技術B		○			1				○	117(3)	保
	児童福祉	○			2			○			100(2)	幼、保
	養護内容		○			1				○	117(2)	保
	保育者論	○				2		○		○	120(2)	幼
	教育原理	○			2			○			104(2)	幼、保
	保育原理A	○			2			○			104(2)	幼、保
	保育原理B	○			2			○			100(2)	幼、保
	養護原理	○				2		○			104(2)	保
	発達心理学	○			2					○	100(2)	幼、保
	※乳幼児心理学	○				2				○	16(1)	
	※臨床心理学	○				2				○	46(1)	
	教育心理学	○				2			○		104(2)	幼、保
	小児保健A	○			2			○			104(2)	幼、保
	小児保健B	○			2			○			100(2)	幼、保
	小児保健実習			○		1		○			120(3)	保
	小児栄養A		○		1					○	100(3)	幼、保
	小児栄養B		○		1					○	100(3)	幼、保
	精神保健	○			2					○	119(2)	幼、保
	教育課程総論	○				2		○			117(2)	幼
	保育内容総論	○				2		○			104(2)	幼
	健康		○		1			○			120(3)	幼、保
	人間関係		○		1			○			100(3)	幼、保
	環境		○		1			○			123(3)	幼、保
	言葉		○		1			○			104(3)	幼、保
	表現A		○		1			○			101(2)	幼、保
	表現B		○		1			○			122(2)	幼、保
	保育方法演習A		○			1		○			—	幼、開講時期変更
	保育方法演習B		○			1		○			—	幼、開講時期変更
	乳児保育A		○		1					○	104(3)	幼、保
	乳児保育B		○		1			○			100(3)	幼、保
	障害児保育		○			1				○	118(3)	保
	家族援助論	○				2		○			118(2)	保
	幼児音楽A		○		1			○		○	104	幼、保
	幼児音楽B		○		1			○		○	100	幼、保
	幼児音楽基礎演習A		○			1		○			104(3)	
	幼児音楽基礎演習B		○			1		○			94(3)	
	器楽演習A		○			1		○		○	112	
	器楽演習B		○			1		○		○	96	
	幼児体育A		○		1			○			39(3)	幼、保

科目の種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	幼児体育B		○		1			○			82(3)	幼、保
	幼児造形A		○		1			○			104(3)	幼、保
	幼児造形B		○		1			○			100(3)	幼、保
	※生活	○				2				○	19(1)	
	教育相談	○				2		○			116(2)	幼
	総合演習A		○			1		○			121(1)	幼、保
	総合演習B		○			1		○			119(1)	幼、保
	子どもと文化		○			1		○		○	89(3)	
	キッズイングリッシュ		○			1			○		—	平成 21 年度開講
	保育者基礎演習		○			1		○			104(1)	
	教育実習			○		4		○			117	幼
	教育実習研究			○		1		○			117(3)	幼
	保育所実習Ⅰ			○		2		○			120	保
	保育所実習Ⅱ			○		2		○			121	保
	保育実習Ⅲ			○		2		○			0	
	保育所実習研究			○		1		○			119(3)	保
	施設実習			○		2		○			100	保
	施設実習研究			○		1		○			100(2)	保
児童厚生二級指導員	児童の健全育成と福祉	○				1				○	—	平成 21 年度開講
	児童館の機能と運営	○				2				○	—	平成 21 年度開講
	コミュニティワーク演習	○				2				○	—	平成 21 年度開講
	児童館実習			○		1				○	—	平成 21 年度開講

1. () のない科目は個人指導科目 2. ※ 他学科開放科目 3. 幼：幼稚園二種免許必修、保：保育士資格必修

■英語コミュニケーション学科

卒業単位の約 3 割が必修で残りを選択科目としている。英語の基本力をつけると同時に、多様化する学生のニーズに応えるようにしている。平成 21 年度生が選択できるコースとしては、「留学・イマージョンコース」、「英語パフォーミングアーツ・コース」、「児童英語教育コース」、「国際キャリアコース」、「総合英語コース」である。

表 2. 3 英語コミュニケーション学科教育課程

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養科目	国語表現	○				2				○	5(1)	
	日本国憲法	○				2			○		9(1)	
	経済学	○				2				○	33(1)	
	社会学	○				2				○	19(1)	
	心理学	○				2			○		11(1)	
	現代環境論	○				2			○		1(1)	
	社会福祉概論	○				2			○		26(1)	
	情報処理概論	○				2				○	22(1)	
	現代職業論	○				2		○	○		34(1)	
	キャリア開発論	○				2			○	○	24(1)	
	体育講義	○				1				○	9(1)	
	体育実技			○		1				○	19(1)	
	フレッシュャーズセミナー	○				2		○			34(1)	
	地域創生論	○				2			○		27(1)	
	仏語		○			2				○	5(1)	
	中国語		○			2				○	16(1)	
	韓国語		○			2			○		18(1)	
専門科目	オーラル・イングリッシュA		○		2			○		○	34(2)	
	オーラル・イングリッシュB		○		2			○		○	32(2)	
	オーラル・イングリッシュC		○		2			○		○	27(3)	
	オーラル・イングリッシュD		○		2			○		○	25(3)	
	トラベル・イングリッシュ		○		2			○			34(2)	
	※リスニング		○		1			○			34(2)	
	リーディングA		○		2			○			34(2)	
	グラマー&ユースエッジ		○		1			○			34(2)	
	グラマー&ライティング		○		1			○			31(2)	
	※英検演習		○		1			○			34(1)	
	※異文化コミュニケーション論	○			2			○			31(1)	科目等 (1)

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専 門 科 目	OA演習A		○		1					○	34(1)	
	※TOEFL演習		○			1		○			6(1)	
	日本の伝統文化		○			2		○			27(1)	
	※メディア・イングリッシュ		○			2		○			11(1)	
	英語音声学	○				2				○	22(1)	
	※国際文化研究		○			2		○			34(1)	
	英語プレゼンテーション		○			1				○	18(2)	
	オーラル・インタープリテーション		○			1				○	—	平成 21 年度開講
	※ポップ・カルチャー		○			2		○			8(1)	
	イングリッシュ・ドラマA		○			2		○			5(1)	
	イングリッシュ・ドラマB		○			2		○			—	平成 21 年度開講
	※ポピュラー・ソング		○			1		○			24(1)	旧科目名:ポピュラー・ソング A
	※英語学概論	○				2		○			22(1)	
	※児童英語教授法	○				2		○			6(1)	科目等 (1)
	児童英語演習		○			2		○			8(1)	
	※英米文学概論	○				2		○			16(1)	
	リーディングB		○			2		○			27(2)	
	※ビジネス・イングリッシュ		○			2		○			13(1)	
	※TOEIC 演習		○			1		○			23(1)	
	※アカデミック・ライティング		○			2		○			11(2)	
	海外事情A		○			2		○			16(1)	
	※海外事情B		○			2		○			16(1)	
	資格検定A		○			1		○			0	
	資格検定B		○			1		○			0	
	English Skills A		○			1		○			1	
	English Skills B		○			3		○			1	
	English Skills C		○			3		○			1	
	English Skills D		○			3		○			1	
	Field Work		○			3		○			1(1)	
職業関 連科目	キャリア・デザイン	○				2		○			31(1)	
	インターンシップ		○			1		○			22	
	ヒューマン・スキル	○				1		○			—	平成 21 年度開講
ビジネス 実務士	※ビジネス実務総論	○				2		○			22(1)	
	ビジネス実務演習		○			2				○	23(1)	
	OA演習B		○			1				○	29(1)	
	※経営学概論	○				2			○		0	
プレゼン テーション 実務士	※マーケティング論	○				2				○	15(1)	
	※プレゼンテーション概論	○				2		○			17(1)	
	プレゼンテーション演習A		○			2				○	—	平成 21 年度開講
	プレゼンテーション演習B		○			2				○	—	平成 21 年度開講
教職に 関する 科目	プレゼンテーション演習C		○			2				○	—	平成 21 年度開講
	教職概論	○				2			○		8(1)	
	教育原理	○				2				○	14(1)	
	教育心理学	○				2			○		14(1)	
	英語科教育法	○				2		○			8(1)	
	道徳教育の研究	○				1				○	9(1)	
	特別活動の研究	○				2			○		9(1)	
	教育の方法及び技術	○				1			○		9(1)	
	生徒指導の理論と方法	○				2			○		9(1)	
	教育相談	○				2			○		9(1)	
	総合演習		○			2		○	○		9(1)	
	教育実習			○		5		○			9(1)	

1. () のない科目は個人指導科目 2. ※ 他学科開放科目 3. 旧科目名：平成 20 年度までの名称

4. 科目等 () : 科目等履修生 (人数)

■音楽科

多様化する学生のニーズに応じて平成 19 年度までの 7 コースを「演奏コース」(ピアノ・電子オルガン・管弦打楽器・声楽・作曲)、「教養音楽コース」(専門教育・実技を初歩から学べる)、「音楽療法コース」(音楽療法士(2種)のためのコース)の 3 コースにまとめ「フィールド&ユニット」制を採用し、必修科目を少なくすることで、まとまった科目群を選択できるように教育課程を組んでいる。

表2. 4 音楽科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履 修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教 養 科 目	国語表現	○				2				○	23(1)	
	芸術	○				2				○	17(1)	
	日本国憲法	○				2			○		6(1)	
	心理学	○				2				○	25(1)	
	社会福祉概論	○				2			○		21(1)	旧科目名：福祉総論
	情報処理概論	○				2				○	18(1)	
	現代職業論	○				2			○		11(1)	
	体育講義	○				1				○	19(1)	
	体育実技			○		1				○	21(1)	
	フレッシャーズセミナー	○				2		○			25(1)	
	地域創生論	○				2			○		7(1)	
	英語A		○			2				○	22(1)	
	英語B		○			2			○		3(1)	
専 門 科 目	※音楽通論	○			2			○			31(2)	25(1年前期) + 4(1年後期)、科目等1
	※和声学Ⅰ	○			2			○			25(1)	10(1年前期) + 14(1年後期)、科目等1
	※和声学Ⅱ	○			2			○			24(1)	13(1年前期) + 9(1年後期)、科目等2
	和声学Ⅲ	○				2		○			29(1)	14(1年前期) + 9(1年後期)、科目等1
	作編曲法(基礎)	○				2		○			15(1)	
	楽式論	○				2		○			16(1)	
	※音楽史概論A	○			2					○	25(1)	
	※音楽史概論B	○			2					○	24(1)	
	※音楽鑑賞演習	○				1		○			20(1)	
	指揮法	○				2		○			17(1)	旧科目名：指揮学概論
	※ソルフェージュⅠA		○		2			○			26(2)	
	※ソルフェージュⅠB		○		2			○			23(2)	
	※ソルフェージュⅡA		○			1		○		○	23(2)	旧科目名：ソルフェージュⅢ
	※ソルフェージュⅡB		○			1		○		○	14(2)	旧科目名：ソルフェージュⅣ
	ピアノ奏法ⅠA			○		2		○		○	6	
	ピアノ奏法ⅠB			○		2		○		○	5	
	ピアノ奏法ⅡA			○		2		○		○	12	旧科目名：ピアノ奏法Ⅲ
	ピアノ奏法ⅡB			○		2		○		○	11	旧科目名：ピアノ奏法Ⅳ
	電子オルガン奏法ⅠA			○		2		○		○	2	
	電子オルガン奏法ⅠB			○		2		○		○	3	
	電子オルガン奏法ⅡA			○		2		○		○	4	旧科目名：電子オルガン奏法Ⅲ
	電子オルガン奏法ⅡB			○		2		○		○	4	旧科目名：電子オルガン奏法Ⅳ
	管弦打楽器奏法ⅠA			○		2		○		○	8	
	管弦打楽器奏法ⅠB			○		2		○		○	8	
	管弦打楽器奏法ⅡA			○		2		○		○	9	旧科目名：管弦打楽器奏法Ⅲ
	管弦打楽器奏法ⅡB			○		2		○		○	9	旧科目名：管弦打楽器奏法Ⅳ
	声楽唱法ⅠA			○		2		○		○	9	
	声楽唱法ⅠB			○		2		○		○	9	
	声楽唱法ⅡA			○		2		○		○	3	旧科目名：声楽唱法Ⅲ
	声楽唱法ⅡB			○		2		○		○	3	旧科目名：声楽唱法Ⅳ
	作曲ⅠA			○		2		○			0	
	作曲ⅠB			○		2		○			0	
	作曲ⅡA			○		2		○			1	旧科目名：作曲Ⅲ
	作曲ⅡB			○		2		○			1	旧科目名：作曲Ⅳ
	合奏		○			1		○			9(1)	
	※吹奏楽ⅠA		○			1		○		○	13(1)	
	※吹奏楽ⅠB		○			1		○		○	11(1)	
	※吹奏楽ⅡA		○			1		○		○	16(1)	旧科目名：吹奏楽Ⅲ
	※吹奏楽ⅡB		○			1		○		○	16(1)	旧科目名：吹奏楽Ⅳ
	ピアノ音楽研究	○						○			12(1)	
	伴奏法	○				2		○			13(1)	
	電子音楽研究	○				2				○	7(1)	
	ポピュラー音楽研究	○				2				○	7(1)	
	楽器学	○				2		○			11(1)	
	吹奏楽指導法					2		○			6(1)	
	歌曲研究	○				2				○	8(1)	
	オペラ研究					2		○			10(1)	
	※音楽療法概論	○				2		○			19(1)	
	副科ピアノⅠA			○		1		○		○	19	
	副科ピアノⅠB			○		1		○		○	20	
	副科ピアノⅡA			○		1		○		○	16	旧科目名：ピアノⅢ
	副科ピアノⅡB			○		1		○		○	16	旧科目名：ピアノⅣ
	副科電子オルガンⅠA		○			1		○		○	8	旧科目名：電子オルガンⅠ

科目の種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	副科電子オルガンⅠB		○			1		○		○	8	旧科目名：電子オルガンⅡ
	副科電子オルガンⅡA			○		1		○		○	3	
	副科電子オルガンⅡB			○		1		○		○	2	
	副科管弦打楽器ⅠA			○		1		○		○	5	旧科目名：管弦打楽器Ⅰ
	副科管弦打楽器ⅠB			○		1		○		○	4	旧科目名：管弦打楽器Ⅱ
	副科管弦打楽器ⅡA			○		1		○		○	7	旧科目名：管弦打楽器Ⅲ
	副科管弦打楽器ⅡB			○		1		○		○	8	旧科目名：管弦打楽器Ⅳ
	副科声楽ⅠA			○		1		○		○	16	旧科目名：声楽Ⅰ
	副科声楽ⅠB			○		1		○		○	16	旧科目名：声楽Ⅱ
	副科声楽ⅡA			○		1		○		○	26	旧科目名：声楽Ⅲ
	副科声楽ⅡB			○		1		○		○	25	旧科目名：声楽Ⅳ
	※合唱ⅠA		○		1			○		○	25(3)	旧科目名：合唱Ⅰ
	※合唱ⅠB		○		1			○		○	25(3)	旧科目名：合唱Ⅱ
	※合唱ⅡA		○			1		○		○	29(3)	旧科目名：合唱Ⅲ
	※合唱ⅡB		○			1		○		○	20(3)	旧科目名：合唱Ⅳ
音楽療法士(2種)	音楽キャリア演習		○			1		○			22(1)	
	卒業演奏			○	4			○			28(1)	
	医学一般	○			2					○	13(1)	
	公衆衛生学	○			2					○	12(1)	
	看護学	○			2				○		14(1)	
	音楽療法各論A	○				2		○	○		14(1)	
	音楽療法各論B	○				2		○		○	15(1)	
	音楽療法総合演習A		○			1		○			15(1)	科目等 (1)
	音楽療法総合演習B		○			1		○			15(1)	
	音楽療法実習			○		2		○			15(1)	科目等 (1)
教職に関する科目	音楽療法実習研究			○		1		○			15(1)	科目等 (1)
	教職概論	○			2				○		4(1)	
	教育原理	○			2					○	20(1)	
	教育心理学	○			2				○		3(1)	
	音楽科教育法	○			2			○			4(1)	
	道德教育の研究	○			1					○	11(1)	
	特別活動の研究	○			2				○		12(1)	
	教育の方法及び技術	○			1				○		11(1)	
	生徒指導の理論と方法	○			2				○		12(1)	
	教育相談	○			2				○		13(1)	
訪問介護員2級	総合演習		○		2				○		12(1)	
	教育実習			○	5			○			12(1)	
	ヒューマンケアⅠ	○				2			○		7(1)	
	ヒューマンケアⅠ演習		○			2			○		7(1)	
	ヒューマンケアⅠA	○				2			○		7(1)	
	ヒューマンケアⅠB	○				2			○	○	7(1)	
	ヒューマンケアⅠ実習			○		2			○		7(1)	

1. () のない科目は個人指導科目 2. ※ 他学科開放科目 3. 旧科目名：平成20年度までの名称

4. 科目等 () : 科目等履修生 (人数)

■情報ビジネス学科

情報ビジネス学科では、情報処理とビジネスの両分野における専門知識を幅広く学びながら、6種類の実務士等の各種資格検定が取得できるように、選択科目が主流の教育課程を構成している。履修指導に関しては、4つのフィールド（マルチメディア・パソコン利用技術・ビジネス・キャリア）及び各フィールド内のユニットを提示し、ユニット単位での履修により系統的な学習ができるように指導している。

表2. 5 情報ビジネス学科教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養科目	国語表現	○				2				○	65(1)	
	法学概論	○				2		○			50(1)	
	経済学	○				2		○			77(1)	
	社会心理学	○				2			○		42(1)	
	現代環境論	○				2			○		40(1)	

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教養科目	社会福祉概論	○				2			○		62(1)	旧科目名：福祉総論
	数学概論	○				2		○			17(1)	
	現代職業論	○				2		○	○		49(1)	
	キャリア開発論	○				2		○		○	66(1)	
	体育実技			○		1				○	34(1)	
	フレッシュャーズセミナー	○				2		○			72(1)	
	英語A		○			2				○	33(1)	旧科目名：実用英語
	仏語		○			2				○	3(1)	
	韓国語		○			2		○			32(1)	
	中国語		○			2				○	7(1)	
専門科目	※情報処理論	○			2			○			84(1)	
	※通信ネットワーク論	○				2		○			52(1)	
	※コンピュータ科学	○				2		○			—	平成 21 年度開講
	※プログラミング概論	○				2		○			—	平成 21 年度開講
	※プログラミング演習A		○			1		○			—	平成 21 年度開講
	※プログラミング演習B		○			1		○			16(1)	
	※情報処理演習		○			1		○			83(2)	
	※インターネット演習		○			1		○			83(2)	
	※マルチメディア演習A		○			1		○			66(2)	
	※マルチメディア演習B		○			1		○			59(1)	
	※デジタルフォト	○				2		○			66(1)	
	※デジタルフォト演習		○			1		○		○	44(1)	
	※文書処理演習A		○			1		○			80(2)	
	※文書処理演習B		○			1		○			73(2)	
	※ビジネスコンピューティングA		○			1		○			83(2)	
	※ビジネスコンピューティングB		○			1		○			71(2)	
	※データベース演習A		○			1		○			64(2)	
	※データベース演習B		○			1		○			17(1)	
	※コンピュータグラフィックス	○				2				○	69(2)	※※
	※ウェブデザインA	○				2				○	58(2)	旧科目名：ウェブデザインⅠ
	※ウェブデザインB		○			2				○	55(2)	旧科目名：ウェブデザインⅡ
	※ウェブデザイン演習		○			2				○	57(2)	
	※ウェブプログラミング演習		○			2		○			51(2)	
	※統計学概論	○				2		○			—	平成 21 年度開講
	※統計学演習		○			1		○			—	平成 21 年度開講
	※プレゼンテーション概論	○				2		○			58(1)	
	※プレゼンテーション演習A		○			2				○	58(2)	
	※プレゼンテーション演習B		○			2				○	48(2)	
	※プレゼンテーション演習C		○			2				○	45(1)	
	※経営学概論	○			2			○			84(1)	
	※マーケティング	○				2		○			33(1)	
	※経営戦略論	○				2		○			26(1)	
	※現代企業論	○				2		○			20(1)	
	※国際経営論	○				2		○			26(1)	
	※簿記論	○				4		○			78(1)	
	※財務諸表論	○				2		○			53(1)	
	※原価計算論	○				2		○			65(1)	
	※国際会計論	○				2		○			14(1)	
	※パソコン会計		○			1		○			13(1)	
	※簿記演習A		○			1		○			62(1)	
	※簿記演習B		○			1		○			44(1)	
	※消費者行動論	○				2				○	50(1)	
	※ビジネス実務法規	○				2				○	20(1)	
	※ビジネス実務総論Ⅰ	○				2		○			76(1)	
	※ビジネス実務総論Ⅱ	○				2				○	65(1)	
	※ビジネス実務演習Ⅰ		○			2				○	78(2)	
	※ビジネス実務演習Ⅱ		○			2				○	58(2)	
	地域創生学A	○				2		○			69(1)	
	地域創生学B	○				2		○			—	平成 21 年度開講
	キャリアプランニング	○				2		○			84(1)	
	インターンシップ		○			2		○			34(1)	
	ゼミナール		○			4		○			66(6)	
医療管理 秘書士	医療管理学	○				2				○	49(1)	
	医療秘書学	○				2			○		37(1)	
	医療事務総論	○				2			○		37(1)	
	生活と医学	○				2				○	58(1)	
	公衆衛生学	○				2				○	51(1)	

1. ※ 他学科開放科目 2. 旧科目名：平成 20 年度までの名称

3. ※※ 平成 20 年度は、20 年度生 1 年後期と 19 年度生 2 年後期に開講

■専攻科介護福祉専攻

本来、介護福祉士資格取得には2年の修学が必要である。しかし、保育士資格を取得した者は1年の修学で、卒業と同時に介護福祉士資格を取得することができる特例があり、本専攻はこの認定を受けている。したがって介護技術、介護実習指導、介護実習が主体となったカリキュラムとなっている。ほとんどの科目が法令で定められたものであるが、本専攻独自の科目を4科目開設している。具体的には、社会福祉援助技術、医学一般、高齢者の音楽指導、高齢者の健康と運動であり、実践を重視した科目が特徴である。

表2. 6 専攻科介護福祉専攻教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	領域	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	人間と社会 介護	社会の理解	○			2			○			—	平成21年度開講
		介護の基本A	○			2				○	○	—	平成21年度開講
		介護の基本B	○			4			○			—	平成21年度開講
		介護の基本C	○			4			○		○	—	平成21年度開講
		介護の基本D	○			2			○			—	平成21年度開講
		コミュニケーション技術I		○		1			○			—	平成21年度開講
		コミュニケーション技術II		○		1			○			—	平成21年度開講
		生活支援技術A			○	1				○	○	—	平成21年度開講
		生活支援技術B			○	1				○	○	—	平成21年度開講
		生活支援技術C		○		2			○			—	平成21年度開講
		生活支援技術D		○		2			○			—	平成21年度開講
		生活支援技術E		○		2			○			—	平成21年度開講
		生活支援技術F		○		1			○			—	平成21年度開講
		介護過程A	○			2			○			—	平成21年度開講
		介護過程B			○	2			○			—	平成21年度開講
		介護過程C	○			2			○			—	平成21年度開講
		介護総合演習I		○		1			○			—	平成21年度開講
		介護総合演習II		○		1			○			—	平成21年度開講
		介護実習I			○	2			○			—	平成21年度開講
		介護実習II			○	3			○			—	平成21年度開講
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	○			2					○	—	平成21年度開講
		認知症の理解I	○			2			○			—	平成21年度開講
		認知症の理解II	○			2			○			—	平成21年度開講
		障害の理解	○			2			○			—	平成21年度開講
		こころとからだのしくみI	○			2					○	—	平成21年度開講
		こころとからだのしくみII	○			2			○			—	平成21年度開講

巻末に 資料「専攻科介護福祉専攻教育課程 (平成20年5月1日現在)」記載

■専攻科音楽専攻

大学評価・学位授与機構認定の二年制の専攻科として、芸術学士の称号取得が可能であり、専門性の高いカリキュラムを用意している。また、平成19年度より「音楽療法士(1種)」(全国音楽療法士養成協議会)の資格取得も可能になり、多様性に富んだ特色ある教育課程を組んでいる。

表2. 7 専攻科音楽専攻教育課程

(平成21年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	和声学(上級)I	○			4			○			7(1)	
	和声学(上級)II	○				4				○	5(1)	
	対位法	○				4		○			4(1)	

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専 門 科 目	作曲法	○				2				○	7 (1)	
	編曲法	○				2				○	8 (1)	
	楽曲分析Ⅰ	○				4		○			7 (1)	
	楽曲分析Ⅱ	○				4		○			4 (1)	
	ソルフェージュ		○			2		○			7 (1)	
	スコアリーディング		○			2				○	5 (1)	
	音楽学概論	○			2					○	7 (1)	
	音楽史特講	○				2				○	7 (1)	
	近現代音楽史	○				2				○	7 (1)	
	音楽鑑賞法	○				2				○	7 (1)	
	専門研究Ⅰ			○	4			○		○	7 (1)	
	専門研究Ⅱ			○	4			○		○	5 (1)	
	重奏Ⅰ		○			2		○		○	6 (2)	
	重奏Ⅱ		○			2		○		○	4 (2)	
	重唱Ⅰ		○			2				○	1 (1)	
	重唱Ⅱ		○			2				○	1 (1)	
	ピアノⅠ			○		2		○		○	2 (1)	
	ピアノⅡ			○		2		○		○	3 (1)	
	声楽Ⅰ			○		2		○		○	6 (1)	
	声楽Ⅱ			○		2		○		○	4 (1)	
	合唱Ⅰ		○			2		○			7 (3)	
	合唱Ⅱ		○			2		○			5 (3)	
音 楽 療 法 士 (1種)	学内演奏				4			○		○	7 (1)	
	修了演奏				4			○		○	5 (1)	
	音楽療法研究A	○				2				○	3 (1)	
	音楽療法研究B	○				2				○	3 (1)	科目等 ①)
	音楽療法特論	○				2				○	1 (1)	科目等 ②)
	音楽療法の理論と技法	○				2				○	4 (1)	科目等 ①)
	音楽療法グループワークA		○			1		○			1 (1)	科目等 ①)
	音楽療法グループワークB		○			1		○			1 (1)	科目等 ②)
	教職概論	○				2			○		2 (1)	
	生活情報論	○				2				○	3 (1)	
	障害児教育（保育学科開講）	○				2				○	3 (1)	
	臨床心理学	○				2				○	3 (1)	
	社会福祉	○				2			○		3 (1)	
	音楽療法臨床演習		○			1		○			3 (1)	
	音楽療法臨床実習Ⅰ			○		1		○			3 (1)	
	音楽療法臨床実習Ⅱ			○		1		○			1 (1)	

科目等（ ）：科目等履修生（人数）

（2）教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

1) 教養教育の取組み

本学では、短期大学の教養教育でカバーされるべきものとしては、第一に短期大学での学びに必要とされる基礎的な知識であり、第二に現代社会で生きていく上で必要とされる常識やキャリア形成に関する知識—すなわち、情報化社会・国際化社会・地域社会・高齢化社会の認識に関する知識—であるとの観点から下記のような授業科目が、現在、設定されている。教養教育については、専門教育とのバランス、分類、内容、開講方法を含め、平成23年度実施を目標に抜本的改訂を検討中である。

1. 人文・社会科学系科目

国語表現、芸術、法学概論、日本国憲法、経済学、社会学、心理学、社会心理学、社会福祉概論、現代職業論、キャリア開発論、地域創生論

2. 自然科学系科目

情報処理概論、自然科学概論、数学概論、現代環境論

3. 保健体育系科目

体育講義、体育実技

4. 語学系科目

英語A、英語B、仏語、中国語、韓国語

5. 導入教育系科目

フレッシュャーズセミナー

2) 専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等

各学科の専門教育の内容は、それぞれの学科の教育目的と教育目標に合致するように設定されている。目標とする免許・資格取得に必要な科目群が必修科目として多い学科(保育学科)がある一方で、学生の多様な将来の可能性に合わせて複数のコースやフィールド&ユニット制を設け、資格や検定取得をサポートする体制の学科(総合生活学科、英語コミュニケーション学科、音楽科、情報ビジネス学科)がある。後者の学科では必修科目を少なくし、科目選択に関して、学生の選択肢を増やす傾向にある。専任教員の配置は短期大学設置基準に基づいて、学科の専門性を第一に考慮しつつ、他学科の教員とも教育上の連携が可能な形態にしている。以下、各学科の特色を記す。

■総合生活学科

専門科目については52科目(91単位)を用意し、各コースに必要な科目を置いている。必修科目は6科目(12単位)として基本的な科目にとどめ、学生の選択幅を広くしている。その他卒業要件に含まれない科目(資格等取得のための科目)12科目(29単位)を置いている。

■保育学科

卒業要件を満たしながら免許・資格取得をめざす学生にとっては、選択科目でありながら、実質的に必修のものも多い(表2.2)。これによって高い専門性を身につけることができているといえる。授業形態を講義3割、演習5割強、実習2割弱とし、体験を重視したものとしている。

■英語コミュニケーション学科

専門教育の内容は、語学関連の演習科目が中心で、その他、異文化を学ぶ講義、及び語学に関する資格・検定等を取得するための科目等がある。スキルアップした英語力を将来に活かせるよう、5コースを展開している。

■音楽科

専門分野の学習ニーズに対応するために、必修科目を少なく、選択科目を多く配している。専任教員は、専門実技の個人レッスンを担当しつつ、講義科目や演習科目に至るまで幅広く教授している。その結果、各専任教員の科全体への目配りができ、学生と教員の適切な意志疎通が可能となっている。

■情報ビジネス学科

授業形態のバランスは、専門科目では、講義科目と演習科目がほぼ50%ずつとなっており、学科の教育目的から考えてバランスは良いと判断している。また、必修科目を2科目と少なくし、学生達の選択の可能性を最大限にして、最大6種類の実務士取得への柔軟な対応を可能にするとともに、専門力を自らの意欲により高めるようにしている。

■専攻科介護福祉専攻

専攻科での教育は、法令により国が指定した科目が中心で、老人福祉論、老人・障害者の心理、介護概論等の講義系、介護技術、形態別介護技術等の演習系、介護実習等の実習系に分類できる。また、実習の終了時には、実技系の教科にまとめの時間を設けて、効果をあげている。

■専攻科音楽専攻

専門教育については、学位授与の観点から、音楽の各分野を幅広く網羅しており、バランス等についても現状で問題はない。

3) 自由履修制度（CMPーチュウタンマイドリームプログラム）

本学では、5学科を擁する総合短期大学の特長を活かし、全国でも珍しい先進的な試みとして、平成20年度から自由履修制度（CMPーチュウタンマイドリームプログラム）を発足させた。これは、所属学科の開講科目の枠を越えて、一定の範囲内で他学科の開講科目を履修し、卒業単位として認定するものである。各学科が提供する他学科開放科目は、総合生活学科32科目、保育学科3科目、英語コミュニケーション学科19科目、音楽科19科目、情報ビジネス学科47科目であり、履修の際には、マイドリームアドバイザーが個別相談に応じるサポート体制も整えている。なお、卒業単位数として認められる限度は各学科により異なる。

（3）当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

本学では各学科の教育目的に合致する下記の多くの免許や資格等が得られるよう教育課程を用意している。時間数や時間割の制約から2年間に取得できる資格は制限が生じる場合があるので、学生は各自の所属コースや目標に沿って、学科の助言を受け、いくつかを取得することになる。

表2. 8 教育課程その他によって取得可能な免許・資格

学科名 及び 取得可能免許・資格等		
総合生活学科：		
○ ビジネス実務士（※1）	○ 医療管理秘書士受験資格（※4）	
○ フードコーディネーター3級（※2）	○ 介護保険事務管理士受験資格（※7）	
○ 訪問介護員養成研修1級課程修了証書（※3）	○ 社会福祉主事任用資格	
○ 訪問介護員養成研修2級課程修了証書（※3）		
保育学科：		
○ 幼稚園教諭二種免許状	○ 保育士資格	○ 社会福祉主事任用資格
○ 母子指導員任用資格	○ 児童生活支援員任用資格	○ 児童厚生二級指導員
英語コミュニケーション学科：		
○ 中学校教諭二種免許状(英語)	○ 児童英語教育コース修了証	○ 社会福祉主事任用資格
○ ビジネス実務士（※1）	○ 小学校英語指導者資格（※6）	○ プレゼンテーション実務士（※1）
音楽科：		
○ 中学校教諭二種免許状(音楽)	○ 幼稚園教諭二種免許状（※8）	○ 社会福祉主事任用資格
○ 音楽療法士（2種）（※5）	○ 訪問介護員養成研修2級課程修了証書（※3）	
情報ビジネス学科：		
○ 情報処理士（※1）	○ プレゼンテーション実務士（※1）	
○ 上級情報処理士（※1）	○ ウェブデザイン実務士（※1）	
○ ビジネス実務士（※1）	○ 医療管理秘書士受験資格（※4）	
○ 上級ビジネス実務士（※1）	○ 社会福祉主事任用資格	
専攻科介護福祉専攻：		
○ 介護福祉士		
専攻科音楽専攻：		
○ 音楽療法士（1種）（※5）		

（※1）全国大学実務教育協会認定 （※2）日本フードコーディネーター協会認定
 （※3）岡山県指定養成研修事業者 （※4）一般社団法人 医療教育協会 （※5）全国音楽療法士養成協議会称号認定
 （※6）小学校英語指導者資格認定協議会 （※7）（財）日本病院管理教育協会
 （※8）取得希望者は、保育学科の幼稚園教諭二種免許状取得のための開講科目を履修する。

なお、各学科の専門科目の中には、その内容が検定のめざす知識・技能を包含するものもあり、これらの科目受講者には、つぎに示す検定等の受検を支援している。

表 2. 9 教育課程の中で取得を支援する資格・検定

学科名	取得支援検定等
総合生活学科	○消費者力検定 ○ファッションビジネス能力検定 ○色彩検定 ○秘書技能検定 ○簿記検定 ○日商PC検定
英語コミュニケーション学科	○実用英語技能検定 ○TOEIC ○TOEFL ○観光英語検定 ○秘書技能検定
情報ビジネス学科	○初級システムアドミニストレータ試験 ○基本情報処理技術者試験 ○日商文書処理技能検定 3 級、2 級 ○日商簿記検定 3 級、2 級、1 級 ○Microsoft Office Specialist Word ○Microsoft Office Specialist Access ○Microsoft Office Specialist Excel

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

各学期はじめの履修登録時には、各学科の教務委員及び担任が丁寧な履修指導を行っている。すべての学生に配布する学生便覧の学則第 6 章第 2 7 条 卒業等（卒業の要件）、学則別表第 1 ～ 6 及び 1 7 に必修科目と選択科目の別を明示している。また、授業概要の教育課程表 1 ～ 6 にも詳しく示している。

授業科目については、必修科目と選択科目に分かれるが、各学科別に必修科目・単位数と選択科目・単位数が示されている。必修科目以外は自由に選択できることとなっているが、選択必修の科目やさらには、取得希望の資格に必修の科目もあり、選択の余地が限られる場合もある。また、時間割編成の都合上、同時開講となることもあるが、コース別に設定することにより、個々の学生の学習目標の達成には支障のないよう配慮している。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業または修了要件は、2 年以上在籍し（専攻科介護福祉専攻は 1 年以上）、次の表に掲げる単位を修得（学則 2 7 条・4 6 条）していることである。なお単位認定のための試験等を受験するためには、授業料等の完納が必要である。

表 2. 1 0 卒業または修了要件単位数

科 名	教養科目	専門科目		総 計
	選 択	必 修	選 択	
総合生活学科	1 2 以上	1 2	3 2 以上	6 6 以上
保育学科	1 2 以上	3 4	1 1 以上	6 2 以上
英語コミュニケーション学科	1 2 以上	1 9	1 1 以上	6 2 以上
音楽科	1 2 以上	2 0	2 0 以上	6 2 以上
情報ビジネス学科	1 2 以上	4	4 2 以上	6 8 以上
専攻科介護福祉専攻（修了）		5 0		5 0
専攻科音楽専攻（修了）		2 2	2 4 以上	4 6 以上

コースを設けている学科に関しても、コースによる卒業または修了要件が異なることは

ない。履修上のモデルとして提示している。卒業要件は入学時に全員に配布する「学生便覧・授業概要」に明記するとともに、各学期の履修登録時のオリエンテーションで説明し、周知させている。

（６）教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

各学科とも、時代のニーズに対応した教育課程確立を目標に絶えず改善を図っている。

■総合生活学科

現在、ライフクリエイト、フードクリエイト、アパレル・ファッション、ビジネス、ヒューマンケア、医療・介護事務、の６コースを設けている。コース制については柔軟で、時代のニーズに対応したものとなるよう常に学科内で議論をしながら見直しをしている。

■保育学科

教育職員免許法等の制約があり、独自での大幅な見直しはできにくいだが、可能な範囲内で学生の実態や社会のニーズにあった内容を構築し、また、学生による選択の幅を増やすこと等を検討中である。

■英語コミュニケーション学科

学科専門科目編成の基本的な方針は、実践的な英語力の強化と文化の習得の両立をめざすことである。併せて、時代の流れにともなって変化する社会や学生のニーズに臨機応変に応えるべく、毎年、再検討を行い改善している。平成２２年度に、コース制から「フィールド&ユニット」制へ移行する予定である。

■音楽科

平成２０年度にコースを７コースから３コースに変更、「フィールド&ユニット」制を採用、時代のニーズに対応した見直しを行った。今後とも学生のニーズや教育効果のためのカリキュラムやコースの変更、新規の資格導入等の検討を行い、音楽科の教育課程を確立させていきたい。

■情報ビジネス学科

平成２０年度から、それまでのコース制を廃止し、「フィールド&ユニット」制を導入した。「フィールド&ユニット」により、選択科目中心でまた多様な内容を含むカリキュラムが整理され、より効率的な履修が可能となった。今後も２～３年を目安に、学生たちのニーズに合わせて教育課程の見直しを行う予定である。

■専攻科介護福祉専攻

「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正にともない、平成２１年４月よりカリキュラム改訂が行われた。また、養成校に対しても、介護福祉士国家試験が導入されるため、これへの対応にも注力する。

■専攻科音楽専攻

社会や学生のニーズに応えるために平成１９年度より音楽療法士（１種）の取得を可能にし、関連科目を追加した。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

本学は他大学にさきがけ長年に渡り、授業概要を作成し学生に配布してきたところであるが、現行のものは2年間の教育課程を把握させるとともに、履修計画作成の手引きとして活用させている。この授業概要には①授業の目標と概要、②授業計画・評価の方法、③受講の心得、④使用テキスト・参考書等を記載している。なお、平成22年度以降は教養科目に限って、学生達が授業内容を理解しやすいように、授業の内容を示すサブタイトルをシラバスに記載することを検討中である。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

大学の大衆化、さらに全入の時代と言われる今日にあって、本学の大部分の学生達の学業への意欲、ひいては履修態度等は、おおむね良好と認識されている。将来の目標に向かって日々努力し、授業概要で示された勉学のレベルに到達するべく励む学生が多い。しかし、いずれの学科においても少数ではあるが、基礎学力の欠如、無気力、もしくは学業以外のことに関心が移り、学業に身が入らない者もいるのも事実である。

各学科ともそれぞれに学科を挙げて、真摯な指導をしている。問題になるような学生には自律と自己責任の精神の錬磨を主眼に個々にきめ細かく対処し、休学や退学に結びつかないように努力している。また、複数の学科では、欠席の多い学生については、保護者に警告書の郵送や電話等で連絡し、注意を喚起し、家庭での指導も要請している。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成19・20年度は、必修・選択の区別なく原則としてすべての開講科目で授業評価アンケートを実施した。ただし、履修者が5名以下の科目、オムニバス形式で教員一人当たりの担当時間数が少ない科目や学外実習科目等は実施対象から外し、通年科目は後期のみ実施することとした。

科目別(担当者別)、科別、学年別、必修・選択別等に集計を行っているが、ここでは、前期・後期に分けて中国短期大学(専攻科を含む)全体の概要を記載する。全体的に見て、授業に対する学生の満足度は高いと見受けられる。

表2. 11 授業評価アンケート実施概要(全体)

(平成20年度)

期 別	当該期開講科目数	アンケート実施科目数	アンケート回収科目数	アンケート回収率
前 期	225	211	190	84.4%
後 期	234	202	174	86.1%

※履修者5名以下の科目と学外実習科目は除く。通年科目については後期のみ実施。

【設問ごとのアンケート集計結果(全体)】

評価区分については、アンケート用紙には以下のように表記している。

表 2. 1 2 アンケート項目

5	そう思う (非常に良い)
4	どちらかといえばそう思う (良い)
3	どちらともいえない (普通)
2	どちらかといえばそう思わない (あまり良くない)
1	そう思わない (良くない)

Q 1 あなたは、授業概要 (シラバス) をよく読んで授業を受けましたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	605人 (7. 7%)	1, 448人 (18. 4%)	3, 380人 (43. 0%)	1, 265人 (16. 1%)	1, 151人 (14. 7%)	4人 (0. 1%)	7, 853人	2. 88
後期	902人 (12. 7%)	1, 632人 (22. 9%)	3, 041人 (42. 7%)	682人 (9. 6%)	840人 (11. 8%)	20人 (0. 3%)	7, 177人	3. 15

Q 2 授業概要 (シラバス) は、あなたの学習にとって役立ちましたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	669人 (8. 5%)	1, 587人 (20. 2%)	3, 505人 (44. 6%)	1, 160人 (14. 8%)	926人 (11. 8%)	6人 (0. 1%)	7, 853人	2. 99
後期	931人 (13. 1%)	1, 796人 (25. 2%)	3, 022人 (42. 5%)	672人 (9. 4%)	675人 (9. 5%)	21人 (0. 3%)	7, 117人	3. 23

Q 3 あなたの授業態度 (出席状況・私語等) は、よかったですか。

	5	4	3	2	5	未回答	総数	平均値
前期	2, 089人 (26. 6%)	2, 823人 (35. 9%)	2, 509人 (31. 9%)	302人 (3. 8%)	114人 (1. 5%)	16人 (0. 2%)	7, 853人	3. 83
後期	2, 092人 (29. 4%)	2, 470人 (34. 7%)	2, 297人 (32. 3%)	177人 (2. 5%)	55人 (0. 8%)	26人 (0. 4%)	7, 117人	3. 90

Q 4 授業を進めるにあたって、教科書・参考書・配布プリント等の配慮は十分でしたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2, 287人 (29. 1%)	2, 711人 (34. 5%)	2, 444人 (31. 1%)	293人 (3. 7%)	99人 (1. 3%)	19人 (0. 2%)	7, 853人	3. 87
後期	2, 218人 (31. 2%)	2, 620人 (36. 8%)	1, 988人 (27. 9%)	217人 (3. 0%)	51人 (0. 7%)	23人 (0. 3%)	7, 117人	3. 95

Q 5 授業の進度は、あなたにとって適切でしたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2, 151人 (27. 4%)	2, 612人 (33. 3%)	2, 426人 (30. 9%)	538人 (6. 9%)	114人 (1. 5%)	12人 (0. 2%)	7, 853人	3. 78
後期	2, 102人 (29. 5%)	2, 589人 (36. 4%)	1, 988人 (27. 9%)	344人 (4. 8%)	75人 (1. 1%)	19人 (0. 3%)	7, 117人	3. 89

Q 6 授業において、板書・プリント・プロジェクター・ビデオ等の使い方は適切でしたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2, 120人 (27. 0%)	2, 363人 (30. 1%)	2, 697人 (34. 3%)	505人 (6. 4%)	127人 (1. 6%)	41人 (0. 5%)	7, 853人	3. 75
後期	2, 048人 (28. 8%)	2, 362人 (33. 2%)	2, 193人 (30. 8%)	364人 (5. 1%)	109人 (1. 5%)	41人 (0. 6%)	7, 117人	3. 83

Q 7 話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2, 477人 (31. 5%)	2, 539人 (32. 3%)	2, 171人 (27. 6%)	496人 (6. 3%)	156人 (2. 0%)	14人 (0. 2%)	7, 853人	3. 85
後期	2, 446人 (34. 4%)	2, 370人 (33. 3%)	1, 801人 (25. 3%)	358人 (5. 0%)	120人 (1. 7%)	22人 (0. 3%)	7, 117人	3. 94

Q 8 授業中、学生の参加（質疑応答・意見交換等）が、配慮されましたか。
また、学生の質問や発言に丁寧に対応していましたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,427人 (30.9%)	2,519人 (32.1%)	2,474人 (31.5%)	316人 (4.0%)	106人 (1.3%)	11人 (0.1%)	7,853人	3.87
後期	2,378人 (33.4%)	2,430人 (34.1%)	1,964人 (27.6%)	234人 (3.3%)	89人 (1.3%)	22人 (0.3%)	7,117人	3.95

Q 9 授業の進行に妨げになるような行為に対して教員は配慮しましたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,258人 (28.8%)	2,549人 (32.5%)	2,618人 (33.3%)	305人 (3.9%)	111人 (1.4%)	12人 (0.2%)	7,853人	3.83
後期	2,214人 (31.1%)	2,449人 (34.4%)	2,133人 (30.0%)	233人 (3.3%)	62人 (0.9%)	26人 (0.4%)	7,117人	3.92

Q 10 授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,070人 (26.4%)	2,567人 (32.7%)	2,331人 (29.7%)	649人 (8.3%)	224人 (2.9%)	12人 (0.2%)	7,853人	3.72
後期	2,117人 (29.7%)	2,451人 (34.4%)	1,929人 (27.1%)	467人 (6.6%)	130人 (1.8%)	23人 (0.3%)	7,117人	3.84

Q 11 授業の内容は、あなたにとって興味あるものでしたか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,385人 (30.4%)	2,458人 (31.3%)	2,271人 (28.9%)	506人 (6.4%)	223人 (2.8%)	10人 (0.1%)	7,853人	3.80
後期	2,426人 (34.1%)	2,343人 (32.9%)	1,850人 (26.0%)	346人 (4.9%)	128人 (1.8%)	24人 (0.3%)	7,117人	3.93

Q 12 あなたは、この授業で新しい知識や技術が身についたと思いますか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,518人 (32.1%)	2,735人 (34.8%)	2,055人 (26.2%)	357人 (4.5%)	175人 (2.2%)	13人 (0.2%)	7,853人	3.90
後期	2,489人 (35.0%)	2,548人 (35.8%)	1,699人 (23.9%)	266人 (3.7%)	96人 (1.3%)	19人 (0.3%)	7,117人	4.00

Q 13 あなたはこの授業を全体的にどのように評価しますか。

	5	4	3	2	1	未回答	総数	平均値
前期	2,333人 (29.7%)	2,883人 (36.7%)	2,186人 (27.8%)	333人 (4.2%)	109人 (1.4%)	9人 (0.1%)	7,853人	3.89
後期	2,384人 (33.5%)	2,598人 (36.5%)	1,790人 (25.2%)	242人 (3.4%)	82人 (1.2%)	21人 (0.3%)	7,117人	3.98

（２）短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

平成19年度よりFD委員会を設置し、FDに関し活発な協議を重ね、多方面から取り組んだ。平成20年度はつぎの活動を行った。

- 1) 学生による授業評価アンケートの実施（年2回）
- 2) 学内公開授業の実施（年2回）
- 3) 卒業生へのアンケート実施
- 4) FD研修会の実施

FD活動は、年々、組織的かつ広範囲に実施され、その結果は本学全体の授業改善に反映されている。学生による授業評価は集計後、学長の検閲を経て担当教員に返却され、授業改善に役立っている。また、学内公開授業での授業参観を通じて、参加した教育職員はそれぞれの授業技術を参考にするとともに、意見書を提出し授業担当者に授業改善へのアドバイスを行っている。また、卒業生による本学の教育への評価に関して、平成20年8月に平成19年度卒業生を対象として、初めて全学科の卒業生アンケートを実施した。卒業半年後、学生時代への振り返りとして貴重な意見があったと判断している。

FD研修会について、平成20年度は外部講師を招き、中国学園大学の教職員と合同でワークショップを以下のように実施した。講師の全体プレゼンテーションや学科単位の自主活動を通じて、授業改善の指針や教育活動全般に関する知見を得る事ができ、有益であった。

表2.13 平成20年度FD研修状況

	研修会の演題(日時)	講 師	内 容
教員及び管理職の 事務職員全員	組織のFDニーズの把握 (平成21年2月18日)	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長 佐藤浩章准教授	ワークショップ: 1. FDの定義、種類と問題点 2. ニーズ把握の意義と方法 3. ワークとプレゼンテーション

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

各教員が担当する科目の教授内容については、授業概要で紹介している。生活系、保育系、英語系、音楽系、情報系等複数の専任教員が担当する科目やグレード制の科目については、教育効果、学生の実情、取得資格等を考慮して授業内容について調整の必要があり、担当教員の意見をもとに学科内会議等で時間をかけて慎重に協議し、教務委員会等への説明・報告や授業概要等への記載により、共通認識を深めるよう努めている。兼任講師の担当科目についても、教育効果、学生の実情、取得資格等を考慮して授業内容について予め依頼する場合もある。

また学生については、履修態度等（良い場合も問題がある場合も）について学科内会議で互いに話題提供をして情報交換を行い、連携した指導ができるようにしている。特に学生の欠席状況、履修態度等に問題が生じた場合は、担任に教科担当が報告をし、担任から必要に応じて本人への指導を行い、直近の学科内会議で報告をしている。また必要に応じ全教員で対応策を協議する場合もある。学生に対しては公平に、また、問題のある学生については全教員が共通した対応ができるよう配慮している。他学科の教員の授業科目の調整については教務委員が中心となり、担当教員や学科内からの意見をもとに学科内で充分議論し、その結果を担当教員と協議しながら教務委員会や授業概要に反映させている。担当教員に対しては学期始めに欠席が一定以上になった学生の報告を依頼し、また教科等のことで連絡があった場合には報告を受けた教員が学科内会議で報告を行う等、極めてきめ細かい対応を行っている学科もある。兼任講師の担当科目で学生等に問題が生じた場合は、できるだけ担任や教務委員、学科長等が出向き、話し合いをする努力をしている。その結果についても必要なことは学科内会議で報告を行い、共通認識を持つよう努力をしている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

1) 単位互換制度

平成16年4月よりスタートした中国学園大学（現代生活学部人間栄養学科）との間の単位互換制度があるが、本学からの利用実績はない。

平成8年4月放送大学との間に単位互換協定を締結した。当初、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」（ラジオ科目）の履修があったが、難易度が高いため、この制度の利用を取りやめた。それにともない、本学で「中国語」を開講し、現在に至っている。

2) 習熟度別授業

習熟度別授業については、各学科とも程度と形式の差こそあれ実施している。目的は、本学入学時までの学習状況による格差の解消、及び学生個々人のさらなる実力伸長である。

実技の課題に差をつける学科（**総合生活学科**）、「幼児音楽基礎演習A／B」にグレード制を採用する学科（**保育学科**）、音楽系科目のレッスンをすべて個人レッスンで実施する学科（**音楽科**）、少人数体制のため、全ての科目において習熟度授業が可能な**専攻科（音楽専攻）**等の他に、以下の学科では、特色ある構成を持っている。

■英語コミュニケーション学科

英会話・読解・文法・聴解等の演習形態の専門科目12科目（必修10科目、選択2科目）にグレード制を適用（英会話クラスは2または3グレード、その他は2グレード）している。クラス分けは、プレイスメントテストの結果等に基づき、半期毎に見直している。

■音楽科

「音楽通論」、「ソルフェージュ（聴音）ⅠA／ⅡB」と「ソルフェージュ（視唱）ⅡA／ⅡB」の5科目で、いずれも個人に合わせた習熟が可能となっており、前期の習熟度によっては後期にクラスを変更することもできる。その他、器楽や声楽は全て個人レッスンを行い、2年次の5月に開催される学内演奏会において、1年次に習得した技術を演奏会形式で発表して習熟度を高めている。

■情報ビジネス学科

検定・資格関連の演習科目を中心に、授業科目名にA・B・Cのランクをつけた習熟度別科目を用意している。また、学科が指定した検定・資格を取得した場合は、取得費用の一部を学科が負担するという奨励制度を導入している。

3) 情報・メディア教育

現代社会で必要とされるICT能力を養成する情報・メディア教育に関しては、各学科・専攻科において、専門性と関連づけて連動して実施されている。本学では、学内の情報処理センターとの連携により、この方面は充実しており、情報に関する知識と機器操作の基本は全学生に習得させている。インターネットによる情報検索、パワーポイントを利用したプレゼンテーション等に始まり、特に**情報ビジネス学科**ではWebを活用した授業に積極的に取り組んでいる。パソコンの演習科目ではWebを有効利用し、教育効果を高める

工夫をしている。

4) 国際理解教育

全学的には特に行ってないが、各学科それぞれの状況に応じ、国際理解のチャンスを出している。特に**英語コミュニケーション学科**は学科の専門性から、海外研修制度を設け、「海外事情A／B」「異文化コミュニケーション論」等の異文化理解を深める科目を開講している。**総合生活学科**、**音楽科**では海外研修旅行を実施し、外国の文化に触れるとともに、国際理解のチャンスを作っている。時に中国学園大学と協力して海外の研究者や文化人を招き講演会を開く等、学生相互の交流を図る機会を出している。

5) 海外研修制度

大学全体では特に組織的には行ってないが、**英語コミュニケーション学科**においては、4週間の短期留学（ホームステイ研修）とセメスター留学の2つのプログラムをカナダで実施し、大きな成果をあげている。短期留学は、提携校であるダグラスカレッジで実施され、午前中のESLクラス、日本語を学ぶ学生とのバイリンガル・クラス、フィールドトリップ、ワークショップ、ボランティア活動等のプログラムが充実している。参加者には、「海外事情A／B」の2科目4単位が認定される。セメスター留学は、2年次後期にダグラスカレッジと姉妹校のバンクーバー・コミュニティ・カレッジで、4ヶ月または5ヶ月実施される。参加者には「English Skills A/B/C/D」「Field Work」の5科目、15単位が認定されるので、2年間で卒業が可能である。

6) インターンシップ

本学でのインターンシップについては、大別して2つある。1つは各学科独自に企業と連携して行うもので、他の1つは岡山県経営者協会を介してのインターンシップである。

岡山県経営者協会を介してのインターンシップは、岡山県経営者協会が岡山県内の各大学に呼びかけて平成15年度からスタートしたもので、**英語コミュニケーション学科**と**情報ビジネス学科**が単位化している。インターンシップ受け入れの企業を対象に、まず学内で希望者を募り、企業との面談を行い、受け入れの決まった学生が、主として夏期休業中にインターンシップに行くというシステムである。その後、インターンシップ体験発表会も行われる。この制度により、平成18年度は11名、平成19年度は17名、平成20年度は18名の学生がインターンシップを行い、大きな成果をあげている。

総合生活学科では、早くから学外実習や見学等を取り入れ、実際の社会を体験的に理解させる努力をしている。「生活産業実習」、「ヒューマン・ケアⅠ実習」等で学外の企業、福祉施設等の見学、体験学習を実施している。学生の自主的なアルバイトを実習プログラムの中に取り込んだ試みは全国で注目を浴びたが、9年間の実績を重ね、効果をあげている。

情報ビジネス学科では、短期型のものだけでなく、チボリ公園と連携した長期型のインターンシップを導入し、職業意識を高め、早期退職等の問題を減少させるような努力を試行錯誤的にではあるが進めている。なお、チボリ公園との連携は平成20年度末で終了した。

保育学科では、資格・免許取得の要件ではあるが、施設実習・保育所実習・幼稚園実習の意味を真剣に理解させ、準備に始まって、事前訪問、実習指導等を通じてより成果があらうように努力している。

英語コミュニケーション学科では、中学校教諭二種免許状（英語）のための教育実習や、小

学校英語指導者資格のための指導経験活動を実施している。**音楽科**でも、中学校教諭二種免許状（音楽）取得のため、教育実習を実施している。また音楽療法において福祉施設や養護学校等の見学や学外実習を実施している。

7) 介護福祉士国家試験受験対策講座実施

専攻科介護福祉専攻では、毎年2月に日本介護福祉士養成協会が実施する全国一斉共通テスト（介護福祉士国家試験準備用）をめざし、レベルアップのための受験対策講座を実施している。15教科中、学内教員が中心となって、ほぼ全教科の試験対策授業を実施し、全体の試験問題の正答率が60%以上になるように全教員が力を注ぎ、ほぼ100%合格している。

（2）特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈添付資料〉
1. 中国学園大学・中国短期大学案内2010 p. 24
 2. 平成21年度学生便覧・授業概要 pp. 4～7、13～57
 3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集
（「中国短期大学FD委員会規程」：印刷中）

- 〈参考資料〉
4. 平成20年度「学生による授業評価アンケート」（質問票及び集計結果一覧）

《Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数の表を作成して下さい。

中国短期大学の専任教員数は次表のとおりである。

表 3. 1 専任教員表

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

学科名	専任教員数				設置基準数		助手	[ハ]	備考
	教授	准教授	講師	計	[イ]	[ロ]			
総合生活学科	4	1	2	7	5 (2)	—			家政関係
保育学科	7	3	3	13	8 (3)	—			教育学・保育学関係
英語コミュニケーション学科	3	2	1	6	5 (2)	—			文学関係
音楽科	2	1	3	6	5 (2)	—			音楽関係
情報ビジネス学科	3	3	1	7	7 (3)	—			経済学関係
(小 計)	19	10	10	39	30 (12)	—			
[ロ]					—	5 (2)			
(合 計)	19	10	10	39	30 (12)	5 (2)			

※設置基準数の()は教授の内数である。学長は含まない。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

1) 教員採用、昇任・昇格

教員の採用については、原則として本学教育職員人事委員会規程に基づく人事委員会(学長及び専任教授で構成)で採用の必要性を協議し、その是非を決める。採用に当たっては原則として、学長が人事委員会メンバーの中から3名の選考委員を指名し、選考委員は、短期大学設置基準に準拠して制定した教育職員任用資格基準(本学規程)等をもとに、学長と協議しながら、論文、学会活動等の研究実績、教育歴、社会活動、大学への貢献度、勤務歴等を書面及び面接等を通して審査する。選考委員会の調査書をもとに人事委員会で投票により決定した上で、理事会の承認を得て、正式に採用となる。昇任・昇格についても同様の手続を経て行われる。平成20年度は3回の人事委員会を開催した。

2) 採用情報の周知方法

原則として、JREC-IN研究者人材データベース(独立行政法人科学技術振興機構所管)を活用して、全国公募を行っている。併せて、関連の教育機関、研究所、企業や学会誌等へ依頼している。なお、特殊な専門分野の教員の採用や公募に必要な時間がない場合には、公募の手続を取らないこともある。

(4) 教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

中国短期大学の専任教員年齢構成表は次表のとおりである。

表3. 2 専任教員等の年齢構成表 (短期大学全体で作成)

(年齢は平成21年4月1日現在)

区分	年齢毎の専任教員数(講師以上)							助手等の 平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数 (39人)	0	12	10	9	8	0	52.2	該当者無し	
割合(%)	(0.0)	(30.8)	(25.6)	(23.1)	(20.5)	(0.0)			

学長は含まない。

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

(a) 授 業

本学の教員は、日々の授業に真摯に取り組む、授業研究を積み重ねつつ、現代の社会が必要としている人材の教育にあたっている。教科の内容等に応じて、少人数クラスや実習等もきめ細かく指導をしており、資格・検定取得等の指導も授業時間内外にも実施している。教員は全員が設定している週1回(90分)以上のオフィスアワーに限らず、授業時以外の全ての時間帯において、学科内外の学生に対するきめ細かい指導もしている。また、学内公開授業、授業評価アンケート、FD研修等で授業技術の向上を図っている。

本学専任教員の週当たり持ちコマ数は次表のとおりである。なお、本学では、1コマは90分としている。

表3. 3 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の本学専任教員の週当たり持ちコマ数

科名	氏名	資格	平成18年度			平成19年度			平成20年度			平均担当コマ数		
			本科	専・四大	計	本科	専・四大	計	本科	専・四大	計	本科	専・四大	計
総合生活学科	大藤 吉雄	教 授	5.0	0.6	5.6	4.1	0.6	4.7	4.6	1.0	5.6	4.6	0.7	5.3
	斎藤美加子	教 授	3.8	0.5	4.3	4.1	0.5	4.6	4.1	0.5	4.6	4.0	0.5	4.5
	宇野 保子	教 授	5.0	1.3	6.3	5.2	0.5	5.7	4.1	0.5	4.6	4.8	0.8	5.5
	高木 貞治	教 授	—	—	—	—	—	—	3.6	0.0	3.6	3.6	0.0	3.6
	寺山 節子	准教授	5.5	0.0	5.5	6.0	0.0	6.0	6.5	0.0	6.5	6.0	0.0	6.0
	林 真愉美	講 師	5.9	0.0	5.9	6.3	0.0	6.3	7.4	0.0	7.4	6.5	0.0	6.5
	高木 亮	講 師	—	—	—	—	—	—	3.6	1.0	4.6	3.6	1.0	4.6
保育学科	森元真紀子	教 授	6.0	1.0	7.0	10.0	2.0	12.0	5.5	1.0	6.5	7.2	1.3	8.5
	曾我部 司	教 授	6.4	0.0	6.4	6.5	0.0	6.5	7.4	0.0	7.4	6.8	0.0	6.8
	谷本 満江	教 授	6.3	0.5	6.8	4.5	0.5	5.0	5.3	0.5	5.8	5.4	0.5	5.9
	国貞 忠克	教 授	4.5	0.5	5.0	4.0	2.0	6.0	4.5	1.0	5.5	4.3	1.2	5.5
	近藤 信子	教 授	7.3	0.0	7.3	6.5	0.0	6.5	6.3	0.0	6.3	6.7	0.0	6.7
	土谷由美子	教 授	6.1	0.5	6.6	6.7	0.5	7.2	7.5	0.5	8.0	6.8	0.5	7.3

科名	氏名	資格	平成18年度			平成19年度			平成20年度			平均担当コマ数		
			本科	専・四大	計	本科	専・四大	計	本科	専・四大	計	本科	専・四大	計
保 育 学 科	川上 道子	教 授	0.9	4.0	4.9	1.0	4.0	5.0	2.0	5.3	7.3	1.3	4.4	5.7
	松井 圭三	准教授	—	—	—	5.0	2.1	7.1	5.8	1.6	7.4	5.4	1.9	7.3
	松井 みさ	准教授	5.0	2.0	7.0	5.7	2.0	7.7	5.5	2.0	7.5	5.4	2.0	7.4
	原田 眞澄	准教授	6.5	0.5	7.0	5.5	1.5	7.0	6.5	1.5	8.0	6.2	1.2	7.3
	小 倉 毅	講 師	1.8	3.5	5.3	0.6	4.0	4.6	2.5	3.8	6.3	1.6	3.8	5.4
	大橋美佐子	講 師	5.0	0.0	5.0	7.0	0.0	7.0	6.5	0.0	6.5	6.2	0.0	6.2
	小野 順子	講 師	—	—	—	—	—	—	9.0	0.0	9.0	9.0	0.0	9.0
ケ ー シ ョ ン 学 科 英語コミュニケーション	垣見 益子	教 授	7.1	0.0	7.1	5.3	1.0	6.3	5.8	0.0	5.8	6.1	0.3	6.4
	橋内 幸子	教 授	5.0	1.0	6.0	5.0	1.0	6.0	5.5	1.0	6.5	5.2	1.0	6.2
	名合 智子	教 授	2.5	1.0	3.5	2.5	1.0	3.5	2.5	1.0	3.5	2.5	1.0	3.5
	佐生 武彦	准教授	5.6	1.0	6.6	6.1	1.0	7.1	6.6	1.1	7.7	6.1	1.0	7.1
	大橋 典晶	准教授	4.0	1.0	5.0	6.0	0.0	6.0	6.5	1.0	7.5	5.5	0.7	6.2
	R. J. Lemmer	講 師	6.5	1.0	7.5	6.5	1.0	7.5	6.5	3.5	10.0	6.5	1.8	8.3
音 楽 科	日高 好一	教 授	4.4	3.8	8.2	4.8	3.4	8.2	7.0	2.5	9.5	5.4	3.2	8.6
	青木 省三	教 授	4.3	8.0	12.3	4.5	4.0	8.5	4.5	4.0	8.5	4.4	5.3	9.8
	大山佐知子	准教授	7.0	0.7	7.7	7.6	0.6	8.2	7.0	1.0	8.0	7.2	0.8	8.0
	河田 健二	講 師	6.8	1.0	7.8	7.1	1.0	8.1	8.3	1.0	9.3	7.4	1.0	8.4
	三川 美幸	講 師	2.8	0.0	2.8	6.7	0.5	7.2	6.6	1.5	8.1	5.4	0.7	6.0
	笠井 裕正	講 師	—	—	—	6.1	1.5	7.6	6.1	1.0	7.1	6.1	1.3	7.4
情 報 ビ ジ ネ ス 学 科	福 森 護	教 授	5.8	0.0	5.8	7.8	0.0	7.8	7.3	0.5	7.8	7.0	0.2	7.1
	澤津 久司	教 授	5.2	1.1	6.3	5.2	1.1	6.3	4.6	1.1	5.7	5.0	1.1	6.1
	飯田 哲司	教 授	—	—	—	0.8	0.0	0.8	4.3	0.0	4.3	2.6	0.0	2.6
	橋本 和久	准教授	7.1	0.0	7.1	6.6	0.0	6.6	7.0	0.0	7.0	6.9	0.0	6.9
	宋 娘 沃	准教授	5.6	0.0	5.6	6.1	0.0	6.1	6.0	0.0	6.0	5.9	0.0	5.9
	奥村 英則	准教授	7.1	1.5	8.6	6.8	1.5	8.3	5.4	1.6	7.0	6.4	1.5	8.0
	古谷 俊爾	講 師	7.1	0.0	7.1	8.1	0.0	8.1	7.0	0.0	7.0	7.4	0.0	7.4
平均コマ数			5.3	1.1	6.4	5.5	1.1	6.6	5.7	1.1	6.8	5.5	1.1	6.6

平均コマ数 6.6

※ 1. 専・四大は本学専攻科及び中国学園大学での持ちコマ数を示す。2. 小数点二位以下は切り捨て。

学内の取り決めとしては、再任の教員は4コマ、それ以外は7コマを基準としている。

(b) 研 究

教員の研究実績に関しては、VIに記載している。

(c) 学生指導

各学科は、クラス担任及び副担任を設け、学習態度や問題(欠席、休学、退学等)に至る学生生活全般や進路等について相談・指導にあたり、学科内会議等で情報交換と指導の検討をしている。学生指導については、各種委員会、特に学生生活委員会や就職支援委員会等と連携して指導している。

(d) その他教育研究上の業務

教員は、学園全体の行事(学園祭や体育祭等)や海外研修旅行の引率等の学生指導、また、高大連携業務、地域連携事業(公開講座等)等に積極的に取り組んでいる。

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

教員が教育研究や学生指導に専念できるよう、各学科に事務職員を配置し、学科におけ

る事務処理や学生窓口としての業務にあたっている。事務職員数は、臨時職員、派遣社員を含め、総合生活学科2名、保育学科2名、英語コミュニケーション学科1名、音楽科1名(兼務)、情報ビジネス学科1名の計6名である。

また、特定の実習科目については、教員の補助者を臨時的に採用している。

なお、講義、演習室等のIT機器、OA機器の調整・保守を行うため、情報処理センターに技術職員を配置している。

(7) 2以上の校地(校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外)において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

なし。

【教育環境について】

(1)校舎・校地一覧表を作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条(通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む)の規程による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお、主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

校舎・校地面積は次表のとおりである。

表3. 4 校舎・校地一覧表

(平成21年5月1日現在)

区 分	収容定員	校 舎			校 地		
		基準面積	現有面積	差 異	基準面積	現有面積	差 異
中国短期大学	740人	7,750㎡	26,697㎡	12,199㎡	7,400㎡	41,919㎡	28,239㎡
中国学園大学	628人	6,748㎡	短期大学と共用		6,280㎡	短期大学と共用	
計	1,368人	14,498㎡	26,697㎡	12,199㎡	13,680㎡	41,919㎡	28,239㎡

(2)校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

校舎の基準面積は以下のとおりである。

1)短期大学全体の基準校舎面積 7,750㎡

①設置基準第31条別表第二のイ

教育学・保育学関係収容定員200人までの基準校舎面積 2,350㎡

②設置基準第31条別表第二のロ

文学関係収容定員200人までの加算校舎面積 1,300㎡

③設置基準第31条別表第二のロ

経済学関係収容定員200人までの加算校舎面積 1,300㎡

④設置基準第31条別表第二のロ

家政関係収容定員200人までの加算校舎面積 1,550 m²

⑤設置基準第31条別表第二のロ

音楽関係収容定員200人までの加算校舎面積 1,250 m²

2) 他の学校（中国学園大学）の校舎基準面積 6,748 m²

①設置基準第37条別表第三のイ

家政関係収容定員400人までの基準校舎面積 4,600 m²

②設置基準第31条別表第三のハ

教育学・保育学関係収容定員400人までの基準校舎面積 2,148 m²

以上のように、設置基準の基準面積の条件を満たし、なおかつ時間割や行事の時間配分、場所の区分けには支障がないように留意しているので現在のところ問題はない。

（3）教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

1) 整備状況

情報機器を設置する教室は表のとおりである（すべての教室は中国学園大学との共用）。また授業時間外や空き時間には学生の自習室として開放し、平日9時から19時まで学生が自由に利用できる環境にある。また、語学教育用にはLL教室とマルチメディア演習室があるが、以下の表のK-304演習室にもCALLシステムが装備されている。

学内LANについては、ほぼすべての一般講義室と全教員の研究室に敷設済みであり、教員用学内掲示板を始め電子メール、インターネットが利用可能となっている。また、学生に対してもメールアドレスを付与し、学内はもちろん学外からも利用可能となっている。さらに無線LANアクセスポイントを整備し、公衆無線LAN及び学内LANが図書館、学生ホール等一部のエリアで利用可能となっている。

表3.5 情報機器を設置する教室等

建物名	教室名		学生用台数・PC数	仕様・機種
2号館	2301	LL教室	70	Nationalラーニング・ラボラトリー・システム WE-7800
	2304	マルチメディア 演習室	30 (プリンタ数 2)	SONY CALLシステム (LLC-2000MH、LU-2000H、 LU-2000P、LU-2000V、VPL-S600J) Microsoft Windows 98
11号館	K-205	情報処理演習室	52 (プリンタ数 8)	NEC Mate TYPE-ME Microsoft Windows Vista Microsoft Office 2007 Adobe Illustrator Adobe Photoshop Elements Adobe Premiere Elements Macromedia FlashMX IBM ホームページビルダー
	K-303	情報処理演習室	51 (プリンタ数 8)	NEC Mate TYPE-ME Microsoft Windows XP Microsoft Office 2007 Adobe Photoshop Elements Adobe Premiere Elements
	K-304	情報処理演習室	52 (プリンタ数 10)	NEC Mate TYPE-ME Microsoft Windows Vista Microsoft Office 2007 Victor CALLシステム WeLL

2)使用状況

平成20年度における各教室の教室使用状況は、表3.6のとおりである。

表3.6 平成20年度教室使用状況(授業コマ数・中国短期大学のみ)

教室名		前期	後期	教室名		前期	後期
K205	情報処理演習室	11	16	2301	LL教室	6	6
K303	情報処理演習室	14	7	2304	マルチメディア演習室	1	4
K304	情報処理演習室	12	15				

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

各教室には、その使用目的に応じ、マイク等の音響設備、視聴覚設備機器(実物投影機、ビデオ、CD、DVD、PC等)の必要な設備・機器を設置している。今後、機器の統一化や操作方法の一元化等について考慮する必要がある。また、機器の一部については更新が急がれるものがある。

各学科は教育目的にあったそれぞれの教室を所有しているが、主な特別教室等の概要は次表のとおりである。

表3.7 特別教室等の概要

学科名	主な特別教室・設備等	備考
総合生活学科	洋裁教室、和裁教室、調理室、MP教室、住居教室、情報処理演習室、秘書演習室	準備室附置
保育学科	レッスン室3室、学習練習室8室、音楽ホール、心理学実験・演習室、小児保健実習室、保育内容演習室、造形実習室、介護実習室	専攻科室にはパソコン6台を設置している。
英語コミュニケーション学科	LL教室、マルチメディア演習室、秘書演習室	
音楽科	音楽理論教室2室、電子オルガン教室・練習室、アンサンブル室、オーディオ室、レッスン室22室、練習室31室、合唱教室、ソルフェージュ教室、ML教室、音楽ホール、楽器庫	練習室等は学生に開放
情報ビジネス学科	情報処理演習室3室、情報処理特別室、ホストコンピュータ室、操作室	演習室は全学生に開放

※教室によっては、各学科または中国学園大学と共用。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

校舎は、1号館から12号館の他、図書館、体育館の14棟に分かれ、建築年数も異なっており、1号館、2号館、5号館及び9号館については、老朽化及び耐震強度の未充足が見込まれることから、新校舎棟(13号館)として改築すべく、平成20年度に基本設計に着手した。21年末には建築工事着工の予定である。3号館、4号館については、20年度に耐震調査を終え、20年度末に耐震補強改修工事に着手したところであり、21年10月には完工の予定である。体育館については、今後改築に向けて検討中である。なお、10号館(現行耐震基準以前の建築)は、平成21年度に耐震調査を実施し、その結果を待って補強改修の計画であり、これにより、キャンパス全体の安全・安心の施設づくりが推進される。

避難経路については解りやすく表示し、各校舎の1階には、スロープや障がい者用トイレ（多目的トイレ）を設ける等の障がい者対策を行っている。

学生の休息場所として代表的なところでは、パティオと第一・第二学生ホールがあり、第一・第二学生ホールは学生食堂としての使用の他、学生が授業の合間の学友との語らいや休憩場所として自由に活用できるようにしている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

（１）図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

1) 全体の配置図と座席数等

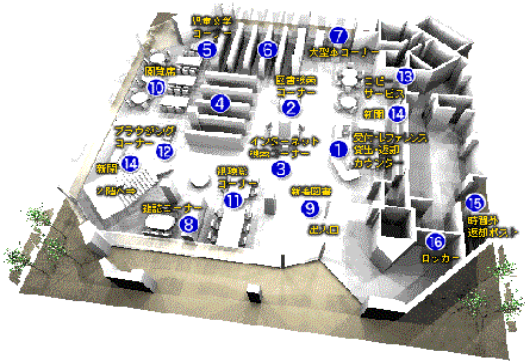
本館は昭和46年に「中国短期大学図書館」として設立され、四年制の中国学園大学の開設予定にともなって平成13年4月に着工、平成13年10月「中国学園図書館」として新築開館した。中国短期大学及び中国学園大学の併用館で、床面積・図書収納力・閲覧座席数等は表3.8、図3.1のとおりである。

表3.8 図書館の概要

施設の形態	専有床面積	書架棚総延長	図書収容能力	閲覧座席	個人閲覧室	グループ閲覧室
RC3階	1,465㎡	2.8km	※11万冊	127席	3室	1室

※90cmあたり35冊として計算。

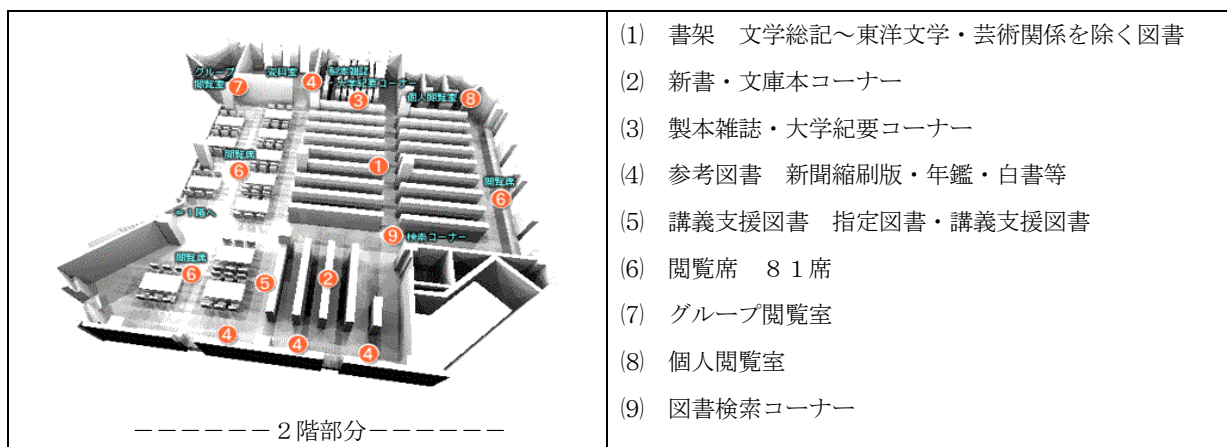
図3.1 特別教室等の概要 図書館内部の配置図



----- 1階部分 -----

(1) カウンター
(2) 図書検索コーナー
(3) インターネット検索コーナー
(4) 書架 参考図書（百科事典・辞書 他）
視聴覚ソフト・文学総記（文学全集等）

(5) 児童文学コーナー 絵本・紙芝居・児童書等
(6) 書架 日本文学・芸術関連図書・楽譜等
(7) 大型本コーナー 地図・図版・美術全集等
(8) 雑誌コーナー
(9) 新着図書
(10) 閲覧席 30席 資料閲覧用
(11) 視聴覚コーナー 本学図書館内のビデオ
LD・DVDの視聴ができる。
(12) ブラウジングコーナー
(13) コピーサービス（黒1枚10円・カラー1枚50円）
(14) 新聞
(15) 時間外返却ポスト
(16) ロッカー



本館は鉄筋3階建ての1、2階部分を専有し（3階は講義室、研究室）、書架はすべて開架式である。1階には管理事務室、各種検索コーナー、雑誌、新聞、新着図書、視聴覚資料、全集、児童書、大型本の書架と、南窓際に閲覧席を配している。なお、平成21年4月から、本館1階の入り口にブックディテクションシステム（自動入退館管理装置）を導入した。2階には専門書、講義支援図書、一般参考図書、新書・文庫本のコーナーを設け、南側と北側窓際の閲覧席の他、グループ閲覧室（1室）、個人閲覧室（3室）等を設けている。

本館が所蔵する図書は122,860冊となっている（表3.10）。これらの図書資料は原則として本館に収蔵されているが、一部の専門分野に特有な資料は、各教員研究室に収蔵しているものもある。しかし、現在では本館の許容量を超えてきたため、資料を利用しやすい形で配架し、古い資料を別に収納する必要がある、貴重資料及び個人情報に関わる資料を収蔵するためにも書庫の整備が急がれている。

2) 年間図書館予算購入

本館の経費は図書資料の購入、図書館活動費、人件費、庁舎維持費等だが、図書館として運用は図書資料の購入費及び図書館活動費（図書館運営費の60～70%）である。年間経費は次表に示すとおりである。

表3.9 年間経費（単位 円）

（平成20年度）

年 度	図書（和文）	図書（欧文）	雑誌（和文）	雑誌（欧文）	その他	経常費総計
平成18年度	4,266,000	92,000	1,903,000	1,836,000	3,433,000	11,530,000
平成19年度	4,961,000	545,000	2,145,000	1,979,000	2,964,000	12,594,000
平成20年度※	6,785,000	149,000	2,313,000	1,955,000	16,619,000	27,821,000

※ 平成20年度は、教育・学習方法等改善支援助成金を含む

3) 購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、及び司書数等

図書館の活動は図書館職員、図書館運営委員、学生生活向上委員（図書館活動部会）により運営されている。図書館職員（平成20年度）は、館長（教員兼務）、課長（教員兼務）、司書（2名）、派遣職員（1名）、学生アルバイトである。

図書館運営委員会は、図書館長、図書課長、図書館運営委員（各学科から選出された7名）で構成され、2ヶ月に1回程度会議を開き、図書館の運営方針について協議し、運営の改善に努力している。

図書選定委員会は図書館運営委員会委員より教員2名（輪番）と、図書館職員で構成さ

れ、請求や推薦がある図書・資料、視聴覚資料及び講義支援図書や参考図書（後述）、寄贈図書・資料を選定する（毎月1回程度）。教員の研究費図書は別会計だが、収蔵図書数に含めている（図書館は受け入れ・登録のみ行っている）。

学生生活向上委員会（図書館活動部会と称し各学科より選出された18名）は、学生の図書館に対する要望を館長が恒常的に聴取し、図書館の運営を学生のニーズにあったものに近づけるために設置し、学生図書選定委員会を月1回開いている。また、ブックハンティングを年2回行い、書店に出向き学生の視点から選書する方法もとっており、図書館運営委員や教員も同行している。

図書・資料の廃棄は、内規に基づいて行っている。

4) 情報化の進捗状況

収蔵図書には中国学園OPACが整備されている。外部の文献情報に関してはGeNiiに接続して検索が可能である。これらの情報検索は学内LANによってそれぞれの教職員や学生の端末から検索が可能である。図書館業務のうち、図書の貸出・受入等は平成16年度に「情報館5.0(ブレインテック社)」に更新した。外部の学術情報は、CiNii、NACSIS-WebCAT、WebcatPlusに加入して、目録検索を可能にしている。電子ジャーナルについては、経済的な理由から購読していない。しかし、近年研究者間での学術情報サービスのオープン化が進められており（PloS、Create Change、BioMed Central等）、本学においても図書館を介さない研究者個人レベルでのインターネットによる情報取得に依存する形になっている。平成20年度には岡山共同リポジトリ事業に加盟し、学内研究者の成果発信をする環境を整えた。

（2）図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）表を作成して下さい。

大学図書館の第一の使命は学生・教職員の教育研究の支援であり、本館もこのための図書、学術雑誌、視聴覚資料等の収集、整理、保存を行い、これらの閲覧、貸出しのほか、参考調査、情報検索、文献等複写等のサービスを提供している。

表3. 10 図書館等蔵書数一覧

（平成21年5月1日現在）

区分	和書	洋書	学術雑誌（内洋雑誌）	AV（視聴覚）資料
冊（種）	106,088	16,772	1,426種（64種）	6,632

※併設大学と共用（所蔵雑誌として紀要類も含まれる。）

また、視聴覚資料の導入も必須のものとなっている。特に本学園のように、音楽系、言語系、幼児教育系、情報技術系等の学問分野がある所では、視聴覚資料も学習支援に重要な要素といえるからである（表3.11）。

表3. 11 視聴覚資料のタイトル数

（平成21年5月1日現在）

カセットテープ	ビデオテープ	CD LD DVD	レコード	スライド	CD-ROM	DVD-ROM	その他
335	1,945	2,543	1,560	69	167	7	7

※併設大学と共用

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

本学のような、小規模大学における大学図書館の最大の目的は学生の学習支援である。本館では一般的な要望図書に加えて、授業理解に直接役立つ「講義支援図書コーナー」を設けている(受講者数の1/10以内の冊数)。さらに、卒業研究や教員の研究のための文献は「参考図書」として、Web上からの申込も可能である。特に、学生の希望は積極的に活かす方針で臨んでおり、一般図書のみでなく、CD・DVD等の視聴覚資料についても収蔵している。

本館の利用状況は次表のとおりである。若者の活字離れが進む中で、本学独自の特色ある蔵書構築「絵本ミュージアム」構想をめざし、魅力ある図書館となるよう努力している。平成20年度の学生1人あたりの年間図書貸出数は平均7.4冊である。学生は図書館を学習場所(勉強室)として利用しており、図書資料の充実と共にキャレルデスク等による座席の個別化、個別閲覧室、グループ閲覧室、インターネットの設置等で学習支援をしている。

表3.12 図書館の利用状況の推移(貸出実績)

学 科 名	学年	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
		貸出冊数	学生数	平均	貸出冊数	学生数	平均	貸出冊数	学生数	平均
総合生活学科	1年	64	77	0.8	40	91	0.4	121	100	1.2
	2年	186	86	2.2	109	74	1.5	157	87	1.8
保育学科	1年	1,027	111	9.3	1,230	123	10.0	1003	102	9.8
	2年	759	163	4.7	797	109	7.3	899	123	7.3
英語コミュニケーション学科	1年	2,125	49	43.4	965	31	31.1	1095	33	33.1
	2年	1,185	46	25.8	1,545	44	35.1	624	31	20.1
音楽科	1年	159	31	5.1	222	33	6.7	248	24	10.3
	2年	211	30	7.0	148	27	5.5	218	29	7.5
情報ビジネス学科	1年	76	71	1.1	271	69	3.9	393	83	4.7
	2年	162	49	3.3	31	70	0.4	135	69	1.9
専攻科 介護福祉専攻	1年	189	21	9.0	300	30	10.0	260	217	12.3
専攻科 音楽専攻	1年	45	6	7.5	50	5	10.0	102	7	14.5
	2年	181	8	22.6	23	6	3.8	61	5	12.2
合 計		6,369	748	8.5	5,731	712	8.0	5,316	714	7.4

※学生数は各年度末の3月の在籍者数による。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

本館は、岡山県内の大学・短期大学の図書館、中・四国地区大学図書館協議会加盟大学、私立大学図書館協会加盟大学と提携し、施設の相互利用と資料の貸借をしている。大学図書館の使命は学内の教育・研究の支援をするだけでなく、知的活動を企画支援し、地域社会に解放することも重要である。

なお、本学園の図書館は、日本私立学校振興・共済事業団より、私立大学等経常費補助金(特別補助)の学部教育の高度化・個性化支援メニュー群において、平成20年度教育・学習方法等改善支援に課題名『「地域共創型」図書館絵本ミュージアム』で申請し、採択された。これは、平成20～22年度の3年間の事業を通じて、地域共創型の絵本ミュージアムを設立し、子どもコンセプトの特色ある蔵書構築を進め、地域と共創する学生の主

体的参加型学習を支援するものである。実施学校名は中国学園大学・中国短期大学とし、さまざまな図書館活動には本学学生の参加も多く、協働学習も含めて、学生達の学習効果を高めている。また、平成17年度から本学卒業生に加えて、住所等を登録した一般市民に対しても、入館の許可と図書・資料の貸出をしている。

また、図書館活動の一環である図書館企画は次表のとおりである。

表3. 13 図書館企画

(平成20年度)

企 画	内 容
講演会	「絵本作り」(①穴のあいた絵本の作成②ひもを使った絵本の製作) (9月)
えほん講座	「おはなしと手あそびで遊ぼう」(6月)、「絵本とは何かを考える・製本を楽しもう」(7月)、「図書館でクリスマス」(12月)
読書感想文コンテスト	本学学生対象(7月、2月)
地域交流・読書感想文コンテスト	山手小学校対象(11月)
ランチタイムコンサート	4月、7月、11月、1月
授業成果物展示	図書館歳時記、子どもたちのお礼の手紙、手作り食育絵本、カナダ留学報告、飛び出すカード、壁面造形、バリアフリー模型、黒丸絵本、手作り紙芝居等(随時)
ブックハンティング	学生生活向上委員図書館部会・図書運営委員会・図書館職員(7月、11月)

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

外国人教員の採用に関しては、学科の特性と教員の専門性を考慮して、専任・兼任教員とも採用に配慮している。また、授業の公開や学習評価活動等の実施状況や評価については、X. 改革・改善の【自己点検・評価について】(1)に記載している。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 2. 平成21年度学生便覧・授業概要 pp. 108～123

3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集

「中国短期大学教育職員任用資格基準」 pp. 208～215

「中国学園図書館規程」 p. 154

「中国学園図書館運営委員会規程」 p. 155

「中国学園図書館利用規程」 pp. 156～157

〈参考資料〉 5. 過去3ヶ年の教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名等、④その他)

6. 平成21年度前期時間割

7. 平成21年度前期教室使用状況一覧

8. 備品一覧表

9. 平成20年度教育・学習方法等改善支援『「地域共創型」図書館絵本ミュージアム』申請資料

《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成20年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

本学での単位認定は以下の3つの方法で行っている。

1) 本学における学習に対して認定

教育課程表で開講された科目を各期ごとに履修登録、受講、認定テスト等を経て、その結果により認定。学内における講義のほか、実習、実験、演習、学外実習、海外での学習やホームステイ等形態はさまざまで、与えられる単位も異なる。特に他大学と異なるところはない。

2) 資格や検定の合格による単位認定

英語コミュニケーション学科では学生の自己啓発努力を支援するために、以下の資格検定の級に合格、またはスコアを獲得した場合には、所定の単位を認定している。(認定単位数は合計2単位を上限とする。)

表4. 1 資格や検定の合格による単位認定の基準

検 定 名	級・スコア	認定単位数
実用英語技能検定	準1級	2
	2級	1
TOEIC	600点～	2
	450点～	1
TOEFL	iBT 45点～	2
	iBT 35点～	1
観光英検	1級	2
	2級	1
秘書検定	1級	2
	準1級	1
日商PC検定	2級	1

3) 他大学で取得している科目について認定

ただし、教養科目、専門科目合計30単位未満とする。

各学科単位認定の方法と評価の実態は以下のとおりである。

表4. 2 単位認定の状況表(平成20年度)

■総合生活学科

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	国語表現	講義	71	態度・レポート	97.2	0.0	97.2	59.2	19.7	18.3	2.8
	芸術	講義	63	レポート・態度	98.4	1.6	100.0	63.5	27.0	9.5	0.0
	法学概論	講義	17	試験・レポート・出席・態度	100.0	0.0	100.0	7.2	57.1	35.7	0.0
	社会心理学	講義	49	試験	96.0	2.0	98.0	49.0	30.6	18.4	2.0
	社会学	講義	60	出席・小論文・発表・討論	98.4	1.6	100.0	90.0	5.0	5.0	0.0
	自然科学概論	講義	15	態度・レポート・試験	86.6	6.7	93.3	73.3	6.7	13.3	6.7
	現代職業論	講義	70	出席・態度・レポート・小テスト	100.0	0.0	100.0	67.1	18.6	14.3	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	キャリア開発論	講義	47	小テスト・出席・課題・試験	97.9	0.0	97.9	29.8	29.8	38.3	2.1
	健康とスポーツ	講義	62	出席・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	英語A	演習	80	出席・態度・課題・小テスト・試験	98.8	1.2	100.0	75.0	15.0	10.0	0.0
	英語B	演習	2	態度・出席・小テスト・発表・レポート	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	仏語	演習	29	態度・出席・理解度	96.7	3.3	100.0	72.4	13.8	13.8	0.0
	中国語	演習	10	試験・態度	90.0	10.0	100.0	30.0	20.0	50.0	0.0
専門科目	生活経営論	講義	87	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	51.8	33.3	14.9	0.0
	人間発達学	講義	80	試験・出席	100.0	0.0	100.0	76.3	16.3	7.4	0.0
	国際関係	講義	63	試験・レポート・出席	92.1	6.3	98.4	77.8	12.7	7.9	1.6
	消費生活学	講義	73	試験・出席・態度	94.5	4.1	98.6	41.1	41.1	16.4	1.4
	現代生活とマナー	講義	84	態度・レポート・担当者全員の判定	95.4	4.6	100.0	77.4	15.5	7.1	0.0
	生活環境論	講義	86	試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	83.7	11.6	4.7	0.0
	生活科学・実験	講義・実験	22	レポート・出席・態度	90.9	9.1	100.0	77.3	13.6	9.1	0.0
	生活情報論	講義	84	試験・レポート	74.7	25.3	100.0	14.3	33.3	52.4	0.0
	衣と生活	講義	87	出席・態度・小テスト・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	49.5	40.2	10.3	0.0
	食と生活	講義	87	試験・課題・態度・出席	97.8	2.2	100.0	56.4	31.0	12.6	0.0
	住と生活	講義	86	試験・出席・態度	98.8	1.2	100.0	88.4	7.0	4.6	0.0
	衣生活実習	実習	22	レポート・実習作品の完成度・取組み意欲	100.0	0.0	100.0	68.2	22.7	9.1	0.0
	食生活実習	実習	61	試験・実技試験・態度・課題	100.0	0.0	100.0	63.9	21.3	14.8	0.0
	住生活実習	実習	14	提出物の完成度・態度	100.0	0.0	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0
	生活と医学	講義	79	出席・レポート	100.0	0.0	100.0	48.1	49.4	2.5	0.0
	ライフステージと健康	講義	38	小テスト・レポート・試験・態度	100.0	0.0	100.0	71.1	18.4	10.5	0.0
	公衆衛生学	講義	67	出席・試験	100.0	0.0	100.0	44.8	25.4	29.8	0.0
	社会福祉論	講義	84	試験	100.0	0.0	100.0	77.4	11.9	10.7	0.0
	食と健康	講義	65	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	40.0	49.2	10.8	0.0
	食品学	講義	43	試験・課題・態度・出席	72.7	25.0	97.7	65.1	18.6	14.0	2.3
	フードクリエイティブ論・実習	講義・実習	47	実技テスト・態度・課題	100.0	0.0	100.0	70.3	19.1	10.6	0.0
	食品加工学・実習	講義・実習	53	出席・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	68.0	24.5	7.5	0.0
	フードマーケティング論	講義	40	試験・レポート・出席	89.5	10.5	100.0	22.5	40.0	37.5	0.0
	ヒューマンケアⅠ	講義	29	出席・態度・レポート・試験	93.3	6.7	100.0	44.9	24.1	31.0	0.0
	ヒューマンケアⅠ演習	演習	15	出席・態度・技術の習得状況	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅠA	講義	47	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	70.2	23.4	6.4	0.0
	ヒューマンケアⅠB	講義	27	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	85.2	14.8	0.0	0.0
	生活とデザイン	講義	23	試験・レポート	100.0	0.0	100.0	78.3	21.7	0.0	0.0
	色彩学	講義	50	レポート・試験	100.0	0.0	100.0	46.0	40.0	14.0	0.0
	生活造形実習A	実習	19	出席・作品の完成度・態度	100.0	0.0	100.0	78.9	21.1	0.0	0.0
	生活造形実習B	実習	10	出席・作品の完成度・取組み態度	100.0	0.0	100.0	70.0	30.0	0.0	0.0
	生活造形実習C	実習	6	作品の完成度・取組み	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	ファッション造形	講義	33	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	24.3	72.7	3.0	0.0
	ファッションビジネス	講義	16	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	50.0	31.3	18.7	0.0
	アパレル科学	講義	18	試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	83.3	11.1	5.6	0.0
	ファッションコーディネート演習	演習	12	受講姿勢・プレゼンテーション力	100.0	0.0	100.0	41.7	16.7	41.6	0.0
	OA・生活機器	講義	87	出席・試験	100.0	0.0	100.0	44.9	42.5	12.6	0.0
	OA機器演習A	演習	82	出席・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	57.3	15.9	26.8	0.0
	OA機器演習B	演習	83	出席・レポート	100.0	0.0	100.0	79.6	10.8	9.6	0.0
	OA機器演習C	演習	84	出席・課題	100.0	0.0	100.0	77.4	11.9	10.7	0.0
	経営学概論	講義	51	出席・小テスト・試験	90.0	8.0	98.0	68.6	9.8	19.6	2.0
	ビジネス実務総論	講義	64	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	75.1	14.0	10.9	0.0
	サービス産業論	講義	41	出席・各回のレポート・試験（レポート）	100.0	0.0	100.0	90.2	9.8	0.0	0.0
	簿記	講義	68	出席・宿題・レポート・試験	89.5	9.0	98.5	55.9	19.1	23.5	1.5
	生活産業実習	実習	27	実習参加状況・態度・レポート・実習先評価他	100.0	0.0	100.0	70.4	11.1	18.5	0.0
	プレゼンテーション演習	演習	23	出席・各回のレポート・試験（レポート）他	100.0	0.0	100.0	87.0	13.0	0.0	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	キャリア開発演習	演習	57	レポート・態度	100.0	0.0	100.0	92.6	5.6	1.8	0.0
	総合生活学演習	演習	76	レポート・作品・態度	100.0	0.0	100.0	77.7	19.7	2.6	0.0
	特別研究	演習	8	態度・意欲・自主性・科学的態度 創造性・テーマの完成度・ 学内特別研究発表会への参加	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特別研究	演習	13		100.0	0.0	100.0	84.6	15.4	0.0	0.0
	特別研究	演習	6		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特別研究	演習	11		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特別研究	演習	13		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特別研究	演習	7		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	特別研究	演習	16		100.0	0.0	100.0	62.5	37.5	0.0	0.0
	医療・介護事務演習	演習	44	態度・実習先の総評・発表	100.0	0.0	100.0	34.1	59.1	6.8	0.0
ビジネス	ビジネス実務演習	演習	55	試験・出席・態度	93.4	2.2	95.6	66.7	24.5	4.4	4.4
フードコーディネーター	フードコーディネート論	講義	21	試験・課題・態度・出席	85.7	14.3	100.0	28.6	33.3	38.1	0.0
	フードコーディネート論・実習A	講義・演習	27	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	70.4	22.2	7.4	0.0
	フードコーディネート論・実習B	講義・演習	22	出席・態度・試験・レポート	100.0	0.0	100.0	81.8	18.2	0.0	0.0
訪問介護員	ヒューマンケアⅠ実習	実習	15	実習態度・実習先評価	100.0	0.0	100.0	33.3	46.7	20.0	0.0
	ヒューマンケアⅡ	講義	4	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	チームケアとチームワーク	講義	4	出席・態度・試験・レポート	100.0	0.0	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0
	ヒューマンケアⅡ演習	演習	4	出席・態度・技術の習得状況	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅡ実習	実習	4	実習記録・事例報告書・実習施設指導者の評価	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
医療管理秘書士	医療管理学	講義	45	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	60.0	20.0	20.0	0.0
	医療秘書学	講義	42	レポート	83.4	16.6	100.0	42.9	31.0	26.1	0.0
	医療事務総論	講義	42	出席・試験	95.1	4.9	100.0	73.8	11.9	14.3	0.0
介護事務	介護保険事務論	講義	33	態度・レポート・出席・試験	100.0	0.0	100.0	78.8	21.2	0.0	0.0

■保育学科

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	国語表現	講義	48	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	60.4	33.3	6.3	0.0
	芸術	講義	76	試験	98.7	1.3	100.0	43.4	34.2	22.4	0.0
	日本国憲法	講義	123	試験・レポート・態度・出席	93.5	5.7	99.2	61.9	17.8	19.5	0.8
	社会学	講義	1	出席・小論文・発表	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	自然科学概論	講義	109	態度・レポート・試験	93.6	6.4	100.0	68.9	17.9	13.2	0.0
	情報処理概論	講義	117	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	87.1	12.0	0.9	0.0
	現代職業論	講義	8	出席・態度・レポート・小テスト	100.0	0.0	100.0	28.6	28.6	42.8	0.0
	体育講義	講義	118	出席・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	53.4	26.3	20.3	0.0
	体育実技	実技	118	出席・態度・実技試験	100.0	0.0	100.0	95.8	4.2	0.0	0.0
	英語A	演習	117	出席・態度・提出物・試験	100.0	0.0	100.0	80.4	17.9	1.7	0.0
	英語B	演習	2	態度・出席・小テスト・発表・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
専門科目	社会福祉	講義	124	出席・課題・試験	100.0	0.0	100.0	94.2	4.2	1.6	0.0
	社会福祉援助技術A	演習	120	出席・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	94.2	5.0	0.8	0.0
	社会福祉援助技術B	演習	118	課題	100.0	0.0	100.0	83.9	16.1	0.0	0.0
	児童福祉	講義	118	態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	80.8	19.2	0.0	0.0
	養護内容	演習	118	出席・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	73.8	23.7	2.5	0.0
	保育者論	講義	120	出席・レポート・スピーチ・試験	100.0	0.0	100.0	79.0	14.3	6.7	0.0
	教育原理	講義	124	態度・試験	100.0	0.0	100.0	60.8	30.0	9.2	0.0
	保育原理A	講義	125	出席・小テスト・試験	99.2	0.8	100.0	50.8	39.2	10.0	0.0
	保育原理B	講義	120	レポート・出席・試験	100.0	0.0	100.0	37.5	24.2	38.3	0.0
	養護原理	講義	124	試験	100.0	0.0	100.0	65.9	30.8	3.3	0.0
	発達心理学	講義	120	態度・課題・レポート・試験	98.4	1.6	100.0	74.2	17.5	8.3	0.0
	乳幼児心理学	講義	14	出席・態度	100.0	0.0	100.0	57.1	42.9	0.0	0.0
	臨床心理学	講義	45	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	93.3	6.7	0.0	0.0
	教育心理学	講義	124	態度・課題・レポート・試験	93.6	6.4	100.0	57.5	27.5	15.0	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	小児保健A	講義	124	出席・態度・試験	91.9	8.1	100.0	27.5	30.0	42.5	0.0
	小児保健B	講義	120	出席・態度・試験	91.7	8.3	100.0	30.8	32.5	36.7	0.0
	小児保健実習	実習	120	出席・態度・試験・実技試験	100.0	0.0	100.0	52.9	32.8	14.3	0.0
	小児栄養A	演習	120	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	86.7	11.7	1.6	0.0
	小児栄養B	演習	120	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	95.0	4.2	0.8	0.0
	精神保健	講義	119	出席・提出物・試験	99.2	0.8	100.0	78.4	18.3	3.3	0.0
	教育課程総論	講義	117	試験	94.0	5.1	99.1	30.7	43.6	24.8	0.9
	保育内容総論	講義	118	出席・態度・試験	95.8	4.2	100.0	43.2	28.0	28.8	0.0
	健康	演習	120	出席・態度・試験	99.2	0.8	100.0	95.0	2.5	2.5	0.0
	人間関係	演習	119	出席・態度・試験	95.0	5.0	100.0	24.2	43.3	32.5	0.0
	環境	演習	122	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	84.2	12.5	3.3	0.0
	言葉	演習	124	出席・態度・試験	95.2	4.8	100.0	19.2	31.7	49.1	0.0
	表現A	演習	120	出席・態度・発表	97.5	2.5	100.0	70.0	25.8	4.2	0.0
	表現B	演習	118	出席・態度・試験またはレポート	96.6	3.4	100.0	80.9	15.8	3.3	0.0
	保育方法演習A	演習	124	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	30.9	63.3	5.8	0.0
	保育方法演習B	演習	119	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	95.0	4.2	0.8	0.0
	乳児保育A	演習	121	出席・提出物・レポート・試験	96.7	3.3	100.0	64.2	19.2	16.6	0.0
	乳児保育B	演習	120	態度・レポート・試験	97.5	2.5	100.0	55.8	27.5	16.7	0.0
	障害児保育	演習	116	態度・試験	100.0	0.0	100.0	51.2	45.4	3.4	0.0
	家族援助論	講義	119	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	94.2	5.0	0.8	0.0
	幼児音楽A	演習	124	出席・態度・演習課題試験	100.0	0.0	100.0	5.8	70.9	23.3	0.0
	幼児音楽B	演習	119	出席・態度・演習課題試験	98.3	1.7	100.0	5.8	84.2	10.0	0.0
	幼児音楽基礎演習A	演習	123	出席・態度・演習課題試験	95.9	4.1	100.0	59.7	32.8	7.5	0.0
	幼児音楽基礎演習B	演習	113	出席・態度・演習課題試験	100.0	0.0	100.0	53.9	35.7	10.4	0.0
	器楽演習A	演習	106	出席・態度・演習課題試験	93.5	5.6	99.1	33.4	44.1	21.6	0.9
	器楽演習B	演習	95	出席・態度・演習課題試験	95.7	3.2	98.9	22.0	65.3	11.6	1.1
	幼児体育A	演習	119	出席・態度・発表・提出物・試験	100.0	0.0	100.0	83.1	16.3	0.6	0.0
	幼児体育B	演習	121	出席・提出物・発表・試験	100.0	0.0	100.0	55.2	36.7	8.1	0.0
	幼児造形A	演習	124	出席・態度・作品評価	100.0	0.0	100.0	71.7	28.3	0.0	0.0
	幼児造形B	演習	120	出席・態度・作品評価	100.0	0.0	100.0	43.3	56.7	0.0	0.0
	生活	講義	19	出席・態度・姿勢・作品	100.0	0.0	100.0	89.5	10.5	0.0	0.0
	教育相談	講義	117	姿勢・試験	100.0	0.0	100.0	58.1	35.9	6.0	0.0
	総合演習A	演習	121	出席・態度・課題	100.0	0.0	100.0	98.3	1.7	0.0	0.0
	総合演習B	演習	120	出席・態度・課題	100.0	0.0	100.0	96.7	3.3	0.0	0.0
	教育実習	実習	117	総合的に評価	100.0	0.0	100.0	71.7	27.4	0.9	0.0
	教育実習研究	実習	117	出席・態度・提出物・レポート	100.0	0.0	100.0	82.9	17.1	0.0	0.0
	保育所実習Ⅰ	実習	117	総合的に評価	99.1	0.9	100.0	6.0	89.9	4.1	0.0
	保育所実習Ⅱ	実習	116	総合的に評価	99.1	0.9	100.0	6.0	89.9	4.1	0.0
	保育所実習Ⅲ	実習	0	総合的に評価	—	—	—	—	—	—	—
	保育所実習研究	実習	119	総合的に評価	99.2	0.8	100.0	11.0	79.7	9.3	0.0
	施設実習	実習	119	総合的に評価	100.0	0.0	100.0	67.8	30.5	1.7	0.0
	施設実習研究	実習	119	総合的に評価	100.0	0.0	100.0	91.6	5.0	3.4	0.0

■英語コミュニケーション学科

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	国語表現	講義	2	出席・提出・小テスト	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	法学概論	講義	9	出席・態度・試験・課題レポート	66.7	33.3	100.0	0.0	22.2	77.8	0.0
	日本国憲法	講義	9	出席・態度・試験・課題レポート	100.0	0.0	100.0	0.0	55.6	44.4	0.0
	心理学	講義	11	出席・試験	90.9	0.0	90.9	72.7	18.2	0.0	9.1
	社会心理学	講義	0	試験	—	—	—	—	—	—	—
	社会学	講義	21	出席・小論文・発表・討議	100.0	0.0	100.0	85.0	10.0	5.0	0.0
	福祉総論	講義	27	試験・レポート	100.0	0.0	100.0	30.8	30.8	38.4	0.0
	経済学	講義	30	出席・レポート・試験	73.3	26.7	100.0	22.2	11.1	66.7	0.0
	現代環境論	講義	0	態度・試験	—	—	—	—	—	—	—

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	情報処理概論	講義	22	出席・態度・課題	100.0	0.0	100.0	68.2	27.3	4.5	0.0
	現代職業論	講義	29	出席・小テスト・態度	100.0	0.0	100.0	46.2	26.9	26.9	0.0
	キャリア開発論	講義	26	出席・課題・小テスト・試験	77.0	23.0	100.0	15.4	30.8	53.8	0.0
	体育講義	講義	9	出席・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	体育実技	実技	19	出席・態度・技能	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	仏語	演習	3	出席・態度・理解度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	中国語	演習	21	試験・態度	90.5	9.5	100.0	45.0	20.0	35.0	0.0
	韓国語	演習	16	出席・試験・意欲・レポート	66.7	33.3	100.0	14.3	0.0	85.7	0.0
専門科目	オーラル・イングリッシュA	演習	30	出席・小テスト・宿題・態度・試験	93.4	6.6	100.0	55.6	18.5	25.9	0.0
	オーラル・イングリッシュB	演習	27	出席・小テスト・宿題・態度・試験	100.0	0.0	100.0	53.8	30.8	15.4	0.0
	オーラル・イングリッシュC	演習	27	出席・小テスト・宿題・態度・試験	100.0	0.0	100.0	50.0	46.2	3.8	0.0
	オーラル・イングリッシュD	演習	26	出席・小テスト・宿題・態度・試験	100.0	0.0	100.0	80.8	11.5	7.7	0.0
	トラムレ・イングリッシュ	演習	30	出席・提出・暗唱・試験	100.0	0.0	100.0	70.4	22.2	7.4	0.0
	リスニング	演習	30	出席・試験・態度	83.3	16.7	100.0	33.4	33.3	33.3	0.0
	リーディングA	演習	31	出席・態度・課題・小テスト・試験	100.0	0.0	100.0	77.8	22.2	0.0	0.0
	グラマー&ユーセッジ	演習	30	出席・態度・課題・小テスト・試験	93.3	6.7	100.0	70.4	7.4	22.2	0.0
	英検特講	演習	28	出席・小テスト・試験・受検結果	100.0	0.0	100.0	56.0	24.0	20.0	0.0
	異文化コミュニケーション論	講義	28	出席・態度・レポート・試験	82.2	17.8	100.0	63.0	18.5	18.5	0.0
	OA演習A	演習	31	出席・態度・課題・実技試験	100.0	0.0	100.0	77.8	7.4	14.8	0.0
	アカデミックライティング	演習	10	出席・小テスト・宿題・態度	100.0	0.0	100.0	90.0	10.0	0.0	0.0
	総合英語演習	演習	11	出席・態度・発表・提出物・試験	100.0	0.0	100.0	54.5	36.4	9.1	0.0
	TOEFL特講	演習	11	出席・態度・課題・試験	100.0	0.0	100.0	63.6	36.4	0.0	0.0
	メディア・イングリッシュ	演習	11	出席・試験・態度	81.8	0.0	81.8	45.4	18.2	18.2	18.2
	プレゼンテーション	演習	39	出席・態度・宿題・発表	100.0	0.0	100.0	58.8	35.3	5.9	0.0
	リーディングB	演習	28	出席・宿題・小テスト・試験	100.0	0.0	100.0	85.2	11.1	3.7	0.0
	グラマー&ライティング	演習	27	出席・態度・課題・小テスト・試験	100.0	0.0	100.0	69.2	15.4	15.4	0.0
	英語音声学	講義	26	出席・態度・録音・小テスト・試験	100.0	0.0	100.0	61.5	23.1	15.4	0.0
	国際文化研究	講義	30	出席・調査研究の内容・態度	100.0	0.0	100.0	92.6	7.4	0.0	0.0
	日本の伝統文化	演習	27	出席・態度・発表・調査研究の内容	100.0	0.0	100.0	57.7	11.5	30.8	0.0
	日英比較表現法	講義	24	出席・態度・小テスト・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	62.5	25.0	12.5	0.0
	英語学概論	講義	22	出席・態度・試験・課題	100.0	0.0	100.0	72.7	18.2	9.1	0.0
	児童英語教授法	講義	23	課題・出席・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	86.4	13.6	0.0	0.0
	児童英語演習	演習	8	出席・態度・提出・学外活動	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	英米文学概論	講義	15	出席・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ビジネス表現	講義	22	出席・発表・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	59.1	36.4	4.5	0.0
	ビジネス実務総論	講義	16	出席・小テスト・レポート・試験	87.5	6.6	94.1	70.6	5.9	17.6	5.9
	ビジネス実務演習	演習	19	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	78.9	21.1	0.0	0.0
	ビジネス・イングリッシュ	演習	13	出席・態度・提出・小テスト・試験	100.0	0.0	100.0	61.5	15.4	23.1	0.0
	ワークプレイス・イングリッシュ	演習	25	出席・態度・提出・テスト・試験・発表	100.0	0.0	100.0	76.0	16.0	8.0	0.0
	OA演習B	演習	26	出席・態度・課題・実技試験	100.0	0.0	100.0	69.2	23.1	7.7	0.0
	ドラマ・イングリッシュ	演習	14	出席・態度・発表	100.0	0.0	100.0	78.6	14.3	7.1	0.0
	新聞英語	演習	8	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	75.0	12.5	12.5	0.0
	シネマ・イングリッシュ	演習	17	出席・態度・発表	94.1	0.0	94.1	76.4	11.8	5.9	5.9
	海外事情A	講義	8	出席・態度・発表・試験・提出	100.0	0.0	100.0	62.5	25.0	12.5	0.0
	海外事情B	演習	1	留学先の評価・態度・課題の取組み	100.0	0.0	100.0	00.0	100.0	0.0	0.0
	TOEIC特講	演習	23	出席・態度・小テスト・試験	91.3	4.2	95.5	59.1	9.1	27.3	4.5
	ポップ・カルチャー	講義	28	出席・態度・課題・レポート・試験	96.4	3.6	100.0	88.5	3.8	7.7	0.0
	キャリア・デザイン	講義	28	出席・態度・提出	100.0	0.0	100.0	82.1	14.3	3.6	0.0
	インターンシップ	演習	0	出席・態度・実習先の評価	—	—	—	—	—	—	—
	資格検定A	演習	0	合格証	—	—	—	—	—	—	—
	資格検定B	演習	0	合格証	—	—	—	—	—	—	—
	English Skills A	演習	1	留学先の評価	100.0		100.0	認定			0.0
	English Skills B	演習	1	留学先の評価	100.0		100.0	認定			0.0
	English Skills C	演習	1	留学先の評価	100.0		100.0	認定			0.0
	English Skills D	演習	1	留学先の評価	100.0		100.0	認定			0.0
	Field Work	演習	1	レポート・発表	100.0		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
ビジネス実務士	経営学概論	講義	0	出席・小テスト・試験	—	—	—	—	—	—	—

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
ビジネス実務士	情報処理概論	講義	22	出席・態度・課題	100.0	0.0	100.0	68.2	27.3	4.5	0.0
	現代職業論	講義	29	出席・小テスト・態度	100.0	0.0	100.0	46.2	26.9	26.9	0.0
教職に関する科目	教職概論	講義	10	態度・試験	100.0	0.0	100.0	90.0	10.0	0.0	0.0
	教育原理	講義	17	出席・試験・レポート	100.0	0.0	100.0	73.3	20.0	6.7	0.0
	教育心理学	講義	19	態度・試験・課題・レポート	94.1	5.9	100.0	53.4	13.3	33.3	0.0
	英語科教育法	講義	10	出席・態度・課題・試験	100.0	0.0	100.0	90.0	10.0	0.0	0.0
	道德教育の研究	講義	9	出席・指導案・試験	100.0	0.0	100.0	44.5	44.4	11.1	0.0
	特別活動の研究	講義	9	出席・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	55.6	33.3	11.1	0.0
	教育の方法及び技術	講義	9	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生徒指導の理論と方法	講義	9	態度・試験	100.0	0.0	100.0	77.8	22.2	0.0	0.0
	教育相談	講義	9	出席・レポート・提出物	100.0	0.0	100.0	88.9	11.1	0.0	0.0
	総合演習	演習	9	出席・討議・発表・レポート	100.0	0.0	100.0	33.3	44.5	22.2	0.0
	教育実習	実習	9	出席・実習	100.0	0.0	100.0	77.8	22.2	0.0	0.0

■音楽科

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	国語表現	講義	18	出席・提出・小テスト	100.0	0.0	100.0	55.6	33.3	11.1	0.0
	芸術	講義	18	試験	93.8	0.0	93.8	37.5	25.0	31.3	6.2
	日本国憲法	講義	28	出席・態度・課題・試験	65.4	26.9	92.3	23.1	15.4	53.8	7.7
	心理学	講義	24	試験・出席	100.0	0.0	100.0	95.8	4.2	0.0	0.0
	福祉総論	講義	24	試験・出席・レポート	95.8	4.2	100.0	65.2	34.8	0.0	0.0
	情報処理概論	講義	24	出席・レポート	100.0	0.0	100.0	61.9	28.6	9.5	0.0
	現代職業論	講義	15	態度・出席・レポート・小テスト	100.0	0.0	100.0	46.7	13.3	40.0	0.0
	体育講義	講義	16	出席・試験・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	体育実技	実技	20	出席・態度・技能	100.0	0.0	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	英語A	演習	28	出席・試験・態度	100.0	0.0	100.0	77.8	18.5	3.7	0.0
	英語B	演習	3	態度・出席・小テスト・発表・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
専門科目	音楽通論	講義	29	試験・出席・態度	82.8	17.2	100.0	38.5	38.5	23.0	0.0
	和声学Ⅰ	講義	27	試験・出席・態度	88.9	11.1	100.0	70.4	14.8	14.8	0.0
	和声学Ⅱ	講義	27	試験・出席・態度	85.2	14.8	100.0	55.6	18.5	25.9	0.0
	和声学Ⅲ	講義	18	試験・出席・課題演習の進捗	77.8	5.5	83.3	44.4	22.2	16.7	16.7
	作編曲法(基礎)	講義	13	出席・態度・課題	100.0	0.0	100.0	60.0	33.3	6.7	0.0
	楽式論	講義	15	レポート	100.0	0.0	100.0	61.5	15.4	23.1	0.0
	音楽史概論A	講義	29	試験またはレポート・出席・態度	86.2	13.8	100.0	51.8	24.1	24.1	0.0
	音楽史概論B	講義	29	試験またはレポート・出席・態度	78.6	21.4	100.0	50.0	17.9	32.1	0.0
	音楽鑑賞演習	演習	20	試験・小レポート・出席・態度	95.0	5.0	100.0	40.0	35.0	25.0	0.0
	指揮法	講義	15	試験及び各回の技術の到達度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ソルフェージュⅠA	演習	28	出席と実技試験	100.0	0.0	100.0	35.7	53.6	10.7	0.0
	ソルフェージュⅠB	演習	27	出席と実技試験	100.0	0.0	100.0	44.4	51.9	3.7	0.0
	ソルフェージュⅡA	演習	19	出席と実技試験	100.0	0.0	100.0	26.3	42.1	31.6	0.0
	ソルフェージュⅡB	演習	15	出席と実技試験	100.0	0.0	100.0	20.0	33.3	46.7	0.0
	ピアノ奏法ⅠA	実技	12	実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ピアノ奏法ⅠB	実技	12	実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	93.3	6.7	0.0	0.0
	ピアノ奏法ⅡA	実技	12	実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ピアノ奏法ⅡB	実技	12	実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	電子オルガン奏法ⅠA	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	電子オルガン奏法ⅠB	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	電子オルガン奏法ⅡA	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	電子オルガン奏法ⅡB	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	管弦打楽器奏法ⅠA	実技	9	実技試験・意欲	100.0	0.0	100.0	44.4	55.6	0.0	0.0
	管弦打楽器奏法ⅠB	実技	9	実技試験・意欲	100.0	0.0	100.0	44.5	44.4	11.1	0.0
	管弦打楽器奏法ⅡA	実技	9	実技試験・意欲	100.0	0.0	100.0	66.7	22.2	11.1	0.0
	管弦打楽器奏法ⅡB	実技	9	実技試験・意欲	100.0	0.0	100.0	66.7	22.2	11.1	0.0
	声楽唱法ⅠA	実技	3	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	声楽唱法ⅠB	実技	3	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	声楽唱法ⅡA	実技	3	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	声楽唱法ⅡB	実技	3	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	作曲ⅠA	実技	1	試験または提出作品・出席・態度	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	作曲ⅠB	実技	1	試験または提出作品・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	作曲ⅡA	実技	1	出席・態度・提出作品	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	作曲ⅡB	実技	1	出席・態度・提出作品	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	合奏	演習	15	実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	61.5	38.5	0.0	0.0
	吹奏楽ⅠA	演習	20	平素の演奏能力と態度・実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	吹奏楽ⅠB	演習	20	平素の演奏能力と態度・実技試験	100.0	0.0	100.0	95.0	5.0	0.0	0.0
	吹奏楽ⅡA	演習	16	平素の演奏能力と態度・実技試験	100.0	0.0	100.0	87.4	6.3	6.3	0.0
	吹奏楽ⅡB	演習	16	平素の演奏能力と態度・実技試験	100.0	0.0	100.0	93.7	0.0	6.3	0.0
	ピアノ音楽研究	講義	9	レポート・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	伴奏法	講義	17	試験またはレポート	100.0	0.0	100.0	62.5	31.3	6.2	0.0
	電子音楽研究	講義	7	レポート・出席・態度	100.0	0.0	100.0	57.1	42.9	0.0	0.0
	ポピュラー音楽研究	講義	5	実技試験	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	楽器学	講義	11	試験	100.0	0.0	100.0	81.8	0.0	18.2	0.0
	吹奏楽指導法	講義	5	出席・試験またはレポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	歌曲研究	講義	7	レポート・出席・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	オペラ研究	講義	11	レポートまたは試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	45.5	54.5	0.0	0.0
	音楽療法概論	講義	18	出席・態度・提出物・試験	100.0	0.0	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	音楽療法各論A	講義	17	出席・態度	100.0	0.0	100.0	43.8	56.2	0.0	0.0
	音楽療法各論B	講義	15	出席・態度	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	音楽療法総合演習A	演習	15	出席・態度・提出物	100.0	0.0	100.0	53.3	46.7	0.0	0.0
	音楽療法総合演習B	演習	15	出席・態度・提出物	100.0	0.0	100.0	13.3	86.7	0.0	0.0
	音楽療法実習	実習	15	出席・態度・提出物・事例報告書	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	音楽療法実習研究	実習	15	出席・態度・記録等提出物	100.0	0.0	100.0	53.3	40.0	6.7	0.0
	副科ピアノⅠA	実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科ピアノⅠB	実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	93.8	6.2	0.0	0.0
	副科ピアノⅡA	実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科ピアノⅡB	実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	副科電子オルガンⅠA	実技	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科電子オルガンⅠB	実技	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	副科電子オルガンⅡA	実技	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科電子オルガンⅡB	実技	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	副科管弦打楽器ⅠA	実技	11	実技試験	100.0	0.0	100.0	9.1	90.9	0.0	0.0
	副科管弦打楽器ⅠB	実技	11	実技試験	100.0	0.0	100.0	18.2	81.8	0.0	0.0
	副科管弦打楽器ⅡA	実技	8	実技試験	100.0	0.0	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	副科管弦打楽器ⅡB	実技	8	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科声楽ⅠA	実技	26	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	30.8	69.2	0.0	0.0
	副科声楽ⅠB	実技	26	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	11.5	88.5	0.0	0.0
	副科声楽ⅡA	実技	26	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	15.4	84.6	0.0	0.0
	副科声楽ⅡB	実技	26	実技試験・態度	100.0	0.0	100.0	34.6	57.7	7.7	0.0
	合唱ⅠA	演習	29	出席・態度	100.0	0.0	100.0	93.4	3.3	3.3	0.0
	合唱ⅠB	演習	29	出席・態度	100.0	0.0	100.0	86.2	13.8	0.0	0.0
	合唱ⅡA	演習	29	出席・態度	100.0	0.0	100.0	65.5	20.7	13.8	0.0
	合唱ⅡB	演習	21	出席・態度	100.0	0.0	100.0	61.9	14.3	23.8	0.0
	音楽キャリア演習	演習	24	出席・提出物・態度	100.0	0.0	100.0	58.3	41.7	0.0	0.0
	卒業演奏	実技	29	総合評価	100.0	0.0	100.0	51.8	44.8	3.4	0.0
音楽療法士(2種)	医学一般	講義	17	出席・試験・態度・課題発表	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	公衆衛生学	講義	17	出席・試験	100.0	0.0	100.0	43.8	25.0	31.2	0.0
	看護学	講義	17	出席・試験・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
教職に関する科目	教職概論	講義	13	態度・試験	92.3	7.7	100.0	69.2	15.4	15.4	0.0
	教育原理	講義	27	試験・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	61.5	30.8	7.7	0.0
	教育心理学	講義	15	態度・試験・課題・レポート	100.0	0.0	100.0	60.0	26.7	13.3	0.0
	音楽科教育法	講義	13	試験・レポート・活動・発表	92.3	0.0	92.3	76.9	0.0	15.4	7.7

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教職に関する科目	道徳教育の研究	講義	11	出席・試験・指導案	100.0	0.0	100.0	18.2	63.6	18.2	0.0
	特別活動の研究	講義	11	試験・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	54.5	27.3	18.2	0.0
	教育の方法及び技術	講義	11	レポート・課題・出席	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生徒指導の理論と方法	講義	11	態度・試験	100.0	0.0	100.0	72.7	18.2	9.1	0.0
	教育相談	講義	11	レポート・出席・提出物	100.0	0.0	100.0	72.7	27.3	0.0	0.0
	総合演習	演習	12	出席・討議・発表・レポート	83.3	16.7	100.0	25.0	41.7	33.3	0.0
	教育実習	実習	12	出席・実習	66.7	16.6	83.3	16.7	33.3	33.3	16.7
訪問介護員2級	ヒューマンケアⅠ	講義	7	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅠ演習	演習	7	出席・態度・技術の習得状況	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅠA	講義	7	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	71.4	28.6	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅠB	講義	7	出席・態度・レポート・試験	100.0	0.0	100.0	42.9	57.1	0.0	0.0
	ヒューマンケアⅠ実習	実習	7	実習態度・実習先評価	100.0	0.0	100.0	42.9	42.9	14.2	0.0

■情報ビジネス学科

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	国語表現	講義	62	提出物・出席・小テスト	100.0	0.0	100.0	67.7	21.0	11.3	0.0
	社会心理学	講義	43	試験	95.3	0.0	95.3	34.8	25.6	34.9	4.7
	経済学	講義	62	試験・課題・態度	60.9	24.6	85.5	24.3	17.7	43.5	14.5
	法学概論	講義	38	試験・課題・態度	81.6	13.2	94.8	13.2	42.1	39.5	5.2
	数学概論	講義	6	試験・小テスト	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	現代環境論	講義	41	試験・態度	80.5	0.0	80.5	73.2	2.4	4.9	19.5
	健康とスポーツ	講義	38	出席・レポート	100.0	0.0	100.0	84.2	15.8	0.0	0.0
	福祉総論	講義	57	試験・レポート	100.0	0.0	100.0	49.1	29.8	21.1	0.0
	現代職業論	講義	54	レポート・態度・出席・小テスト	100.0	0.0	100.0	70.4	14.8	14.8	0.0
	キャリア開発論	講義	45	出席・課題・小テスト・試験	66.7	22.2	88.9	37.8	17.8	33.3	11.1
	実用英語	演習	34	試験・出席	91.2	8.8	100.0	58.8	8.8	32.4	0.0
	仏語	演習	3	出席・態度・理解度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	韓国語	演習	41	試験・態度	90.3	9.7	100.0	22.0	17.1	60.9	0.0
専門科目	中国語	演習	4	出席・試験・意欲・レポート	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	情報処理論	講義	68	課題・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	82.4	16.2	1.4	0.0
	コンピュータ科学	講義	55	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	58.2	18.2	23.6	0.0
	通信ネットワーク論	講義	59	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	64.5	18.6	16.9	0.0
	プログラミング概論	講義	42	試験・課題・態度・出席	100.0	0.0	100.0	47.6	23.8	28.6	0.0
	プログラミング演習A	演習	31	試験・課題・態度・出席	96.8	0.0	96.8	64.6	16.1	16.1	3.2
	プログラミング演習B	演習	16	試験・課題・態度・出席	100.0	0.0	100.0	75.0	12.5	12.5	0.0
	情報処理演習	演習	68	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	98.5	0.0	1.5	0.0
	インターネット演習	演習	68	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	89.7	10.3	0.0	0.0
	マルチメディア演習A	演習	66	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	63.7	31.8	4.5	0.0
	マルチメディア演習B	演習	62	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	62.9	25.8	11.3	0.0
	文書処理演習A	演習	67	試験・課題・小テスト・出席	100.0	0.0	100.0	73.1	17.9	9.0	0.0
	文書処理演習B	演習	60	試験・課題・小テスト・出席	100.0	0.0	100.0	81.7	11.7	6.6	0.0
	ビジネスコンピューティングA	演習	67	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	46.3	31.3	22.4	0.0
	ビジネスコンピューティングB	演習	65	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	60.0	23.1	16.9	0.0
	データベース演習A	演習	62	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	48.4	9.7	41.9	0.0
	データベース演習B	演習	15	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	33.4	13.3	53.3	0.0
	コンピュータグラフィックス	講義	41	課題・出席・レポート	87.8	0.0	87.8	82.9	4.9	0.0	12.2
	ウェブデザインⅠ	講義	57	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	66.7	26.3	7.0	0.0
	ウェブデザインⅡ	演習	56	課題・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	75.0	23.2	1.8	0.0
	ウェブデザイン演習	演習	57	課題・出席・レポート	93.0	3.5	96.5	82.5	10.5	3.5	3.5
	ウェブプログラミング演習	演習	48	態度・レポート	100.0	0.0	100.0	66.6	31.3	2.1	0.0
	情報と人間生活	講義	65	試験・出席	100.0	0.0	100.0	83.1	9.2	7.7	0.0
	企業とシステム	講義	29	試験・出席	86.7	6.4	93.1	27.6	37.9	27.6	6.9
	統計学概論	講義	16	試験・小テスト	68.8	31.2	100.0	31.3	25.0	43.7	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	統計学演習	演習	24	試験・課題・態度・出席	95.8	0.0	95.8	62.5	12.5	20.8	4.2
	オペレーションズリサーチ	講義	12	試験・課題・態度・出席	90.0	1.7	91.7	58.4	8.3	25.0	8.3
	プレゼンテーション概論	講義	49	試験・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	89.8	10.2	0.0	0.0
	プレゼンテーション演習A	演習	50	試験・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	48.0	50.0	2.0	0.0
	プレゼンテーション演習B	演習	47	試験・態度・レポート	95.7	2.2	97.9	55.3	12.8	29.8	2.1
	プレゼンテーション演習C	演習	45	試験・出席	84.4	0.0	84.4	64.4	20.0	0.0	15.6
	経営学概論	講義	68	試験・出席・小テスト	92.8	7.2	100.0	48.6	17.6	33.8	0.0
	マーケティング	講義	34	試験・出席・レポート	87.9	12.1	100.0	29.4	38.2	32.4	0.0
	経営史	講義	19	試験・小テスト・出席	77.8	6.4	84.2	31.6	15.8	36.8	15.8
	経営戦略論	講義	24	試験・出席・レポート	95.8	0.0	95.8	66.6	12.5	16.7	4.2
	現代企業論	講義	34	試験・出席	100.0	0.0	100.0	61.8	29.4	8.8	0.0
	国際経営論	講義	27	試験・レポート・出席	77.8	3.7	81.5	44.5	25.9	11.1	18.5
	簿記論	講義	59	試験・出席・態度・レポート	94.9	5.1	100.0	59.4	22.0	18.6	0.0
	財務諸表論	講義	47	試験・出席・態度・レポート	93.6	2.2	95.8	51.1	23.4	21.3	4.2
	原価計算論	講義	46	試験・出席・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	56.5	23.9	19.6	0.0
	国際会計論	講義	9	課題・態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	パソコン会計	演習	12	課題・態度・出席・レポート	83.3	0.0	83.3	83.3	0.0	0.0	16.7
	簿記演習A	演習	56	態度・出席・試験	98.2	0.0	98.2	66.1	19.6	12.5	1.8
	簿記演習B	演習	38	態度・出席・試験	89.5	2.6	92.1	50.0	26.3	15.8	7.9
	企業会計演習	演習	7	態度・出席・試験	100.0	0.0	100.0	85.7	0.0	14.3	0.0
	消費者行動論	講義	38	試験・出席・レポート	84.3	15.7	100.0	39.5	31.6	28.9	0.0
	消費者法	講義	6	試験・課題・レポート・出席・態度	100.0	0.0	100.0	33.4	33.3	33.3	0.0
	ビジネス実務法規	講義	13	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	76.9	23.1	0.0	0.0
	ビジネス実務総論Ⅰ	講義	68	試験・出席	100.0	0.0	100.0	89.7	7.4	2.9	0.0
	ビジネス実務総論Ⅱ	講義	63	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	60.3	22.2	17.5	0.0
	ビジネス実務演習Ⅰ	演習	61	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	55.7	36.1	8.2	0.0
	ビジネス実務演習Ⅱ	演習	59	試験・態度・出席	93.2	0.0	93.2	57.6	25.4	10.2	6.8
	キャリアプランニング	講義	68	課題・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	インターンシップ	演習	57	実習状況・課題・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ゼミナール	演習	67	卒論・卒業制作	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
医療管理 秘書士	医療管理学	講義	37	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	62.2	18.9	18.9	0.0
	医療秘書学	講義	37	レポート・態度	88.9	11.1	100.0	27.1	48.6	24.3	0.0
	医療事務総論	講義	36	試験・出席	78.4	21.6	100.0	44.5	19.4	36.1	0.0
	生活と医学	講義	41	出席・毎回のレポート	100.0	0.0	100.0	51.2	41.5	7.3	0.0
	公衆衛生学	講義	37	試験・出席	94.6	5.4	100.0	43.3	35.1	21.6	0.0

■専攻科 介護福祉専攻

(平成20年度修了生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)				
					本試	再試等	計	A	B	C	D	F
専門科目	社会福祉援助技術	講義	21	試験・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	4.8	66.6	28.6	0.0	0.0
	医学一般	講義	21	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高齢者の音楽指導	講義	21	発表・態度・出席	100.0	0.0	100.0	52.4	47.6	0.0	0.0	0.0
	高齢者の健康と運動	講義	21	レポート・プランニング・ロールプレイ・出席	100.0	0.0	100.0	0.0	84.2	15.8	0.0	0.0
	老人福祉論Ⅰ	講義	21	試験・レポート・態度・出席	100.0	0.0	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	老人福祉論Ⅱ	講義	21	試験・レポート・態度・出席	100.0	0.0	100.0	0.0	85.7	4.8	9.5	0.0
	リハビリテーション論	講義	21	試験・態度・レポート	100.0	0.0	100.0	81.0	19.0	0.0	0.0	0.0
	老人・障害者の心理	講義	21	試験・課題・出席・態度	100.0	0.0	100.0	14.3	61.9	23.8	0.0	0.0
	家政学概論	講義	21	試験・課題・態度	100.0	0.0	100.0	0.0	19.0	33.4	47.6	0.0
	家政学実習Ⅰ	実習	21	試験・態度・提出物	100.0	0.0	100.0	28.6	52.3	14.3	4.8	0.0
	家政学実習Ⅱ	実習	21	試験・提出物	100.0	0.0	100.0	0.0	61.9	38.1	0.0	0.0
	介護概論Ⅰ	講義	21	試験・態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	28.6	66.6	4.8	0.0	0.0
	介護概論Ⅱ	講義	21	試験・態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	38.1	61.9	0.0	0.0	0.0
	介護技術Ⅰ	演習	21	態度・試験・実技試験・出席	100.0	0.0	100.0	62.0	19.0	19.0	0.0	0.0
	介護技術Ⅱ	演習	21	試験・実技試験・出席・態度	100.0	0.0	100.0	19.0	52.4	28.6	0.0	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)				
					本試	再試等	計	A	B	C	D	F
専門科目	形態別介護技術Ⅰ	演習	21	試験・態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0
	形態別介護技術Ⅱ	演習	21	試験・態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	4.8	61.9	33.3	0.0	0.0
	介護実習Ⅰ	実習	21	実習課題	100.0	0.0	100.0	4.8	57.1	38.1	0.0	0.0
	介護実習Ⅱ	実習	21	実習課題	100.0	0.0	100.0	4.8	23.8	66.6	4.8	0.0
	介護実習Ⅲ（訪問介護含）	実習	21	実習課題	100.0	0.0	100.0	9.5	76.2	14.3	0.0	0.0
	介護実習指導	演習	21	態度・出席・実習先での評価・修了研究論文	100.0	0.0	100.0	38.1	42.9	19.0	0.0	0.0

■専攻科音楽専攻

（平成20年度修了生）

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	和声学（上級）Ⅰ	講義	5	試験・課題進捗・出席	100.0	0.0	100.0	20.0	20.0	60.0	0.0
	和声学（上級）Ⅱ	講義	5	試験・課題進捗・出席	100.0	0.0	100.0	60.0	0.0	40.0	0.0
	対位法	講義	4	出席・態度・課題レポート	75.0	0.0	75.0	25.0	50.0	0.0	25.0
	作曲法	講義	5	提出物・出席・態度	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	編曲法	講義	5	提出物・出席・態度	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	楽曲分析Ⅰ	講義	5	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	25.0	25.0	50.0	0.0
	楽曲分析Ⅱ	講義	4	態度・出席・レポート	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	ソルフェージュ	演習	5	試験・態度・出席	100.0	0.0	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	スコアリーディング	演習	5	実技試験・出席	100.0	0.0	100.0	20.0	60.0	20.0	0.0
	音楽学概論	講義	5	出席・諮問による理解度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽史特講	講義	5	出席・諮問による理解度	100.0	0.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0
	近現代音楽史	講義	5	平常点・レポート	100.0	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0
	音楽鑑賞法	講義	5	平常点・レポート	100.0	0.0	100.0	60.0	20.0	20.0	0.0
	専門研究Ⅰ	実技	5	実技試験・提出作品	100.0	0.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0
	専門研究Ⅱ	実技	5	実技試験・提出作品	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	重奏Ⅰ	演習	4	実技試験・練習・レポート	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	重奏Ⅱ	演習	4	実技試験	75.0	0.0	75.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	重唱Ⅰ	演習	1	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	重唱Ⅱ	演習	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ピアノⅠ	実技	3	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ピアノⅡ	実技	2	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	声楽Ⅰ	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	声楽Ⅱ	実技	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	合唱Ⅰ	演習	5	出席・態度	100.0	0.0	100.0	40.0	20.0	40.0	0.0
	合唱Ⅱ	演習	5	出席・態度	80.0	0.0	80.0	80.0	0.0	0.0	20.0
	学内演奏	実技	5	総合評価	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	修了演奏	実技	5	総合評価	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
音楽療法士（1種）	音楽療法研究A	講義	2	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法研究B	講義	1	出席・態度・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法特論	講義	1	出席・レポート・態度・小レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法の理論と技法	講義	1	出席・試験・小レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法グループワークA	演習	1	態度・出席	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法グループワークB	演習	1	態度・出席	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	教職概論	講義	1	試験・態度	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生活情報論	講義	1	試験・レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	障害児教育	講義	2	試験・出席	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	臨床心理学	講義	2	試験・受講姿勢	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	社会福祉	講義	1	レポート・試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法臨床演習	演習	2	態度・提出物	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法臨床実習Ⅰ	実技	1	態度・提出物・事例報告書	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法臨床実習Ⅱ	実技	1	態度・提出物・事例報告書	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

各学科における評価と単位認定は、一人、または複数の教科担当教員が行っている。すなわち、科目(教養、専門、資格関連)の特性と、授業形態(講義、演習、実習、実技)に応じ、適切な評価方法(筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、出席、授業参加度等)を組み合わせ、総合的に判断している。

教員は、学生一人ひとりの目標に到達させるべく、日夜努力している。また、各教員がそれぞれに実施している指導と評価等について、常に学科内会議等で相互に意見交換をし、さらにきめ細かく効果的な指導と適切な評価をめざし、研鑽につとめている。

総合生活学科では、学科の性格上オムニバスの授業が多い。そのため各担当教員等で授業の分担等事前の打ち合わせを充分行っている。また、単位認定の際には、採点基準や配点等きめ細かく協議の上真剣に単位認定を行っている。

保育学科では、保育士資格等の資格要件のカリキュラムが過密であること、また、2年生は実習で2ヶ月間学外に出るので、その間の補講をその前後で全て実施すること等から、教員も学生も教育目標を達成する関門としての評価・単位認定には真剣である。

英語コミュニケーション学科では、英語力等の点数による判定以外に、多面的に各科目の日常的な授業参加の態度や努力、理解力、応用力等をその評価と単位認定の要素としていることは、教育的であると考えている。しかも、教員が相互に意見交換し、学生をより幅広い視点から評価しようと努力している。

音楽科では、個人レッスンや、少人数の授業が多いため、学生の習熟度を教員はよく把握し、また随時個別指導も行き届いているので、単位不認定者は少ない。また、一つの科目に多くの教員が認定に当たるので一定の共通した評価基準により評価が行われている。

情報ビジネス学科では、学習状況が順調でない学生に対しては課外授業を行う等の対応をきめ細かく行っており、単位不認定者を最小限にするように努力している。なお、学生の出席状況や学習状況については毎週の学科内会議で教員間の情報交換を実施している。

また、**専攻科の各専攻**では、少人数教育のメリットを活かして、個別指導等を懇切丁寧に実施しているので、単位不認定者はほとんどいない。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

多くの講義科目については学期末に行われる定期試験の結果を中心に、授業の性質によりその他の要素を加味し評価している。どのような要素を評価の対象とするか、またその比重をどうするかは各担当者に任せている。具体的には、随時実施する小テストやレポート等である。多くの演習科目では、課題提出、演習テスト等を中心に完成度や成績により評価している。実習科目では課題の提出や試験、レポート等を中心に評価している。実験では授業中の取り組み態度、実験結果レポート等であり、おおむね妥当な評価がなされている。

このほかに、検定等を取得した場合それぞれのケースに応じて所定の単位を認定している。単位認定方法としては新しく、今後実態を見ながら検討をしていく必要がある。いずれのケースも特に学生から不満の申し立てはなく、緊急の課題はないものと考えている。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

学生による授業評価の一環として、過去4年間（平成17～20年度）、毎年前後期の2回、学生に「学生による授業評価アンケート」を実施しているところであるが、このアンケートの中に、授業に対する満足度についても質問を設けており、学生の感想や問題点を整理し、できるだけ満足度を高めるよう各教員は努力している。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の理解度、意欲等それぞれ異なる学生を対象にした一斉授業では、十分な満足度を図ることはなかなか困難であるが、可能な限り応答的な授業形態をとり、学生の幅広い要求に応えていけるように授業を工夫している。専任教員については、定められたオフィスアワーに限らず常時、学生の疑問や質問については授業外で個別に学生の指導に当たっており、結果として満足いくものにするよう配慮している。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の授業に対する満足度はこれで充分であるといったものでなく、日々努力と改善が要求される。そしてこれは学生に対する大学の大きな使命であると考えており、先に述べた「学生による授業評価アンケート」や「公開授業」を通じて、さらなる改善を目指して努力している。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の退学、休学、留年等の数を、学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

過去3ヶ年の学科ごとの退学、休学、留年等の状況は以下のとおりである。

表4. 3 退学者等一覧表

(平成21年3月31日現在)

入学年度	平成18年度入学生						平成19年度入学生						平成20年度入学生					
学 科 名	総 合 生 活 学 科	保 育 学 科	英 語 コ ミュ ニ ケー ション 学 科	音 楽 科	情 報 ビ ジ ネ ス 学 科	小 計	総 合 生 活 学 科	保 育 学 科	英 語 コ ミュ ニ ケー ション 学 科	音 楽 科	情 報 ビ ジ ネ ス 学 科	小 計	総 合 生 活 学 科	保 育 学 科	英 語 コ ミュ ニ ケー ション 学 科	音 楽 科	情 報 ビ ジ ネ ス 学 科	小 計
入学者数	78	113	48	31	71	341	93	125	31	28	70	347	101	104	34	25	83	347
うち退学者数	6	5	5	3	2	21	5	5	1	0	2	13	5	3	3	3	0	14
うち休学者数	1	3	2	2	0	8	2	2	4	0	1	9	0	2	1	0	0	3
休学者の内の復学者数	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
うち留年者数	2	4	1	4	1	12	2	2	4	0	2	10	0	2	0	0	0	2
卒業者数	71	105	43	26	68	313	86	120	26	29	67	328						

入学年度	平成18年度入学生				平成19年度入学生				平成20年度入学生			
専攻科 専攻名	幼児 教育専攻	介護 福祉専攻	音楽 専攻	小 計	幼児 教育専攻	介護 福祉専攻	音楽 専攻	小 計	幼児 教育専攻	介護 福祉専攻	音楽 専攻	小 計
入学者数	0	21	6	27	0	31	5	36	—	21	7	28
うち退学者数	0	0	0	0	0	1	0	1	—	0	0	0
うち休学者数	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
休学者の内の復学者数	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
うち留年者数	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
卒業者数	0	21	6	27	0	30	5	35	—	21		

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

過去3ヶ年における短大全体の退学理由(実数と%)は以下のとおりである。

表4. 4 過去3ヶ年における短大全体の退学理由(実数と%)

	平成18年度入学生		平成19年度入学生		平成20年度入学生	
	実数	%	実数	%	実数	%
進路変更	11	52.4	9	64.3	10	71.4
学習意欲の喪失	1	4.8	1	7.1	2	14.3
家庭の事情	2	9.5	0	0.0	0	0.0
経済的理由	0	0.0	0	0.0	0	0.0
結婚・育児	3	14.2	3	21.4	0	0.0
病気治療	2	5.6	0	0.0	0	0.0
自分に合っていなかった	1	11.1	0	0.0	1	7.1
人間関係	0	0.0	0	0.0	0	0.0
通学が困難になった	0	0.0	0	0.0	0	0.0
一身上の都合	1	0.0	1	12.5	1	7.1
合計	21	100.0	14	100.0	14	100.0

各学科とも退学者の退学理由は、「進路変更」が60%を超えて最も多く、次に「学習意欲の喪失」が挙げられている。各専門分野を決め、将来への夢を持って入学した学生が、最終的に退学を決意する前までには、必ず学科の担任等が相談を受け、必要な助言を行っている。また、休学や留年中の学生達には定期的に連絡を取り、必要な情報を与えつつ、指導を継続している。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

各学科の退学者数の現状については、表4.3の通りである。いずれの学科も、退学理由として、①進路変更、②学習意欲の喪失、③経済的理由、④結婚・出産等が該当している。本人の将来を考慮し、担任教員等が保護者と連絡を取りつつ、退学する前に休学を勧める指導も行っている。

休学者についてもその理由は、進路の再検討、経済的理由等である。また、件数は少ないが後期必修科目の単位不足で次年度前期の休学者もいる。中には、学習意欲の復活や不足単位取得のため復学する者もいるが退学につながるケースが多い。その他、人間関係で

の悩みやアルバイトに熱中した結果の欠席が休学等に直結することもある。

退学や休学を可能な限り防止するため、各学科の全教員が学科内会議等で情報交換をし、保護者と連絡を密にする方策等を採っている。また、経済的な理由による退学・休学防止策として、学費の分割支払いや、学内外の奨学金制度を充実させる努力もしている。

これらの現状に対して、**総合生活学科**では、入学選考の基本姿勢や入学後の学生の目標設定支援等について検討をする必要も感じている。**保育学科**では、日常から学生とのコミュニケーションをとり一刻も早く学生の心の揺れを察知する努力をしている。学業不振者には、指導上の工夫を重ねている。**英語コミュニケーション学科**では、授業時数と欠席回数の関係を見て、家庭に警告書等を送付し、保護者に状況を通知している。**音楽科**は、退学者・休学者とも数は少ない。**情報ビジネス学科**では、進路変更に対する指導のためのシステム作りを行う必要があると判断している。**専攻科**で学ぶ学生は、勉学への強い意志を持って来ているので、退学や休学はあまりないが、**専攻科介護福祉専攻**においては、社会人経験者も在籍しているため、退学・休学の状況もそれなりの理由があるのが現状である。

（４）学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

短期大学の多くの学科等で全入の時代を迎えた現在、基礎的学力や学習に対する意欲に乏しい者が一部であるが入学してきている現状がある。このような学生が大学の授業について行けなくなったり、学習の意味が見出せないまま、漫然と学生生活を送ったりしており、この結果、途中で退学してしまうことが見られる。入試のあり方を検討し、勉学に意欲を持った者を選べるようにするとともに、入学後に学習意欲を喚起する方策を多面的に講ずる必要がある。

一方では近年、経済的な理由により、退学を余儀なくされる場合もある。公的奨学金制度の利用が考えられるが、これだけでは充分でないケースも多く、大学独自の支援方法の拡大に向けて着手している。

【資格取得の取組みについて】

（１）《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】（３）で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）を学科等ごとに示して下さい。

表 4. 5 免許・資格等の取得者状況(平成20年度卒業生)

学科・専攻	免許・資格の名称	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合(%)
総合生活学科	訪問介護員養成研究2級課程修了証書	16	15	93.7
	訪問介護員養成研究1級課程修了証書	4	4	100.0
	ビジネス実務士	47	39	82.9
	医療管理秘書士受験資格	42	41	99.6
	介護保険事務管理士受験資格	34	33	97.0
	フードコーディネーター3級	21	20	95.2
	社会福祉主事任用資格	77	77	100.0
保育学科	幼稚園教諭二種免許状	123	117	95.1
	保育士資格	123	120	97.6
	社会福祉主事任用資格	123	123	100.0

学科・専攻	免許・資格の名称	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
英語コミュニケーション学科	中学校教諭二種免許状（英語）	9	9	100.0
	ビジネス実務士	12	12	100.0
	児童英語教育コース修了証	8	8	100.0
	小学校英語指導者資格	8	8	100.0
	社会福祉主事任用資格	26	26	100.0
音 楽 科	中学校教諭二種免許（音楽）	14	10	71.4
	音楽療法士（2種）	18	15	83.3
	幼稚園教諭二種免許状	1	1	100.0
	社会福祉主事任用資格	17	17	100.0
	訪問介護員養成研究2級課程修了証書	7	7	100.0
情 報 ビジネス 学 科	情報処理士	25	25	100.0
	上級情報処理士	43	43	100.0
	ビジネス実務士	22	22	100.0
	上級ビジネス実務士	39	38	97.4
	プレゼンテーション実務士	32	27	84.4
	ウェブデザイン実務士	42	41	97.6
	医療管理秘書士受験資格	36	36	100.0
	社会福祉主事任用資格	48	48	100.0
専攻科介護福祉専攻	介護福祉士資格	21	21	100.0
専攻科音楽専攻	音楽療法士（1種）	2	1	50.0

■総合生活学科

当学科では、平成10年度に免許や資格等の大幅な見直しを実施し、その後平成16年度からフードコーディネーター3級の資格取得可能なフードクリエイトコースを新設した。

訪問介護員2級の資格については、社会状況の変化により平成14年度の資格取得者54名を最高に減少の傾向にある。1級資格取得者は平成11年度から見ると徐々に増加の傾向にあったが平成17年度から少しずつ減少している。ビジネス実務士は、増加の傾向にある。また、医療管理秘書士は毎年、取得率が高い。

■保育学科

卒業時点の取得資格割合が下がっている。これは、実習に必要な学業が不振であることと保育者になるという目的意識が弱くなっているのではないかと考える。

入学時点での目的意識を具現化する過程で、学生の継続的な努力を推進するよう、今まで以上に教員による学生への細やかな支援・関わりが必要であると考えている。

■英語コミュニケーション学科

中学校教諭二種免許状（英語）の取得者は、1人を除いて全員が児童英語教育コースに属しており、小学校英語指導者資格も併せて取得した。小学校英語必修化の影響である。ビジネス実務士は全体の約半数がめざした。社会福祉主事任用資格は学生の申請により交付しているが、希望者は増加している。

■音楽科

中学校教諭二種免許状（音楽）は音楽科開設以来、音楽療法士（2種）、幼稚園教諭二種免許状、社会福祉主事任用資格は平成12年に取得可能とした。

中学校教諭二種免許状（音楽）は音楽科開設以来多くの取得者を輩出してきた。中学校の教諭や音楽教室の講師等、音楽を教える立場で仕事をしている者も多い。最近では音楽を医療の現場で活かしたいとの学生がおり、音楽療法士取得者も確実に増加している。

■情報ビジネス学科

情報ビジネス学科では、学生の学習到達度を第三者に示す手段という位置づけで、実務

士や各種資格・検定取得を積極的に指導している。その結果、多くの学生が複数の実務士や各種資格検定を取得する傾向にあり、この資格を活かした就職先の開拓、支援にも取り組んでいる。

■専攻科介護福祉専攻

専攻科介護福祉専攻では、表4.5のように、ほとんどの学生が資格を取得している。本専攻の卒業時には保育士資格・幼稚園教諭二種免許状と併せて、社会福祉主事任用資格も取得できているため、介護への就職は有利である。

■専攻科音楽専攻

平成19年度より全国音楽療法士養成協議会認定の「音楽療法士（1種）」の資格を導入し、音楽療法士（2種）と併せて施設への就職を有利にした。

（2）今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

■総合生活学科

前述のとおり、平成10年度に免許や資格等の大幅な見直しを実施し、その後平成16年度からフードコーディネーター3級の資格が取れるフードクリエイトコースを新設した。また、平成18年度より介護保険事務管理士の資格の導入を図った。資格等については学科内の会議で常に議論をしており、社会や学生のニーズに応えるべく新しい資格の導入を検討している。

■保育学科

平成20年度より児童厚生二級指導員資格を導入したが、今後もまた新しい資格等を検討していく予定である。

■英語コミュニケーション学科

平成20年度からプレゼンテーション実務士を取得可能としたので、現在のところ予定はない。

■音楽科

平成19年度から訪問介護員2級の資格を取得可能とした。現在のところ新規導入の予定はない。

■情報ビジネス学科

時代の要請に応じて、随時取得可能な資格について検討していきたいが、検討を加えて変更をした直後であり、今しばらくは経過をみる期間と考え、現在のところ導入の予定はない。

■専攻科介護福祉専攻

介護の現場で働く卒業生の多くは、5年間の実務経験を積んで介護支援専門員の資格を取得したり、社会福祉士受験資格を取るために通信教育で社会福祉系の大学へ編入したり、また、理学療法士・作業療法士・看護師資格を取得するために、さらに学業を続けている。

現状では、今回のカリキュラム改正の方向性を確認した上で検討すべきと考える。

■専攻科音楽専攻

平成19年度から、全国音楽療法士養成協議会認定の音楽療法士（1種）の資格を取得可能にしたので、現在のところ導入の計画はない。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

■総合生活学科

訪問介護員1・2級及び医療管理秘書士、介護保険事務管理士等医療事務関係の資格が専門職といえる。訪問介護員1級の資格取得者はほとんどが専門就職を希望するが、2級資格取得者は一般企業への就職を希望する者も多い。また、医療事務関係は資格取得希望者に対して専門就職先が少なく、一般事務職として就職する者が多い。

■保育学科

保育士や幼稚園教諭が専門職。ほぼ全員が希望どおりの専門職への就職をしている。

■英語コミュニケーション学科

英語教員が専門職。専門職の希望者自体が少ない。大部分が一般就職を希望する。

■音楽科(専攻科を含む)

塾講師を含め音楽教師が主な専門職。専門就職希望者の就職率については満足できるが、専門就職への希望者が少ない。学科では専門就職割合を高めたいと考えている。

■情報ビジネス学科

情報ビジネス学科では、ほとんどの学生が一般企業への就職を希望するため、専門職への就職はない。しかし、ここ数年では、プログラマーやウェブデザイナー等の職種を希望する学生が増えつつある状況であり、今後対応を検討する必要があると考えている。

■専攻科介護福祉専攻

専攻科修了で取得した専門資格である介護福祉士を活かせる介護福祉関連施設に就職した者の評価は高く、求人数も多い。

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

卒業生に対する就職先・進路先からの評価は概して好評である。一般企業等就職先については、各年度の12月～3月の間に、学生の内定先企業を就職支援部の職員が情報交換も含めて訪問をしている。訪問することで、企業の人事担当者と情報交換を密にし、卒業生の勤務状況の把握に努めている。なお、卒業生に対する就職先からの評価については、2、3年以内にアンケートを実施する予定にしている。

1) 専門就職先からの評価

全体的には、本学卒業生は、気軽によく動き、明朗であると高い評価を得、好感を持って受け入れられている。学科別の状況は以下のとおりである。

総合生活学科では、訪問介護員専門職について、生活学を基礎とした訪問介護員を養成しているので在宅・施設ともに高い評価を得ている。1級資格取得者は就職先上司から特に高い信頼を得ている。また、**保育学科**においては、保育士や幼稚園教諭は、子どもやその保護者達と直接接する職であり、子どもや保護者への関わり方の良さや挨拶・笑顔等が良

いことが望まれる。本学の卒業生は、その適性に加えて、専門職に就いた人間として、日々、研鑽を積んでいる。次に、中学校、小学校、私塾、福祉施設等の臨時職員に採用された**英語コミュニケーション学科**の卒業生については、真剣に努力していることが認められ、現場では好感を持って受け入れられている。中学校の非常勤講師について校長より称賛された例もある。そして、**音楽科及び専攻科音楽専攻**では、目標に向かって努力して専門職に就いた卒業生が多く、企業からの評価も高い。また、**専攻科介護福祉専攻**においては、介護福祉士の専門性と、人間的な暖かさや誠実さが評価されている。

2) 一般企業等就職先からの評価

全体的に、満足して働く様子が窺え、適応性が高く、明朗で協調性がある等、良い評価を得ている。学科別の評価は、次のとおりである。

まず、**総合生活学科**の卒業生は銀行、各種販売、事務、各種製造、各種サービス業等と就職先が幅広く、責任感があり素直で明るいとの評判を聞くことがある。また、銀行、病院受付、自動車販売等に就職した**保育学科**の卒業生も、専門職就職者と同様に評判は良い。そして、職場での人間関係も良好で、実践的な英語力を活かしているケースがあるのは、**英語コミュニケーション学科**の卒業生である。**情報ビジネス学科**の卒業生は、様々なスキル面での評価が高く、卒業生の退職者が出た場合、補充を申し込まれることがある。

3) 編入先その他の進路先からの評価

四年制大学の3年次編入者が毎年数人あるが、いずれもよく能力を発揮していると評価されている（**保育学科、英語コミュニケーション学科、音楽科、情報ビジネス学科**）。

（3）卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

平成20年度は、本学の平成19年度卒業生全員（専攻科は除く）対象に卒業から半年後の時点での卒業後評価を実施した。また、平成20年度も2学科が大学祭を利用して、学科単位で卒業生を迎え、交流・評価を行った。

1) 平成19年度卒業生対象「中国短期大学卒業生アンケート」実施と結果

① アンケート項目と内容

アンケートは、以下の内容についての8項目から成る。

1. 卒業生の現況
2. 本学での学びと学生生活について（授業、資格、学生生活全般等）
3. 本学に対する卒業生周囲の評価

② アンケート回収率と結果

全体の回収率は26.4%（本科卒業生総数318、回答者総数84）であり、回答内容は以下のとおりであった。

- ・ 短大の2年間で学んだ科目や授業の内容は、89.3%が適切であったと回答している。
- ・ 卒業後、役立っている資格や科目内容としては、各学科が取得を支援しているものや社会ですぐに役立つ実用的なものが多かった。また、在学中は分野的になか

ったものの、卒業後に習得できていたらと感じたものも、やはり、職業に関する実践的なものが列挙されていた。

- ・ 本学で学んだことにより、自己実現への道を歩んでいるかという自覚については、63.9%が肯定的な回答をしている。これは、学科の特質にもよるが、卒業後半年後ということもあり、自分が希望する職種にすぐ就くことができた卒業生の場合は満足度が高く、そうではない場合は判断ができないために出てきた数値と認識している。
- ・ 本学での学生生活全般(勉学、その他)に満足しているかという質問項目では、88.1%が満足していると回答している。
- ・ 周囲の本学への評価は、良いという回答が77.1%、どちらとも言えないが22.9%で、悪いという評価は皆無であった。

③今後の卒業生に対するアンケート計画

平成21年度も引き続き、実施の予定であるが、質問項目の検討をしつつ、専攻科修了生へのアンケートも実施することになっている。

2)学科別研修やアンケート、及び在学生との交流等

平成20年度も**保育学科**が、第3回リカレント研修を大学祭開催時に実施した(平成20年10月19日(日)10:30~12:30)。テーマは、「保育所保育指針の改定に当たって」であり、その後、卒業生と学科教職員との懇親会がもたれた。保育学科では過去4年間の卒業生を対象として、アンケートを行った。内容は大別すると、①本学での教育・学生生活、②就職支援、③教員への卒業後の連絡・報告、④リカレント研修、の4領域10項目からなっている。回答者は43名、その約半数は保育士として勤務しており、アンケート結果として特筆すべきことは①と②に対する卒業生の肯定的な評価は非常に高いことである。①は全員が良かったと回答しており、その理由として74%が資格の取得をあげている。②も86%が良かったと回答している。③についても72%が卒業後、教員と連絡をしている。そしてその半数が3回以上連絡を取っていることから、教員との連絡・相談が密であることがわかる。

また、今後のリカレント研修のテーマ希望は、「気になる子どもへの対応」が約半数をしめるが、その他の記述でも「幼稚園教育要領の改訂について」とあり、全員が専門性を高めるための研修を希望していると判断できる。

また、平成20年度に**総合生活学科**が、同じく大学祭を活用して、卒業生と在校生の交流の場である「第2回総生サロン」を開催した。会場には、展示物等が用意され、卒業生約30人と在校生延べ約120人が教職員とともに学科の教育内容の変遷と現状を確認した。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

概して、明朗活発、素直で協調性がある、積極的で責任感がある等、肯定的な評価である。なお、**保育学科**については、卒業生の評価が在学生にまで及び、例えばキンダーフェスティバル等幼稚園や保育所の大きな行事へのボランティア依頼が多い。また、直接的な就職依

頼も多く、時に、就職先から苦情が出た場合、学科長や就職担当が出向いて即応すること等から、社会からの評価は高い。

【特記事項について】

（１）この《Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

（２）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈参考資料〉 ４．平成２０年度「学生による授業評価アンケート」（質問票及び集計結果一覧）

１０．平成２０年度「卒業生アンケート」（質問票及び集計結果一覧）

１１．平成２０年度学科別研修会及びアンケート
「第３回保育学科リカレント研修」関連資料
「第２回総合生活学科総生サロン」関連資料

《Ⅴ 学生支援》

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

各学科とも、入学志願者に対しては、①紙媒体(「大学案内」や「募集用セカンドパンフレット」)、②インターネット上のホームページ、③オープンキャンパス、④各種進学相談会等を利用して、建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像(アドミッション・ポリシー)について、口頭やパワーポイント、ビデオ等で明示するようにしている。志願者を指導する高校側に対しては、学生募集のための高校訪問、年3回行われている高校教員対象の入試説明会等でこれらのことを確認している。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法(推薦、一般、AO入試等)をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

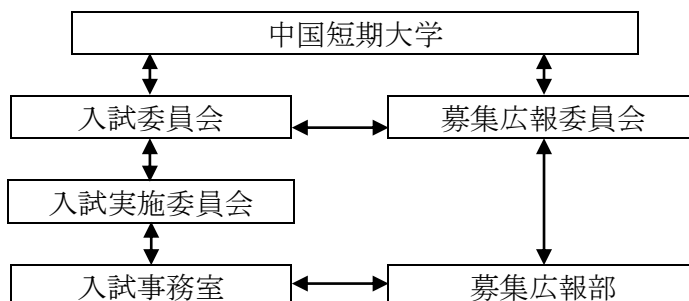
本学では多様な入学者選抜方法を設けて学生を募集している。推薦入試(公募・指定校・スポーツ)、AO入試、一般入試(前期・後期)、大学入試センター試験利用、特別選抜(社会人・帰国子女・外国人留学生)等の種類があり、各選抜における出願資格や要件、募集人員、選抜の内容も入学志願者に周知させている。入学者選抜の方針や選抜方法は、本学が各年度に発行する「学生募集要項」に詳細に明示した上で配布し、ホームページにも載せている。

(3) 広報及び入試事務についての体制(組織等)の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

1) 広報及び入試事務の体制

本学における広報及び入試事務についての組織体制は以下の図のとおりである。

図5. 1 広報・入試実務執行組織



■募集広報

中国短期大学の学生募集及びそのための広報活動は、併設の中国学園大学と一体化した活動として、募集広報部を中心に教職員が連携し、組織的に取り組んでいる。募集広報部は、常勤2名、兼務2名、広島連絡所担当1名、また平成21年度からは非常勤職員1名

を加えた事務系職員で構成している。ここでは募集広報活動に関する企画・立案を行うと共に、学内組織の「募集広報委員会」に諮り、各学科の教員及び関係部署と連携しながら密度の濃い募集広報活動を運営している。

なお、学生募集のための主な募集広報活動は、

- ①高等学校訪問、②業者主催進学相談会への参加、③業者主催高等学校内進学相談会への参加、④本学見学会の受け入れ（高校単位及び個人）、⑤入試説明会の開催（高校教員対象）、⑥オープンキャンパスの企画・運営、⑦大学案内・学生募集要項等印刷物の作成、⑧受験情報誌等への広告及びアンケートに対する対応、⑨新聞広告・看板広告、⑩ホームページによる情報公開、⑪その他、である。

■入試実務

入試実務は、中国学園大学と中国短期大学双方の入試を統括する入試委員会が学生募集要項・入試実施要項等入試全体に係る枠組みを決定している。その上、入試実施委員会が実施上の方針を組み立て、実際の入試実務は入試事務室が担当している。入試委員会及び入試実施委員会は学長を委員長とし、入試実施委員会では、その下に6人の副委員長を配置している。両委員会は、入試に関する9つのカテゴリー（①願書受付、②資料作成、③問題作成、④採点、⑤試験監督、⑥調査書・面接、⑦会場準備案内、⑧入学手続き、⑨AO入試）に分類された職務内容を担当し、最終決定を行う。なお、各カテゴリーには、係の主任が選任されて万全の体制を整えており、入試の事前・事後の実務の流れを一貫して処理する入試事務室（14名）の人員の他、各学科教員や本部事務局職員、及び学科の事務職員ら総勢50名余りが連携し、対応している。

2) 入学志願者、受験生等からの問い合わせへの対応体制

入学志願者、受験生等からの問い合わせには、募集広報部と入試事務室が窓口になり、志願希望の当該学科内担当者も対応する場合もある。詳細な説明やキャンパス見学を希望する場合や、保護者も理解を深めたい場合等は、個人的に、または保護者同伴で来学する受験生もあり、担当者は勤務時間外や休日であっても懇切丁寧に対応している。

（4）願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れ

本学における入学試験について、各選抜方法別に願書受付から合否通知にいたるまでの流れは、大要下記のとおりである。

① 公募推薦入試

願書受付 → 選考（書類審査・※作文・面接） → 判定教授会（合否決定） → 合格通知（※音楽科は音楽実技または作文）

② 特別指定校推薦入試（専願）

願書受付 → 選考（書類審査・面接） → 判定教授会（合否決定） → 合格通知

③ スポーツ推薦（女子ソフトボール）

願書受付(出願は内諾者のみ) → 選考(書類審査・面接・実技) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知

④ 一般入試(前期・後期)

○前期: 願書受付 → 選考(書類審査・※学力検査; 筆記試験1科目・面接) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知(※音楽科は音楽実技または学力検査)

○後期: 願書受付 → 選考(書類審査・※小論文・面接) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知(※音楽科は音楽実技または小論文)

⑤ 社会人・帰国子女特別選抜

願書受付 → 選考(書類審査・※小論文・面接) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知(※音楽科は音楽実技または小論文)

⑥ 外国人留学生特別選抜

願書受付 → 選考(書類審査・※作文・面接) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知(※、英語コミュニケーション学科は基礎的な英語学力検査、音楽科は音楽実技検査)
なお、日本語能力については、「外国人留学生特別選抜要項」の出願資格の中で、日本語能力試験2級以上(日本国際教育支援協会)、または日本留学試験成績上位の者(日本学生支援機構)と本学が判定する者と定めている。

⑦ 大学入試センター試験利用(I期・II期)

願書受付 → 選考(書類審査・学力検査; 大学入試センター試験利用1科目) → 判定教授会(合否決定) → 合格通知

⑧ AO入試

エントリー(受験生) → 面談日の確認連絡(本学) → 面談 → 判定会議(諾否決定) → 出願(内諾者のみ、専願) → 選考審査(書類審査) → 判定教授会(合否判定) → 合格通知

2) 選抜方法の公正さと正確さ

本学における入試選抜は、諮問委員会である入試委員会と募集広報委員会、及び入試実施委員会での審議と合議を経て方針を定め、公正かつ厳正に行われている。実施にあたり、各委員会の規程に則り、募集要項と実施要項作成、入試説明会実施、入試問題作成、選考実施、合否審査や志願者や高校への通知、そして入学手続きに至るまで、全学科の協力の下、厳正に処理されている。特に受験生の合否判定については、次のとおり3段階を経て、厳格かつ公正に行い、不正やミスのないように実施している。

①学科判定会議 当該学科の教員で協議する。

②判定会議 学長、各学科長、部・館長で組織する判定会議で協議する。

③判定教授会 講師以上で構成する教授会を、判定教授会として開催し、最終決定する。

その後、受験者には合否の結果、さらに合格者には入学手続書類を同封して書面で通知する。合格者が所定の期日までに入学金・授業料等を納付した場合、入学許可書、入学式の案内等を送付する。入学手続き後、所定の期日までに入学を辞退した場合、入学金以外の納付金は返却することとしている。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等あれば参考資料としてご準備下さい。

合格決定から4月までの間に、入学関連の情報以外に何らかの変更があれば、そのことを伝えはするが、特に短大全体としての情報提供は行っていない。しかし、学科別の通達等を行っている。

たとえば、**保育学科**ではピアノの演奏、**情報ビジネス学科**では、パソコン技術の習得が必要になることを伝え、可能であれば技術習得に心がけ、入学後のスムーズな専門教育の学習が可能となることを期待している。**英語コミュニケーション学科**では、入学までに英語スキル向上用に学科独自に作成した教材(CD)を合格手続き者と出身高校に郵送している。いずれも義務的なものでなく、自発的なものとして扱っている。

(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

1) 全体オリエンテーション

従来は、入学式当日の入学宣誓式後、主として、**学生部、教務部、図書館、就職支援部**等が新入生と保護者を対象に大学の組織や事務手続きについて全般的な説明を行ってきた。しかし、平成21年度は、それを廃止し、各学科や各部署の責任において、詳細なオリエンテーションを実施するように変更した。入学式後、授業開始までに3～4日かけて、各学科オリエンテーション、教務部と各学科による履修指導と履修登録、学生部による新入生オリエンテーション、学友会行事等を実施するように変更した。図書館利用については後日、各科ごとに図書館員による、より具体的なオリエンテーションを実施している。その他、健康診断も実施している。

2) 学科別オリエンテーション

入学式当日、入学式後から学科別にオリエンテーションが開始され、学科によって1日から数日かけて実施されている。学科の特質に関するものを除くと、概要は以下の点に集約されるが、各学科とも資料を作成して、懇切丁寧な指導をしている。

- ①学科の教育理念や教育目標、②学科のカリキュラムの構成と内容、③資格と検定、④履修方法、⑤実習資格、⑥教科書や学用品購入の指導、⑦キャンパスの概要と設備の説明、⑧「学生便覧」を参照しての学生生活上の諸注意、⑨将来の進路、⑩学科教員の紹介、⑪上級生(専攻科生も含む)との交歓等。

なお、学科によっては、授業開始前や4月下旬に1日、または一泊の学外研修旅行等を実施している。

その他、**音楽科**では、学科及び専攻科音楽専攻の全学生と教員が一堂に会する全体オリエンテーションも実施している。この目的は、新入生と在学生、あるいは教員との顔合わせのためと、音楽科独自の授業形態である個人レッスンの時間割作成と時間調整である。なお、入学後個人面談を実施している学科もある。

3) 学生部「新入生オリエンテーション」

入学式翌日、新入生全員に対し、学生生活全般に関する注意事項等について説明してい

る。主な内容は、①「快適なキャンパスライフを過ごすための責任と安全について」、②「通学路の案内と交通安全・生活安全について」、③「学生支援全般について」である。このように、新入学生に大学生としての責任と自覚を促し、本学の学生支援の詳細な内容を説明する機会を持つことにより、学生課の重点目標である「規律、マナー、挨拶の向上」についても顕著な効果があがっている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学直後から、各学科では「学生便覧・授業概要」を指針に、教務委員や担任が中心となって、学習や科目選択等の履修登録等のオリエンテーションやガイダンスを実施している。学科の目的や目標に合わせて、新入生が専門的な知識や技術を効果的に習得できるよう、資格取得やコース選択も含めて2年間の効率的な履修モデルも提示している。その際、長年の指導経験から得られたノウハウをまとめて編集されたマニュアルを使用する学科も多い。

その指導項目としては、①履修の流れ及び卒業要件、②必修科目と選択科目、③コース選択、④資格と検定、⑤卒業、資格、免許・資格のための単位数、⑥時間割、⑦定期試験の受験資格、⑧成績、⑨追試と再履修、⑩実習資格、⑪公欠と欠席、⑫専門教室や設備の使用上の注意事項等である。

入学直後の説明では充分理解が得られないこともあるので、個別指導をしたり、成績返還日に繰り返し説明をしたりして、再度認識をさせている。この指導は学期ごとに形態と内容を必要に応じ、多少変更して実施している。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

基礎学力不足の学生に対する補習授業等の学習支援体制としては、さまざまなものがある。まず、本学では、全専任教員が授業時間以外にオフィスアワーをもうけて、さまざまな方式で学生に学習支援をすることが求められている。オフィスアワーの時間帯には、原則的に教員が個人研究室に待機して、その教員が所属する学科の学生のみならず、学科外の学生に対しても指導をすることになっている。もちろん、オフィスアワーに限らず各教員とも空き時間には学生からの要望に応じ個別指導を行っている。他にも、クラス形式の補習授業型指導、グループ及び個人指導等の形態で授業外の指導が行われている。

取組み内容とそれともなう形式としては、授業内容についての基礎学力不足のための指導は個別指導型が多いが、資格・検定取得のための受験対策指導はグループ形式、また**音楽科**の学生の場合のように実技の遅れを取り戻すために課題を出して指導する個別指導型等になる。**保育学科**では、専門職の就職試験に関する補習授業や勉強する場や時間の確

保の支援をしており、基礎学力向上のみならず、高い専門職の就職率に直結している。**英語コミュニケーション学科**や**情報ビジネス学科**でも、学生の学力のレベルに合わせて、指導や各種学習支援が放課後や夏期休業中の集中講義形式で実施されている。**専攻科介護福祉専攻**では、事例研究論文指導と共通試験対策授業を主として行っている。いずれの場合も、学生達には好評である。

将来的には、補習の形式での指導は、少人数教育を補完するものとして、e-Learningやパソコンソフト等の効果的な利用をさらに多くして、学生も自由に学習できるように、また、教員も指導をパソコン等ではできないものに限定して、さらに効率的な指導法を確立すべきである。計画的にスケジュールを組み、より多くの学生の意識を高める工夫をしていきたい。

なお、中国学園大学と連携して「学習支援センター」設置も将来計画の一端として浮上している。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

各学科とも、担任やゼミナール担当者が中心となって、学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言を行っている。担任による全員の面接が実施される学科も多い。また、出欠状態、勉学の意欲、生活態度等、休学や退学等につながる問題を抱えた学生がいれば、その後、学科内会議等で学科全教員の共通認識を持って対応をする。資格関係については、各担当教員が学生達の学習上の問題や実習等の相談に応じている。

指導助言等の時間としては、オフィスアワーをはじめ、授業のない時間帯、放課後等が充てられ、担任以外でも教員は親身になって、勉学、進路、社会生活等々、多岐に渡る指導・助言をしている。心の問題を抱えている学生のカウンセリングには学生生活担当員、担任の教員のみならず学科を挙げて対応している。さらに全学的な組織として学生相談室を設け、学科と連携・補完しながら、きめ細かい支援を実施している。このようなシステムにより、かなりの効果をあげていると判断している。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

高等教育のユニバーサル化により、本学でも入学時から様々なレベルの学生を受け入れている。

進度の速い優秀な学生達に対する具体的な指導として、①講義科目では参考文献の紹介をし、学生達の質問に答える、②実習科目については特別な課題を与える、③より上級の検定取得を奨励する、④放課後等で授業外の指導をする等、それぞれの学科特有の工夫がなされている。優秀学生の満足度を把握するために、学生の満足度に関する調査や優秀学生の希望調査等を実施して、今後の対応を検討中である。

学科別で述べると、**保育学科**では、ボランティアで保育所や幼稚園等の現場に行かせ、学生達に新たな学習課題を発見させている。数科目の授業でグレード制を導入している**英語**

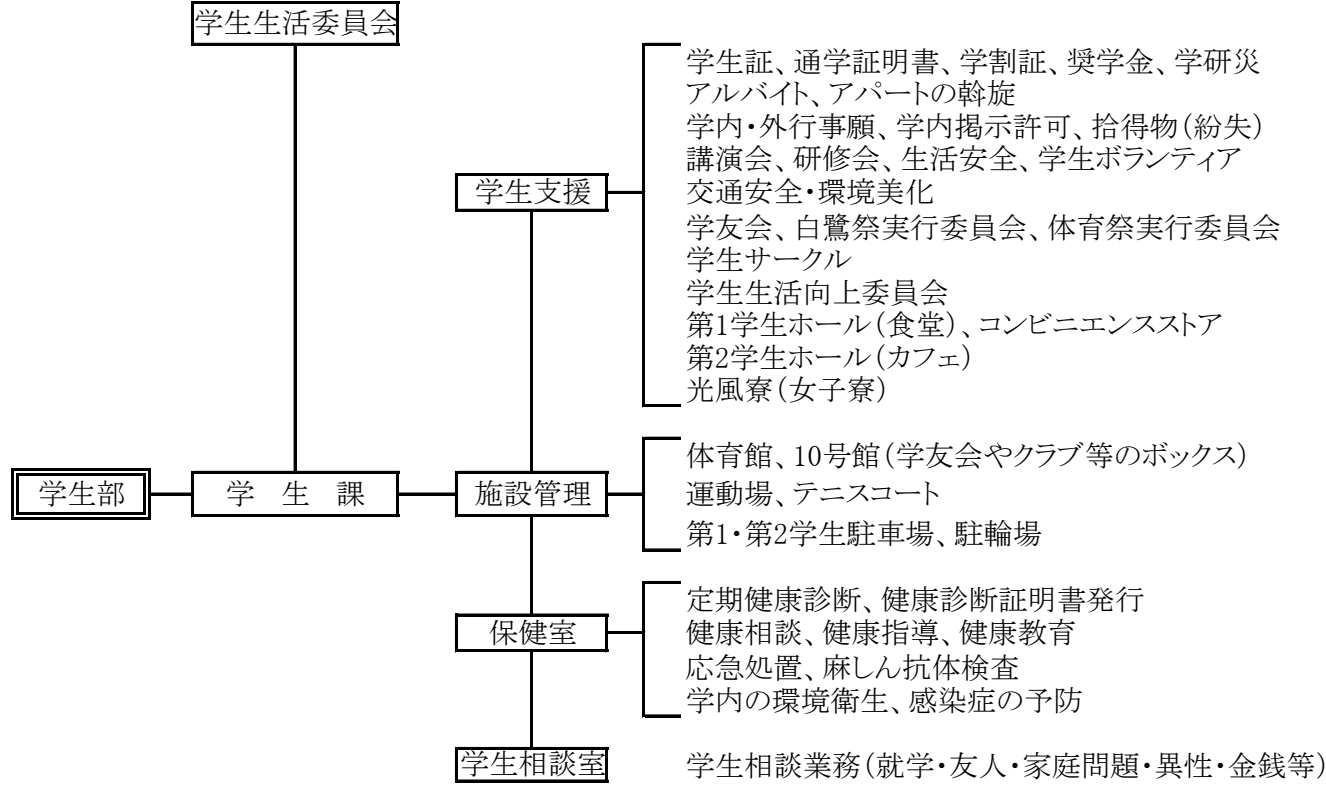
コミュニケーション学科でも、英検やTOEIC、TOEFL等の資格関連の指導を行い、効果を上げている。音楽科では、演奏レベルがトップクラスの学生に対しては、音楽科が催す行事・イベントへの参加が約束されており、大学祭に行われる特別学内演奏会、日頃の研鑽の集大成として行われる定期演奏会への独奏者としての推薦、外部コンクールへの参加、その他音楽科としての卒業生のための新人演奏会への推薦等、優秀な学生に対する配慮を教育上のシステムとして行っている。ゼミナールできめ細かい指導をしている情報ビジネス学科は、検定試験の奨励制度を設けることで、優秀な学生の経済面での負担を少なくするような工夫をしている。専攻科の各専攻でも、その専攻の特性を活かしつつ、少人数制で可能な範囲の配慮をしている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生生活を支援するための組織は、学生部を中心としたものを以下に示す。

図 5. 2 学生生活を支援するための組織や体制



(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

1) クラブ活動

クラブ・同好会の数は次表のとおりで、文化部20・体育部12の32団体である。

表 5. 1 本学におけるクラブ・同好会

文 化 部		体 育 部	
児童文化研究部	ルーチェ (コーラス部)	フットサル部	卓球同好会
チャイルドミュージッククラブ	図書館クラブ	女子ソフトボール部	CMX 同好会
茶道部	K i - Z o o 同好会	ソフトテニス部	
軽音楽部	鼓魂	バレーボール部	
E S S 部	ビリヤード同好会	バドミントン部	
自転車同好会	A n d a r e 同好会 (吹奏楽部)	バスケットボール部	
ピーチピッツ (英語劇部)	ヨガ同好会	合気道部	
わくわく保育研究会	お日さまクラブ同好会	ダンス部	
中短の音楽牧場	文芸同好会	軟式野球部	
ピアノサークル	ボランティアサークルハレ	柔道同好会	

これらのクラブでは、学内の教職員が顧問を務めている。クラブに対する補助金は、学友会が部員数、活動実績に基づき予算配分を決定して補助し、また、クラブには部室を提供している。

こうしたクラブに所属する学生の動向は年々変化しているが、学科の専門教科に関連するもの（わくわく保育研究会、チャイルドミュージッククラブ、中短の音楽牧場等）には多数加入し、学園内外での活動も活発である。また、体育部の女子ソフトボール部においては、全国大会、西日本大会へ度々出場し、全国に名を馳せている。

2) 学友会

併設の中国学園大学と合同の学友会であるため、すべての行事は合同で行われる。

① 体育祭

学生の親睦、交流を深める場として、毎年5月に体育祭を開催している。主催は学友会であるが、各学科クラスより選出された体育祭実行委員と連絡会を重ねプログラムの決定から役割分担等を行う。教職員とは事前に連絡協議会を開催し、大学行事として取り組んでいる。平成20年度には、10種類の競技が行われた。

② 大学祭(白鷺祭)

学友会内に設置された「白鷺祭実行委員会」によって企画・運営されているが、実行委員は学友会の役員以外の有志によって組織されている。白鷺祭の内容は、体育館内で行うプロコンサートと爆笑ライブ、野外ステージで繰り広げるパフォーマンスの数々、各クラス・クラブで出店する模擬店企画、知的障がい児(者)を招く福祉企画、研究発表・公演等が毎年定番となっている。

平成20年度、第43回白鷺祭は、平成20年10月18日(土)・19日(日)に実施され、そのテーマは「輝努愛楽～そのすべてが宝物～」であった。なお、各模擬店から収益金の1割相当額の徴収により、ユニセフへの募金を十数年継続している。平成20年度の募金額は88,998円であった。

③ 新入生歓迎会

新入生を対象に、学友会主催のクラブ紹介を新入生歓迎会と称して開催している。参加者は新入生ほぼ100%で、この場を利用して学歌指導も行っている。

④ 七夕祭

7月に入って、学友会主催の「七夕祭」を体育館で開催。「ゆかたやじんべいを着て七夕祭を味わおう!!」のフレーズで、音楽系のサークルによる発表や演奏、盆踊りも行われ、全員参加型のプログラムで行っている。

⑤ クリスマス会

12月下旬に、体育館を使ってクリスマス会を開催し、音楽科有志、各クラブによるクリスマスに因んだ演奏や合唱に、ダンス部、華道部（飾り付け）等の参加、ビンゴゲームも行われ、全員参加型の多彩なプログラムとなっている。

3) 全国私立短期大学体育大会

日本私立短期大学協会の主催で毎年開催されている全国大会に本学の体育部の参加を推奨している。平成20年度は、バドミントン部が参加した。

4) リーダーズキャンプ

本年度は、一泊二日の日程で実施される「リーダーズキャンプ」のプログラムの中に、「学長と語る会」を組み込んで実施した。このキャンプは、学外の研修施設を利用し、学友会役員、クラブ部長のリーダーとしての資質向上と学友会組織の活性化を目的として学生課の主管で実施されている。「学長と語る会」では、従来のメインメンバーであった「チーフリーダー」が参加、学長による講話の後、学生との間の幅広い意見交換がなされた。

（3）学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

表5. 2 学生の休息のための施設・空間

施設名		設置場所	設備・規模	備 考
第一学生ホール		本館1階	378㎡ 288席・飲食物・自販機	学食兼用 (他に厨房30㎡)
コンビニエンスストア		本館1階	39㎡ 学用品・飲食物・日用品	学生ホールに隣接
第二学生ホール		12号館1階	265㎡ 105席	学食兼用 (他にラウンジ23㎡厨房30㎡)
パティオ	南	校地南側校舎間中庭	約540㎡ 池泉・ベンチ・自販機	
	北	校地北側校舎間中庭	約285㎡ 東屋・ベンチ・自販機	
中央芝生広場		学内中庭空間	約1,600㎡	野外ステージ・芝生
保健室		12号館2階	18㎡	
学生相談室		12号館2階	13㎡	職員による学生への心のケア

1) 学生食堂

本館1階に、第一学生ホール（378㎡、288席）を設けており、コンビニエンスストア（39㎡）（平成21年5月より）と厨房（30㎡）を有し、食事・飲食ができ、空き時間での談話、自習場所としても利用されている。売店と食堂は業者委託である。

2) 保健室・学生相談室

12号館2階にある保健室には養護職員が救急処置や健康相談に応じている。また、定期健康診断で得られた資料を基に、一人ひとりの実態に応じた健康管理に努めている。AED（自動体外式除細動器）も設置している。また、隣には学生相談室を設け、学生生活全般の諸問題についてカウンセリングも行っている。

3) クラブ部室

敷地内の鉄筋4階建ての建物をクラブ部室としている。ただし、1階と2階に就職支援

課と同窓会本部がある。学友会と大学祭の本部の部屋については冷暖房を備えているが、個々の部室にはその設備がなく、部室の数は現在のクラブ数より少ない。部室の使用に際しては、衛生面、安全面において注意を喚起し、快適かつ安全な運営を求めている。

4) パティオ

南パティオと北パティオ2ヶ所に、椅子とテーブルに日除けをもった空間と自動販売機を設置し、学生の屋外での憩いの場所として提供している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

1) 学生寮

学舎から徒歩で2分ほどの場所に鉄筋3階建ての「光風寮」がある。収容定員は大学、短大を合わせて100名であり、全室個室の女子専用である。寮には、舎監（夫婦）が常駐し、寮生の日常的生活指導、施設の管理等行っている。また、寮の周囲には、セキュリティ・システムを設置し、寮生の安全に万全を期している。

個室の部屋にはエアコン、バス、トイレ、学習机、椅子、ベッド、カーテン、電話、インターネット環境等を完備し、快適な生活が過ごせるよう配慮している。共用設備として、各階に談話室と洗濯室を設置している。共同生活によって社会的規範を身につけられるように、朝の清掃から点呼、門限等日課規則を設けており、規則正しい生活を送ることによって、有意義な寮生活を送ることができるよう支援している。なお、19年度まではルームキーを舎監室で一括管理していたが、セキュリティの問題及び学生のプライバシー保護の見地から、平成20年度よりルームキーの個人管理に切り替えた結果、学生一人ひとりの責任感を高めることにもつながり、学生の評価は概ね良好である。

2) 下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制

学生寮は定員100名であること、女子専用であること等、男子学生や下宿希望者（約130名）は大学周辺の宿舍に入居することになる。本学では、入学願書に下宿希望欄を設け、合格後入学手続き者へ下宿案内を送付し紹介している。また、学生課の窓口のパソコンでも情報提供をしている。

仲介料を要しない家主と直接取り引きできる物件から不動産会社まで幅広く登録を行い、選択できるよう便宜を図っている。

3) 通学のための便宜（駐車場・駐輪場）

自動車通学を希望する学生には学生駐車場として第1・2学生駐車場合計100台分を確保している。駐車料金は半期3,000円で、申し込み多数の場合は抽選を行い、抽選漏れの学生には近隣の有料駐車場を紹介している。なお、臨時に自動車での通学希望がある場合1日駐車場（1日100円）を用意している。

駐輪場は3ヶ所あり、自転車、バイクを収容する。学生課への届けを義務付けており、登録者に鑑札を発行している。

入学時には学生課のオリエンテーションの中へ「交通安全・生活安全」を喚起する内容を加えている。

(5) 平成20年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

1) 日本学生支援機構

無利子の「第1種」、有利子の「第2種」の2種類あり、4月上旬、推薦枠の内示がある。内示数を受けて出願説明会を4月中旬に開催し、出願書類等配布する。最近は高等学校在学時に選考される予約奨学生が増加し、大学での在学採用者が減少傾向にある。

そのため、希望者よりも内示数が上回り、「第2種」において希望者は全員推薦できている。平成20年度在学の奨学生は予約進学者も含め、第1種72名、第2種183名の255名である。これは学生数の約35%にあたり、3人に1人強の割合になる。

2) 岡山県育英会等

岡山県育英会等地方自治体よりの奨学金等いくつかの奨学金の募集がある。奨学生となっているものは、岡山県育英会・岡山市奨学金・大分県奨学会である。他に、あしなが育英会・交通遺児育英会・電通育英会の募集があった。

3) 本学の奨学金制度と支給状況

中国学園優待・奨学制度は次表のとおり3種類ある。第2号の優待生については、3月に各学科学科長によって推薦された学生を5月下旬に優待・奨学運営委員会で審査し、決定する。第3号については、4月に掲示によって募集し、応募させる。

平成20年度奨学生は6名（内短大5人）、優待生は14名（内短大8人）であった。

表5. 3 中国学園優待・奨学制度とその支給状況(平成20年度)

種 類	対 象	対象学年	対象人数	奨学金額
第1号	入学試験において特に成績優秀であったもの	1年次生	大学・短大 各2名	入学金及び授業料 (1年間)の半額免除
第2号	人物、学業ともに優れた者	大学3、4年次生 短大2年次生	学生40人につき 1名	10万円の給付
第3号	経済的に修学が困難になった者で成績良好な者	大学3、4年次生 短大2年次生	5名以内 (大学・短大で)	授業料(1年間)の 半額免除

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

1) 定期健康診断

学校保健安全法に基づき、学生の疾病の予防及び早期発見のため健康診断を毎年4月に嘱託医により全学生に実施している。健康診断（内科検診・X線撮影・短大2年生、介護福祉専攻、音楽専攻2年生、大学4年生は尿検査も追加）は、休学者を除くと毎年ほぼ全員が受診しており、何らかの異常があった場合は精密検査を受診するよう指導している。平成20年度における再検査受診者は12名であった。何れもその後の検査結果では異常が認められなかった。

2) 救急処置

日常の保健相談では、保健室での休養、嘱託医への搬送等でできるだけ速やかに授業に戻れるよう配慮している。

3) 禁煙指導

平成17年度より敷地内全面禁煙とした。引き続き、禁煙希望学生には学生課が窓口で、

本学の医師の資格を持つ教員の指導のもとに禁煙パッチの処方等により禁煙支援を行っている。

4) 性教育(エイズ・性感染症等)

エイズをはじめクラミジア等の性感染症が若年層で感染している我が国の現状により、平成10年度より岡山市保健所の「出前講座」を利用し、ほぼ全学科の1年生を対象に講演会を実施し、啓発教育を行っている。

5) 学生相談の体制

12号館2階にある「学生相談室」で専門の相談員が、学ぶ目的、進路、友人関係、心の問題等、いろいろな悩みごとや相談ごとについて、解決のための助言・支援をしている。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

本学では、学生個々の情報等の記録としては、「**学生身上書**」と「**学生名簿**」がある。教職員は個人情報保護法の講習会等に参加し、法令にあわせた適切な運用を行うよう研鑽を積んでいる。保管については、施錠できる書棚に厳重保管し、使用目的の明確な場合のみ閲覧を許可している。

1) 「学生身上書」

入学時に「学生身上書」を2枚配布し、1枚は学生課、1枚は各学科で保管し、学生支援のために使用している。学生身上書の記載項目は氏名・生年月日・出身校・現住所・電話番号・保護者（氏名・住所・電話番号）・緊急時の連絡先・家族構成・親しい友人等であり、写真を1枚貼付する。学生課では、休退学等の相談、病気や怪我等による緊急連絡、学生生活支援や保護者の弔事に対する支援に活用している。各学科においては、学生個人の生活指導に使用している。

2) 「学生名簿」

学籍番号・氏名・住所（現住所・帰省先）・電話番号（現住所・帰省先）・出身高校で学科別に構成した名簿をPCに取り込み、パスワードで管理している。

【進路支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況等を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

過去3ヶ年の学科別・年度別の進路状況は以下のとおりである。

表5. 4 平成18年度～20年度の進路状況表

(平成21年3月31日現在)

中国短期大学全体	18年度		19年度		20年度	
(a) 卒業生数	390 人		354 人		358 人	
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a)	304 人	77.9 %	292 人	82.5 %	282 人	78.7 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b)	268 人	88.2 %	239 人	81.8 %	245 人	86.8 %
(d) うち自己開拓の就職者数 割合 (d) ÷ (b)	36 人	11.8 %	53 人	18.2 %	37 人	13.1 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a)	35 人	8.9 %	18 人	5.1 %	44 人	12.2 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a)	50 人	12.8 %	44 人	12.4 %	32 人	8.9 %

総合生活学科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	82 人	73 人	86 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	70 人 85. 4 %	65 人 89. 0 %	65 人 75. 5 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	57 人 81. 4 %	56 人 86. 2 %	58 人 89. 2 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	13 人 18. 6 %	9 人 13. 8 %	7 人 10. 7 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	11 人 13. 4 %	6 人 8. 2 %	19 人 22. 0 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	1 人 1. 2 %	2 人 2. 7 %	2 人 2. 3 %

保育学科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	162 人	106 人	123 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	129 人 79. 6 %	79 人 74. 5 %	104 人 84. 5 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	117 人 90. 7 %	63 人 79. 7 %	92 人 88. 4 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	12 人 9. 3 %	16 人 20. 3 %	12 人 11. 5 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	5 人 3. 1 %	2 人 1. 9 %	3 人 2. 4 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	28 人 17. 3 %	25 人 23. 6 %	16 人 13. 0 %

英語コミュニケーション学科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	41 人	44 人	26 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	21 人 51. 2 %	32 人 72. 7 %	21 人 80. 7 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	17 人 80. 9 %	27 人 84. 4 %	17 人 80. 9 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	4 人 19. 0 %	5 人 15. 6 %	4 人 19. 0 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	12 人 29. 3 %	5 人 11. 4 %	3 人 11. 5 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	8 人 19. 5 %	7 人 15. 9 %	2 人 7. 6 %

音楽科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	29 人	26 人	29 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	18 人 62. 1 %	17 人 65. 4 %	16 人 55. 1 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	16 人 88. 9 %	13 人 76. 5 %	9 人 56. 2 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	2 人 11. 1 %	4 人 23. 5 %	7 人 43. 7 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	3 人 10. 3 %	0 人 0. 0 %	1 人 3. 4 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	8 人 27. 6 %	9 人 34. 6 %	12 人 41. 3 %

情報ビジネス学科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	47 人	69 人	68 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	41 人 87. 2 %	64 人 92. 8 %	53 人 77. 9 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	38 人 92. 7 %	51 人 79. 7 %	46 人 86. 7 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	3 人 7. 3 %	13 人 20. 3 %	7 人 13. 2 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	4 人 8. 5 %	4 人 5. 8 %	15 人 22. 0 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	2 人 4. 3 %	1 人 1. 4 %	0 人 0. 0 %

専攻科	18年度	19年度	20年度
(a) 卒業生数	29 人	36 人	26 人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a))	26 人 89. 6 %	35 人 97. 2 %	23 人 88. 4 %
(c) うち学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b))	24 人 92. 3 %	29 人 82. 9 %	20 人 86. 9 %
(d) うち自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b))	2 人 7. 7 %	6 人 17. 1 %	3 人 13. 0 %
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a))	0 人 0. 0 %	1 人 2. 8 %	3 人 11. 5 %
(f) 進学・専門学校・留学 割合 (f) ÷ (a))	3 人 10. 3 %	0 人 0. 0 %	0 人 0. 0 %

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

■就職支援部

1) 組織

併設の中国学園大学を含め、全学の学生に対する就職支援のための部署として、**就職支援部－就職支援課**を設けている。就職支援部長のもと、就職支援課に4名の職員を配置し、

企業に対する求人開拓業務と、学生に対する就職支援業務を実施している。

2) 就職支援委員会

各学科では、就職支援部と連携して、学科の就職支援委員を中心に、担任も協力して学科（専攻科を含む）の学生を対象に就職指導・就職支援を実施している。特に保育士等の専門職については求人開拓を含め、学科が主体的に就職支援に取り組んでいる。

全学の就職支援に関する業務運営方針その他重要事項を審議すると共に、就職支援部－各学科間の連携を円滑かつ効果的に進めるため、就職支援部長、就職支援課長、及び各学科の就職支援委員からなる就職支援委員会を設置している。就職支援委員会には、中国学園大学の学科の委員も参加し、両大学の合同委員会として運営している。

3) 施設・設備・支援機能

就職支援のためのスペースとして、相談コーナー及び資料室を設け、就職支援部がその管理運営を担当している。学生の求職、企業からの求人、及び求人企業の状況に関する情報は、ファイル（冊子体）化し過去5年以上分が蓄積され就職支援に活用されている。支援機能や施設設備については次項に記す。

（3）就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

平成16年4月に就職支援の施設設備・機能を拡充強化した。平成18年7月から就職支援システム「CRICS」（Chugokugakuen Recruit Information and Communication System）を導入した。求人情報をデータベース化して学生はPC・携帯電話にID・パスワードを入力し、希望の職種や勤務地を設定すれば、検索・閲覧できる。メールアドレスを登録しておくことで新着情報やガイダンス情報も受けることができる。また、平成20年2月より携帯・パソコンで瞬時に閲覧・検索できるインターネットによる求人票受付を始めた。

平成21年3月現在の就職支援部室の設置施設及び学生への支援機能は、

①求人票掲示、②企業別パンフレットファイル公開、③就職活動報告書（受験報告書）公開、④業種、職種研究用図書の設定、⑤就職活動関係図書の設置、貸出、⑥新聞購読、⑦就職ガイダンス等のビデオ設置、⑧企業検索、エントリー用のパソコン設置、⑨合同企業説明会等のポスター掲示板設置、⑩就職ガイダンス、⑪学内企業説明会、⑫特別就職支援講座、⑬就職模擬テスト、⑭個別進路相談、⑮企業斡旋・企業情報提供、⑯就職ガイドブックの作成、配布、⑰資料コピーサービス（無料）等である。

以上のように、充実した支援機能を整備し、きめ細かい就職支援体制をとっている。各学科においても、主として専門職を中心に独自の就職支援を実施している。**保育学科**においては、専門就職のための採用試験対策の特訓講座と模擬面接を開設している。また、民間の保育園・幼稚園等の就職先には全教員が手分けして訪問し、卒業生の勤務状況を尋ねるとともに、今後の求人を依頼している。**音楽科**においては、2年生を対象に、国内の主要な音楽教室関係の企業（3社）の説明会を開催している。**総合生活学科**や**専攻科介護福祉専攻**等では、施設実習の実習先が就職先に結びつくケースもあり、教員の施設訪問や実習指導に関して就職支援の視点も重視している。

(4) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

就職希望者数に対する就職者数の割合は、平成18年度、19年度、平成20年度はほぼ100%に改善した。そのうち80～85%が本学で斡旋したものであり、各学科とも学生達の就職希望に添った成果であると受け止めている。

(5) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

実績を次表に示す。

表5.5 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学及び海外留学の実績

年 度	四年制大学	短期大学	専攻科	専門学校	留 学	計	卒業者数	%
平成18年度	5	2	31	5	6	49	390	12.0
平成19年度	10	0	26	4	2	42	354	11.9
平成20年度	3	0	23	3	2	31	358	8.6

※平成18、19、20年度の留学先はカナダのダグラスカレッジとバンクーバー・コミュニティ・カレッジ。

1) 進学

卒業者数に対する留学を含む進学者数は、ほぼ10%程度である。その進路先は大部分が本学専攻科（**介護福祉専攻、音楽専攻**）と中国学園大学であり、留学、四年制大学への進学、専門学校入学等毎年それぞれ全学で数名程度である。これらの進路については、各学科の担任や担当者が中心になり、きめ細かく個別に指導・支援している。就職支援課でも、過去の進学先の大学案内やパンフレット、ネット情報検索端末を整備している。

本学の専攻科への進学は保育学科と音楽科の学生が志望する。**保育学科**では、進学率は概ね卒業生の18.3%程度で高率であり、その大半は本学の介護福祉専攻である。**音楽科**には二年制の専攻科音楽専攻があり、毎年7～8名程度（定員20名）の学生を受け入れている。学位が授与されることもあって、勉学意欲は高い。

四大への3年次編入は、**保育学科、英語コミュニケーション学科**や近年、国立大学への編入実績を挙げている**情報ビジネス学科**の学生の進路先として、毎年数名が進学している。

2) 海外留学

海外留学の実績としては、①在学中のセメスター留学、②卒業後の進路としての海外留学がある。①としては、**英語コミュニケーション学科**の「留学コース」には、セメスター留学条件をクリアー後、2年後期に、提携校であるカナダのダグラスカレッジ(5ヶ月間)や姉妹校のバンクーバー・コミュニティ・カレッジ(VCC)(4ヶ月間)に留学できるシステムがある。本学からも奨学金として、2年後期の学納金(ダグラスカレッジへの留学)、もしくは授業料(VCCへの留学)が支給される。平成20年度には、VCCへ1名が留学した。

②においては、同じく**英語コミュニケーション学科**で、毎年2～4名の海外留学希望者がある。各学生の希望と現状に合わせて、個別に必要な情報提供やアドバイスを担当の教員が行っている。海外留学は、カナダのダグラスカレッジへの4週間の海外研修プログラムを経験した学生が、より長期(1年間等)の語学留学を希望するケースが毎年出てきている。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

表5. 6 多様な学生の受け入れ状況（平成18年度～20年度）（平成21年5月1日現在）

種別	18年度	19年度	20年度	計
留学生（人）	2	0	0	2
社会人（人）	3	1	3	7
帰国子女（人）	0	0	0	0
障がい者（人）	0	0	0	0
長期履修学生（人）	0	0	0	0
科目等履修生（人）	12	10	8	30

〔注意〕

1. 本学で定める社会人の定義（受験資格）は、入学時に満22歳以上で、高等学校を卒業した者または学校教育法施行規則第69条により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、職業または家事に従事した経験のある者、である。
2. 短期大学で定める帰国子女の定義（受験資格）は、日本国籍を有し、保護者の海外在留に伴い海外で教育を受けた者、である。

1) 留学生の受け入れ状況と支援

本学には、外国人留学生特別選抜制度があり、平成18年度は**英語コミュニケーション学科**に中国から2人受け入れた。外国人留学生の出願条件は、要項に指示されているとおりであるが、面接では日本語能力を点検し、入学の目的が学科のカリキュラムに合致しているか、卒業後にどのような方針を持っているか等をチェックしている。学習支援としては、「日本語」・「日本事情」の2科目を開講して、留学生達が日本語と文化等の学習をさらに拡充できるように支援している。

また、平成15年度より、外国人留学生の授業料を日本人学生の半額にする施策が実施されており、平成21年度には4人の外国人留学生が入学した。その他の生活支援体制も含めて、受け入れ後の支援をさらに組織化する必要がある。

2) 社会人の受け入れ状況

社会人特別選抜制度により、過去3ヶ年、2学科に社会人が正規入学をし、所定の資格取得や目標達成後、再び良き社会人として活躍している。各学科では入学後、若い学生達への良い影響も考慮し、可能な限りの便宜を図っている。**保育学科**では、社会人学生は全員、資格・免許を取得することを希望して志願しており、実習等では家庭等にあまり負担がかからぬような配慮もしている。**音楽科**は、平成12年度に音楽療法コースを開設した事もあって、恒常的に社会人学生が数名入学している。また、仕事を持った人が、資格や免許の取得を目的とせず専門的な学問を学ぶために志願できるように、夜間や週末の授業開講も将来的には視野に入れていく必要がある。

3) 帰国子女の受け入れ状況

過去3ヶ年の帰国子女の受け入れはない。

4) 身体障がい者の受け入れ状況

過去3ヶ年の身体障がい者の受け入れはない。

本学でも、身体障がい者が教育を受ける機会を、その障がいのために奪われることのないように、公教育の機関として可能な限り努力をしている。軽度の聴覚障がい者、腎臓病による人工透析を受けている者、ペースメーカーを利用している者等も受け入れていたこともあった。また、以前、車椅子利用者の受け入れにバリアフリーの工事を施工し、教室への階段には手すりを付けた。また聴覚障がい者を受け入れた際には必要に応じ、ノートテイカーや手話通訳者を配置したこともある。

5) 長期履修生の受け入れ状況

長期履修生の制度は現在検討中である。受け入れ実績はない。

6) 科目等履修生の受け入れ状況

資格取得や生涯学習の観点により、科目等履修生が増えつつあったが、学科によっては講義科目のみ受け入れを限っている。演習科目には、少人数教育を特色とする科目(英会話系科目等)のように、本科の学生を第一にする方針からである。しかし、学習支援等については、履修生の個人的な条件により、本科の学生以上に配慮するケースもある。

【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

各学科とも学生支援体制として、学科内外のスタッフとも連携しつつ、成績や情緒等に問題のある学生達や、長期欠席者達に対して、丁寧に対応している。まず、担任や教務担当者は、各科目の担当教員から出席状況や学習態度、理解度等について頻繁に報告を受け、必要に応じて個別に面談を行う。成績不良者には、追試が行われ、その他にも一定のレベルに達するまでの個別指導もある。また、学科の学生全員対象に、年に1～2回の担任による面談を行い、情緒的に不安がある学生には心理学の教員によるカウンセリングをすすめる、学生が希望すればカウンセリングを受ける体制も整っている。

次に、長期欠席者、休学者には学期の変わり目に行事予定等を担任が、履修登録については教務担当者が連絡する一方、学習意欲が戻るように指導していく。そして、再履修する学生の登録は、教務担当者が個別に、授業を受ける上での心構え等を指導する。

また、表彰制度としては、①卒業時に表彰するもの(学長賞1名、しらすぎ賞各学科1名ずつで、いずれも学業成績優秀で人格的にも他の学生の模範となるに足る者に授与)、②全学的なもの(人命救助等の社会的な貢献、スポーツの大会や対外試合で優秀な成績を修めた場合、学内コンクールで優れた作品等を提出した場合等)、③学科が独自の基準を設定して、学科単体で表彰するもの(2年間を通じて、長期間、クラスに貢献した学生等を、卒業式で表彰する)がある。

学科別の特別な学習と学生生活上の支援としては、まず**英語コミュニケーション学科**では、

学科の専門性を活かして、①クラブ活動との連携を通じて英語運用能力の伸長を図ること（E S S 部と英語劇部）、②異文化理解行事の奨励、③卒業生との交流と連携（就職、四年制大学3年次編入、留学等の体験談を依頼）、④メンター制導入（学生生活に関して、2年生が1年生への助言等をするもの）等を実施している。

専攻科介護福祉専攻では、入学時に20歳を超えており、学生独自の成人としての個人的な問題を抱えている場合もある。一身上の問題には、専任教員が相談にのるが、経済的な悩みを持つ場合には、奨学金制度への手続きや、学習に相乗効果のあるアルバイトを奨励している。また、実習先への通学費用の負担が少ないように配当し、専門書や文献の貸し出しを行い、負担を軽減している。

専攻科音楽専攻では、大学評価・学位授与機構への学位授与申請についての説明会をはじめとして、積極的に学位授与を受けるように指導している。また、申請の際は卒業後であっても、ホール・楽器・ビデオ等の貸し出し、レポート・申請書類の指導を担当中心に行っている。

■「学生生活実態調査」について

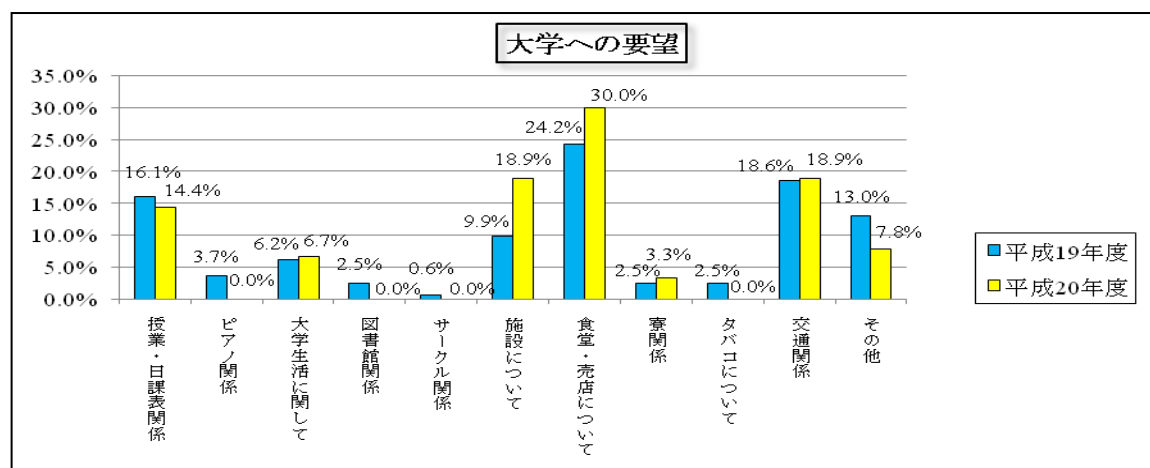
学生部では、平成19年度の「2007年度学生生活実態調査」（全学学生対象に前期終了前に実施）に引き続き、平成20年度も、以下の要領でアンケートを実施した。

表5. 7 「2008年度学生生活実態調査」の内容

対象及び実施時期	一年生498名（男子34名、女子464名、中国学園大学一年生も含む）対象、前期終了前に実施
アンケートの記入方式	選択肢から選ぶマークシート方式と自由記述方式
アンケート項目	1) 学生生活全般について（①生活場所、②通学手段、③通学時間、④睡眠時間、⑤朝食習慣、⑥食事回数、⑦夕食形態、⑧一ヶ月の生活費、⑨親からの仕送り状態、⑩一ヶ月の小遣い、⑪アルバイト（収入）、⑫教員とのコミュニケーション、⑬学生マナー、⑭喫煙習慣、⑮情報入手先、⑯ボランティア活動、⑰サークル活動）
	2) 心身の健康について（①心身の健康状態、②悩みごと（内容）、③相談相手、④ハラスメント被害、⑤保健室・学生相談室の場所）
	3) 大学について（大学生活への満足度）
	4) その他（自家用車通学等）
	5) 大学への要望（自由記述）
アンケート回答率	全体86.5%（男子73.5%、女子87.5%）

なお、アンケートの内容についての分析は情報量が非常にも多くなるので省略する。自由記述欄への「大学への要望」については、グラフにまとめると次のようになった。

表 5. 8 大学への要望



大学への要望については、平成19年度のアンケート結果による改善の結果、平成20年度は学生の要望項目が①食堂売店について、②交通機関について、③施設について等に絞られた内容となった。食堂売店については、平成21年度に向けてコンビニエンスストアの導入、交通機関では、庭瀬駅からのシャトルバス運行が検討され、平成21年6月現在、全て実施された。なお、懸案であった、学生駐車場については、第2学生駐車場増設50台、駐車料金の値下げ（半期9000円→3000円）、1日駐車制度の新設（100円）、そして光風寮の規約の改善等、平成20年度も学生生活実態調査及び意見箱から多くの改善が見られた。

（2）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈添付資料〉
1. 中国学園大学・中国短期大学案内2010 pp. 1～6、23～58
 2. 平成21年度学生便覧・授業概要 pp. 73～77、58～77
 3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集
 - 「中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会規程」 pp. 140～141
 - 「外国人留学生細則」 p. 125
 - 「科目等履修生に関する規程」 pp. 120～121
 4. 平成22年度学生募集要項（社会人・帰国子女特別選抜も含む）
 - pp. 1～18、外国人留学生特別選抜要項

- 〈参考資料〉
12. 平成22年度用各科募集用セカンドパンフレット
 13. 過去3ヶ年の「中国学園大学・中国短期大学白鷺祭（大学祭）パンフレット」
 14. 学生身上書（記入用紙）
 15. 過去3ヶ年の進路一覧表等
 16. 海外留学希望者に向けた印刷物等
 17. 「2008年度学生生活実態調査」資料

《VI 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

中国短期大学は、5学科・専攻科2専攻を擁する総合短期大学であり、教員の専門領域も多岐に涉っている。過去3ヶ年の本学専任教員の研究状況は、別表に示されているように、点数としては、著書31、原著論文98、学会等発表54、演奏会・展覧会等124、講演や講話等を含むその他の活動は168、となっている。各著書や原著論文、及び学会発表の内容は、単著、共著を問わず、各教員が研究者として専門分野を日夜究めていることを示すものである。

現在、日本の高等教育機関は、各教育分野の専門化と学生への教育重視の趨勢にあつて、現場の教育に役立つ研究への要請が高まっている。本学の教員は、以前から、教育重視の姿勢を各自の研究に反映させており、学科の枠を越えて、協力体制をとって研究する教員も多い。なお、多くの教員にとって、研究面での問題点は、研究に必要な余裕一時間的・精神的・経済的な余裕一の不足である。今現在は、個人的努力と所属する各学科の協力体制の結果、できる限りの成果を出している。

表6. 1 平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表

学科名	氏 名	職 名	研 究 業 績					国際的活 の有 無	社会的活動 の有 無
			著作数	論文数	学会等発表数	演奏会展覧会等	その他		
総合生活 学科	大 藤 吉 雄	教 授	0	1	0	0	2	無	有
	斎 藤 美加子	教 授	0	0	1	0	4	無	有
	宇 野 保 子	教 授	0	3	2	0	0	有	有
	高 木 貞 治	教 授	1	0	0	0	7	無	有
	寺 山 節 子	准教授	0	3	1	0	0	無	有
	林 真 愉美	講 師	0	4	8	0	0	無	有
	高 木 亮	講 師	0	1	3	0	3	無	有
保育学科	森 元 真紀子	教 授	0	2	0	0	3 2	無	有
	曾我部 司	教 授	0	1	0	3	0	無	有
	谷 本 満 江	教 授	0	4	1	0	3	無	有
	国 貞 忠 克	教 授	0	0	0	0	0	無	有
	近 藤 信 子	教 授	0	2	0	0	0	有	有
	土 谷 由美子	教 授	0	3	0	0	1	無	有
	川 上 道 子	教 授	0	3	1	0	3	無	有
	松 井 圭 三	准教授	1 0	3	6	0	0	無	有
	松 井 み さ	准教授	7	1	1	7	2	無	有
	原 田 眞 澄	准教授	1	4	5	0	3	無	有
	小 倉 毅	講 師	5	1	1	0	6	無	有
	大 橋 美佐子	講 師	0	1	3	0	4	無	有
英語 コミュニ ケーション 学科	小 野 順 子	講 師	0	0	0	0	4	無	有
	垣 見 益 子	教 授	0	6	0	0	5	有	有
	橋 内 幸 子	教 授	0	7	0	0	5	有	有
	名 合 智 子	教 授	0	3	3	0	1 1	有	有
	佐 生 武 彦	准教授	1	7	0	0	4	無	有
	大 橋 典 晶	准教授	2	9	0	0	1 2	無	有
	R. J. Lemmer	講 師	0	5	5	0	0	有	有

学科名	氏 名	職 名	研 究 業 績					国際的活 の 有 無	社会的活動 の有 無
			著作数	論文数	学会等発表数	演奏会展覧会等	その他		
音楽科	日 高 好 一	教 授	0	0	0	3 7	4	有	有
	青 木 省 三	教 授	0	0	0	5	0	無	有
	大 山 佐知子	准教授	0	3	0	1 6	4	無	有
	河 田 健 二	講 師	0	0	0	6	0	無	有
	三 川 美 幸	講 師	0	1	0	2 2	3 2	有	有
	笠 井 裕 正	講 師	0	0	0	2 8	1	無	有
情報 ビジネス 学科	福 森 護	教 授	0	7	4	0	0	有	有
	澤 津 久 司	教 授	1	0	0	0	2	無	有
	飯 田 哲 司	教 授	0	0	0	0	1 3	無	有
	橋 本 和 久	准教授	0	4	2	0	0	有	有
	宋 娘 沃	准教授	3	4	3	0	1	有	有
	奥 村 英 則	准教授	0	2	4	0	0	無	有
合 計	古 谷 俊 爾	講 師	0	3	0	0	0	無	有
	人数：39人		3 1	9 8	5 4	1 2 4	1 6 8		

（２）教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学における教員個人の研究活動の状況についての公開手段としては、平成１７年度からは本学の和文紀要である『中国学園紀要』に、前年度一年間の業績を上梓している。なお、平成１６年度以前のものについては、年二回発行の本学の広報誌である「しらさぎ」に記載している。

（３）過去３ヶ年（平成１８年度～２０年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

1) 文部科学省科学研究費補助金について

過去３ヶ年の文部科学省科学研究費補助金について、本学の教職員が研究代表者となった場合の申請・採択状況は、以下のとおりである。

表 6. 2 科学研究費補助金の申請・採択状況（平成１９年度～２０年度）

科学研究費補助金	平成１８年度		平成１９年度		平成２０年度	
	申 請	採 択	申 請	採 択	申 請	採 択
	1	0	1	0	2	0

※年度は、研究資金が交付された年度である。

次に、同期間、研究分担者として科学研究費補助金を受理した教職員は以下のとおりである。

表 6. 3 科学研究費補助金の調達状況（平成18年度～平成20年度）（下線は研究代表者を示す）

氏 名	年度 (平成)	研究種目	研 究 課 題	配分額 (千円)
宋 娘沃: 夏目啓二 (研究代表者)	19~21	基礎研究B	『IT人材の国際移動がアジアのIT産業発展に及ぼす影響の地域比較』	15, 200 (総 額)
宋 娘沃 (研究分担者)				156 (研究分担者)

2) 外部からの研究資金について

本学の教員の場合、学外と学内からの研究資金を調達するケースがある。過去３年間の外部からの研究資金の調達状況は以下のとおりである。

表 6. 4 外部研究資金の調達状況(平成18年度～平成20年度) (下線は研究代表者を示す)

氏 名	年度 (平成)	助成金名称	研 究 課 題 等	補助金額 (千円)
宇野保子: <u>館野和己</u> (日本古代史) はじめ 事業推進担当者計24名 <u>岩崎雅美</u> (服飾史)	16～20	21世紀COE プログラム拠点形成	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点 24の分担事項の内、岩崎教授が担当する古代生活 文化の調査復元 (古代服飾) の学外研究員として参加	190,700
名合智子: 名合智子	18	福武教育研究助成	児童が自らのコミュニケーション能力を高めるための 自己評価の工夫	200

文部科学省科学研究費補助金やその他の外部からの研究資金の対象とする分野は、生活文化、海外の教育事情、保育者養成関連、実務教育関連、食の安全性等であり、それらのテーマは地域に密着したものや補助を提供する団体に利するものである。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

各学科における研究状況は、その学科の専門性と教育体制、及び学科としての方向性等により異なっていると判断している。本学では、実験や調査研究のための実験室や各種準備室が用意されており、各教員の専門に応じて、単独で、もしくは共同で研究に臨んでいる。各教員には、研究のための予算(旅費、図書費、消耗品費等)が組まれている。その他、本学には、教職員の研究活動の奨励と研究費の助成を図る「中国学園大学・中国短期大学特別研究助成」の制度がある。毎年、申請と審査が実施されて、一年間の研究(継続も可)に対して研究費が授与されている。その他、「中国学園在外研修員規程」もある。

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

現在、本学は、2種類の紀要を発行している。日本語(もしくは英語以外の言語)使用による和文紀要『中国学園紀要』と、英文紀要の *CHUGOKUGAKUEN Journal* である。両誌とも年一回の発行を原則に、本学の常勤教員、兼任講師等が投稿している。いずれも、それぞれの分野での研究成果を発表できる良い機会として活用されている。その他、教員達は、それぞれに所属する学会誌等に投稿している。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成20年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎答案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

表6. 5 機器備品費・図書費の整備状況

学科名	機器備品費	図書費
総合生活学科	3, 122, 547	1, 419, 987
保育学科	4, 115, 938	1, 865, 093
英語コミュニケーション学科	904, 214	481, 718
音楽科	1, 584, 186	465, 713
情報ビジネス学科	2, 396, 717	1, 105, 163
計	12, 123, 602	5, 337, 674

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

各学科総合研究室と称し、会議、教員間の打ち合わせ、学生との対応、来客の応接等の目的に使われる室があり、事務員が原則常駐している。教員の研究室は各個人の室があり、机・椅子・書架・LAN接続のパソコン機器一式が整っている。研究室では、研究はもちろん授業の準備、授業以外の業務、来客の対応、学生の相談・質問のほか、場合によってはゼミ形式の授業を行っている。

実験室については教員専用の独立した室はないが、授業に使用される実験室・実習室等には準備室がほとんど付属しており、この両方またはいずれかで、教員も実験等を行っている。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

本学教職員の勤務時間は、平成19年度からこれまでの7時間勤務制を午前8時45分～午後5時30分の8時間勤務制に改正した。また、外部の教育機関等へ非常勤講師として出講する場合や審議会・委員会委員等に就任して会議等で本学を離れる場合は、学長への書類申請と承認を経て、許可されることになっている。研修や研究のための研修日(1日)は制度的には廃止されたが、授業、学生の個人・グループ指導のためのオフィスアワー及び諸実務を除いて、原則的には研究時間を確保できるシステムになっている。その他、平成4年より、長期(1年以内)の研修制度として、海外での研修を目的とする「中国学園在外研修規程」がある。現在までに、2名がこの制度を利用した。

【特記事項について】

(1) この《VI 研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈添付資料〉 3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集
「学校法人中国学園個人情報の保護に関する規程」 pp. 29～32
「中国学園大学・中国短期大学特別研究助成費交付規程」 pp. 248～254
「学校法人中国学園在外研修員規程」 pp. 257～262
- 〈参考資料〉 18. 過去3ヶ年の専任教員の研究実績一覧表
19. 『中国学園紀要』第5～7号
20. 過去3ヶ年の中国学園大学・中国短期大学広報誌「しらさぎ」
21. *CHUGOKUGAKUEN Journal* Vol. 5～7
22. 過去3ヶ年の研究に係る経費一覧表

《Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動(国際的活動は別項で記述)への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

本学では、松畑熙一学長が主導する「**地域と連携する大学**」をモットーに、地域社会活動を通じて貢献することを、短大における教育・研究と同様、非常に重要な事項として認識している。平成19年1月に開設された**地域連携センター**は、その充実と活性化を図るため、学園全体の活動の企画・調整・推進を行っている。具体的には、①県・市イベントの開催支援、出展、②地域団体との共同作業や行事の共同開催、③生涯学習講座の引受け、④公開講座の実施、⑤高大連携による出前講義の実施、⑥ボランティア活動、⑦教職員による個人的な貢献(各種機関の諮問委員、問題作成委員、審査委員、パネリスト、研究会・講演会講師の受託等)⑧大学コンソーシアム岡山に特別会員として参加・協力等を実施実行している。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人の受け入れは〔Ⅴ.【多様な学生に対する支援】(1)〕に記述したように、毎年数名程度は受け入れており、定着している。今後とも、シニア世代の増加も考慮に入れつつ、短期では科目等履修生、長期には正規入学や長期履修生の制度を社会的ニーズに合わせ充実させていく予定である。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

公開講座は昭和53年から実施し、以後毎年開催し、地域住民から期待と支持を得ている。本学は5学科を有する短大で、各学科に幅広い専門分野の教員がおり、この講座も多分野に渡るので好評である。一部の講座では抽選で受講生を決めざるを得ない状況もある。過去には土曜日の教室開放等、より良い方法を模索しており、今後も改善を重ねていきたい。

その他の生涯学習授業として、岡山県生涯学習大学の連携講座や、産学連携による地域生涯学習講座「吉備創生カレッジ」への講義提供を年間通じて実施している。今後も積極的に対応していきたい。

また、正規授業の開放は、平成20年より協定締結の高校に対して実施した。今後も拡大していく計画である。また、科目等履修生制度により、本学学生と同じ授業を受ける社会人も受け入れており、さらに制度の拡大PRを実施予定である。

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)に短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

本学と地域社会との交流や連携については、以下のとおりである。

1) チボリ公園との連携

情報ビジネス学科では、平成16年度から、地元にある大型公園のチボリ公園と連携して、チボリ公園の企画会議への参加、学生によるショップ経営、インターンシップ等を実施した。平成20年度のチボリ公園閉園にともない新規の取組みを検討中である。

2) 地域社会からの要請によるもの

育児・教育相談、キャリア教育、環境問題に関する講演・研修、社会福祉施設でのボランティア参加、各種研究会・勉強会へのサポート等の要請やニーズに随時対応しており、特にボランティア活動は活発である。

3) 音楽科によるコンサート等

音楽科では、定期演奏会、学内演奏会等学内外で発表の機会を設け、市民・地域住民に音楽の楽しさを伝えるとともに交流をしている。

4) 中国学園公開講座

〈参考資料〉24. 中国学園公開講座関連資料

5) 大学コンソーシアム岡山への協力

本学は特別会員として、平成19年1月より、これに協力している。地域連携センター(センター長・情報ビジネス学科教授:飯田哲司)が以下のような実績を残している。

- ①「キャリア形成講座」の立上げ・講座実施
- ②「実践マナー&ビジネスマインド講座」の立上げ・講座実施
- ③「吉備創生カレッジ」への支援により、“大学の街おかやま”を市民にアピール
- ④「全国生涯学習フェスティバル/まなびピアINおかやま2007」の企画
～準備の支援と出展・参画

6) その他 産学官民連携事業

産学官連携の講演・セミナー実施等。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年～20年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

本学は、「地域に輝き地域に愛される大学」をキーワードとして、それぞれの教育活動において、地域との連携を重視した活動を展開している。特に、平成18年度に「地域連携センター」を設立して以来、地域での活動、地域貢献、或いはボランティア活動を、従来の「学生部」の活動とタイアップさせて、組織的な取組みに発展させ、より活発な活動へと繋げている。

1) 学生生活向上委員会の「地域連携活動部会」・「ボランティア活動部会」・「環境整備活動部会」としての活動

平成19年4月1日に、学友会とは別組織として、「学生生活向上委員会」が設立された。この委員会の主たる目的は、本学の運営に学生の意見を反映させるとともに、各種行事への提案や参画を促進するものであり、内容としては、キャンパスライフの向上や、地

域連携に関する活動が含まれる。学生の自主的な行動によって、大学生活を充実させ、結果として自らの資質の向上を図るという主旨である。

なお、この委員会は7部会によって運営されるが、「地域連携活動部会」・「ボランティア活動部会」・「環境整備活動部会」は、特に、地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等と密接な関係にある。

①「地域連携活動部会」

平成17年にスタートした地域の秋のイベント「吉備陵南まちかど博物館」へ、毎年、約100名の本学学生及び教職員が、パレード等の催し物や各種ブースの“お手伝いボランティア”として参加して、イベントの盛り上げ役として協力している。年々イベントも活発になり、本学の協力体制が重要なポジションを得るようになってきている。

②「ボランティア活動部会」・「環境整備活動部会」

本学学生が、日頃から利用しているJR庭瀬駅周辺から本学までの通学路を中心としたクリーン作戦を実施している。

2) 学生役員の「交通委員」・「美化委員」としての活動

各学科には学生役員が選ばれて、チーフリーダーを中心として、学科内の各種の役割を担っている。

①「交通委員」

春、秋の交通安全県民運動に連携して、各期間1週間に渡って、交通委員（学生）と学生生活委員（教職員）が当番制で、通学路の交通指導にあたっている。

②「美化委員」

秋に開催される白鷺祭（学園祭）の翌日、学内及び学外近隣のクリーン作戦を実施している。

3) 各学科としての活動

各学科に於いては、行政・民間・園・学校・施設等各方面からの依頼によって、それぞれの学科の特色を活かした授業・研究の延長線上での位置づけとして、学生の自主的な活動によって、多くのプログラムを提供している。

4) 学友会のサークル活動

学友会の文化系サークル活動の一環として、地域の各方面からの要請により多くのボランティア活動が実施されている。なお、これらの活動は、学生部の管轄であり、全ての活動は所定の「学内・学外行事開催・参加願」の届け出によって掌握されている。

5) 地域連携センターとしての活動

地域連携センターは、地域の産学官民と連携・協力して教育、研究の推進を図り、地域創生に寄与することを目的としている。「学生地域連携活動に関すること」もこの目的の1つである。センターの支援による学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等の活発化が期待されている。

（2）短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

平成20年度に、1年生353名全員を対象として、「学生生活実態調査」を実施した

(実施5月1日、回答率85.9%)。

その中の一項目「ボランティア活動」について問うと、「継続的にしている」5名(1.6%)、「不定期にしている」58名(19.1%)、「していない」227名(74.9%)との結果を得ている。ただ、このアンケート結果からは、個人としての「ボランティア活動」について問うているので、全ての地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動についての数値ではない。恐らく、細かい設問を設けると、もっと数値は高くなると推測できる。学生の非常に多忙な日常生活の中で、多くの地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動が行われているということは、高く評価できると考える。

学生自身も、これらの地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等によって、大学の授業・研究では得難い貴重な体験をし、また、この経験は卒業後の生活にも良い影響を与えている場合が多い。

なお、上記【学生の社会的活動について】(1)に列挙した、学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等は年間実施回数は非常に多く、各方面より謝意も頂いている。行政・民間・園・学校・施設等各方面から多種多様の要請が、年々増加する傾向にあり、今後も組織的な取組みが望まれる。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

本学における、海外教育機関への学生派遣については、**英語コミュニケーション学科**が、現在まで24年に渡って、実施してきた短期留学(海外ホームステイ語学研修)の歴史が背景にある。即ち、アメリカ(1984～1998、サンノゼ：ウェスト・ヴァリー・カレッジ、派遣総数443人)、オーストラリア(1992～1995、ブリスベン：グリフィス大学、メルボルン：メルボルン大学、派遣総数64人)、そして、現在の派遣先であるカナダ(1999～、バンクーバー：ダグラスカレッジ、本年度までの派遣総数139人)への短期派遣(3週間～4週間)が行われてきた。

過去3ヶ年の派遣実績としては、①短期派遣、②長期派遣の二種類があるが、いずれも本学の提携校(ダグラスカレッジ)・姉妹校(バンクーバー・コミュニティ・カレッジ、以下VCC)への留学(派遣)である。過去3ヶ年の①短期派遣(4週間のImmersion Program)の状況は以下のとおりである。

表7. 1 過去3ヶ年の短期派遣(4週間のImmersion Program)の状況

年 度	期 間	参加人数	滞在都市	教育機関	備 考
平成18年度	2007年2月11日～3月12日	11	バンクーバー	ダグラスカレッジ	
平成19年度	2008年2月10日～3月10日	10	バンクーバー	ダグラスカレッジ	
平成20年度	2009年2月 8日～3月 9日	7	バンクーバー	ダグラスカレッジ	

また、②長期派遣は、平成18年度に開始された。英語コミュニケーション学科の留学コースに所属している学生が、提携校や姉妹校に2年後期の5ヶ月間または4ヶ月間、語学留学し、留学先での成績により本学が単位認定を行うものである。

表 7. 2 過去 3 ヶ年の長期派遣の状況

年 度	教育機関	参加	期 間	留学条件
平成18年度	ダグラスカレッジ	2	2006年 8月 4日～2006年12月23日	TOEFL (CBT) 133点以上
	VCC	2	2006年 9月 1日～2007年 1月 9日	本学の留学条件
平成19年度	VCC	3	2007年 9月 3日～2007年12月28日	本学の留学条件
平成20年度	VCC	1	2008年 8月30日～2009年 2月18日	本学の留学条件

平成18年度の派遣留学生達は、いずれも好成績を得て帰国した。短期留学の学生の場合も含めて、卒業後に再度、これらのカレッジや欧米の教育機関に長期留学(数ヶ月～1年間)をする者も多い。

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

過去3ヶ年における本学と海外教育機関との交流は、学生の語学研修や留学という教育面を主目的として計画・実施されている。交流の対象となっているのは、カナダのバンクーバーにある提携校のダグラスカレッジと、同じく姉妹校のVCCである。

1)カナダのプリティッシュ・コロンビア州立ダグラスカレッジ(提携校)との交流

平成11年6月に提携校として協定調印を行い、その後、平成14年11月に相互交流協定を締結した。このカレッジには国際教育センターがあり、日本人だけでなく、アジア各国の留学生を受け入れている。英語コミュニケーション学科では、上記(1)で記載したように、学生に対するESLプログラム(語学研修・留学)に関する教育的連携を取っている。

2)カナダのプリティッシュ・コロンビア州立バンクーバー・コミュニティ・カレッジ(姉妹校)との交流

平成18年2月にはVCCと覚書が交換され、本学との姉妹校関係が成立した。VCCとの交流も、ダグラスカレッジ同様、英語研修の長期留学生派遣というプログラムを中心にしており、同年度に初めて2名の学生を派遣した。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

平成20年度現在、教職員の海外留学や海外派遣に関しては、本学の在外研修員規程に拠るものは過去3ヶ年の実績はない。しかし、教員にとって、各専門分野における日進月歩の教育内容と方法論を国際的なレベルにまで学んでおく必要性はますます高まっているため、可能な範囲での活動への努力をする姿勢があることは明白である。

多忙な日常業務の中で、専門分野の国際学会への出席や学会発表をこなす教員もおり、その成果は教育に直結している。特に外国籍の二人の教員(Richard J. Lemmer 講師と宋娘沃准教授)(学科順)には、研究業績のリストにもあるとおり、この3年間にも数回の国際会議の出席と口頭発表、海外の研究者との共同研究、また母国語での著書等優れた業績がある。

また、日本人教員でも、国際会議での口頭発表やシンポジウムのパネリスト、海外公演等で活躍しているケースもある。教員に対する海外研修等については在外研修員規程があるが、夏期休業等の時期に私費による短期の海外研修を試みる教員もおり、最近ではICT

時代になって可能になった、海外の研究者との迅速な情報交換をして、教育研究に活かす教員もいる。

なお、3ヶ年の教職員の国際的な活動についての実績数は以下のとおりである。これらの件数は、本学の教員が国際学会で研究発表をしたり、海外で芸術活動や研究の資料収集を行ったりしたものである。

表 7. 3 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況
(平成18～20年度)

年 度	平成18	平成19	平成20
件 数	9	10	6

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 高大連携の実績

平成14年度に高大連携協議会が発足し、専任教員全員に、「高大連携可能な科目テーマ・講義概要・時間等」の調査を実施し、講義データベースを作成、県内高校からの講義の依頼・申し出に対応できる準備を整えた。キャリア教育をはじめ専門科目において、その出張講義の実績をあげており、高校生自身の進路選択や将来設計のための支援講義として貢献している。今後も社会人基礎力養成の第一歩となる連携教育推進を、高校と協同で進めてゆく考えである。

また、平成19年度より、地域連携センターを中心に高大連携活動を活発化させた。平成21年5月1日までの実績は以下のとおりである。

① a) 連携協力に関する協定締結：1校

- ・2007年10月1日に後楽館高校（岡山市）との間に締結した。その目的は、高等教育の機会充実、進路意思決定の支援等である。

b) 訪問：ヒアリング校 <連携実施校，協定検討校>

- ・和気閑谷高校（普通科）（キャリア探求科）・玉野高校・久世高校・備前緑陽高校・邑久高校・岡山東商業高校・ベル学園高校等（以上全て岡山県）

② 出張講義

地域連携センターが打合せ・実施した出張講義として、上記のヒアリング校の高校生を対象に10回(平成19年度5回、平成20年度5回)実施。主として、地域連携センター長（情報ビジネス学科教授 飯田哲司）が講師として、キャリア教育関連の講義を行った。なお、その他に各学科主導の高大連携授業も実施されている。

表 7. 4 出張講義（地域連携センターが打合せ・実施した出張講義）

年月日	高校名（出張場所）	対象	人数	内容	講師
平成19年 6月25日	和気閑谷高校	キャリア探求科	117	「社会で求められる能力とは」	地域連携センター
平成19年 7月 2日	和気閑谷高校	キャリア探求科	118	「コミュニケーション力を高めよう！」	地域連携センター
平成19年12月19日	玉野高校	普通科・国際科	44	「子どもの遊びと発達」	子ども学部子ども学科 准教授 長廣真理子
平成19年12月19日	玉野高校	普通科・国際科 2年生（選択）	13	「今を全力で生きる！！」	総合生活学科 准教授 寺山節子
平成19年12月20日	玉野高校	普通科・国際科	47	「社会が求める人材とは」	地域連携センター
平成20年 5月17日	久世高校	3年生全員	84 62	職業啓発セミナー 「社会人基礎力とは」	地域連携センター
平成20年 9月16日	和気閑谷高校	キャリア探求科	120	「社会が求める人材とは」	地域連携センター
平成20年10月14日	和気閑谷高校	キャリア探求科	60	「コミュニケーション力」	地域連携センター
平成20年10月28日	和気閑谷高校	キャリア探求科	60	「自己分析・自己理解」	地域連携センター
平成20年 5月 1日	邑久高校 （和気閑谷学校本館）	1年生全員 <3時間>	160	「説明力トレーニング」 「自分診断テスト」 「自らキャリアを築くために」	地域連携センター

③ 受入模擬講義

地域連携センターが企画立案・実施した講義で、2回（平成19年度1回、平成20年度1回）実施。

④ キャリア教育

地域連携センターによる出張講演（小中高教員対象、岡山県教育庁の要請）を2回（平成19年度1回、平成20年度1回）実施。

⑤ ビジネス教育推進支援

地域連携センターによる支援事業（岡山県内高校計32校の教員と生徒が対象）を2回（平成19年度2回）実施。

2) その他

本学は、岡山地区の国際協力団体である（財）岡山県国際交流協会及び岡山県国際団体協議会に所属し、英語コミュニケーション学科の日本語教員コース（平成20年度に廃止）の学生を中心に岡山国際交流センター等で、日本語教育の実習を通じ、ボランティア活動を行い、現在も卒業生達がボランティアで日本語教育に寄与している。

（2）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点があることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集

「中国学園大学・中国短期大学地域連携センター規程」 pp. 160～161

「大学コンソーシアム岡山に関する規約」 pp. 307～309

「学校法人中国学園在外研修員規程」 pp. 257～262

4. 平成22年度学生募集要項（社会人・帰国子女特別選抜も含む）、外国人留学生特別選抜要項

〈参考資料〉 23. 中国学園大学・中国短期大学 地域連携センター関連資料

24. 中国学園公開講座関連資料

《Ⅷ 管理運営》

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

中国短期大学は、建学の精神である「全人育成」、及び「あたたかい心」「ひらめく英知」「たえぬく努力」という三つの教育理念のもと、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、寄附行為を定め、学校法人の管理運営はそれを遵守して実施している。

学校法人の最高意思決定機関としての理事会を置き、法人を代表して業務を総理する理事長の下に、諮問機関としての評議員会を設置して、運営方針等重要な施策の決定ができる体制をとっている。

また、平成18年度からは、理事長の諮問機関として「学校法人中国学園経営会議」を設置して、理事会の迅速かつ円滑な運営と機能を補完する体制を整えた。

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成21年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りが無いことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

学校法人のすべての業務執行権限は理事会が有し、理事長は法人を代表し業務を統括する。理事会についての寄附行為上の規定は次のとおりである。

- 1) 理事定数 6人以上10人以内 平成20年度実数8人
- 2) 理事長の選任 理事総数の過半数の議決
- 3) 理事の資格、選任及び退任手続
- 4) 任期 3年
- 5) 理事会の構成、招集、定足数、議長、業務の委任等
- 6) 理事長の業務と理事長以外の理事の代表権の制限
- 7) 副理事長の設置、議事録に関する規定等

表8.1 理事会開催状況(平成18年度～20年度)

年度	開催年月日	定例	臨時	議 事 内 容	出席者数	定数
18	平成18年 5月15日	○		17年度事業及び決算、学長の選任、理事及び評議員の選任等	8名	6人以上 10名以内 (実数8名)
	平成18年 6月27日		○書面表決	慰労金支出	8名	
	平成18年 9月27日		○書面表決	音楽療法士(1種)認定申請、日本私立大学協会評議員の選任	8名	
	平成18年11月17日	○		学則の一部改正、規程(学園組織規則、名誉教授規程等)の一部改正、地域連携センター規程、広報委員会規程等の制定、会計中間監査、補正予算(案)、人事案件等	7名	
	平成19年 3月14日	○		19年度事業計画及び予算(案)、名誉教授の決定、学則の一部改正、規程(就業規則、職員定年規則、組織規則等)の一部改正、危機管理規程等の制定、人事案件等	7名	
19	平成19年 5月21日	○		18年度事業及び決算、理事の選任	7名	6人以上10名以内 (実数8名)
	平成19年11月22日	○		業務及び財産の状況の中間監査、第2号基本金の組み入れに係る計画表の変更、補正予算(案)、大学機関別認証評価の実施議決	8名	

年度	開催年月日	定例	臨時	議 事 内 容	出席者数	定数
19	平成20年 3月14日	○		20年度事業計画及び予算(案)、名誉教授の決定、学則の一部改正、規程(給与規程、退職手当規程等)の一部改正、理事会業務委任規則等の制定、人事案件等	6名	
20	平成20年 5月12日	○		19年度事業及び決算、評議員の選任	6名	6名以上 10名以内 (定数8名)
	平成20年 6月27日		○書面表決	人事案件	8名	
	平成20年 9月19日	○		評議員の選任、理事長の選任、公募推薦入学者の優待・奨学制度の試行	7名	
	平成20年12月 2日	○		業務及び財産状況の中間監査、新校舎建設計画及び3・4号館の耐震改修工事、補正予算(案)、短期大学学則の一部改正	7名	
	平成21年 3月13日	○		寄附行為の一部変更、21年度事業計画及び予算(案)、学長選考委員の選出、短期大学学則の一部改正、就業規則等の一部改正、給与規程の一部改正、新校舎建築計画及び耐震改修工事の施工、人事案件	7名	

※臨時の理事会は書面表決を含む。

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規定、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

理事会業務の委任については、評議員会付議事項その他法人の業務に関する重要事項以外の決定については、理事会において指名した理事に委任することができる旨を寄附行為に定めているが、平成20年度においては、委任事案はない。

平成19年度末に理事会の法人の日常業務の理事長、学長への委任等を定めた「理事会業務委任規則」を制定し、業務の迅速かつ適切な執行に資するようにした。また、専任理事の未設置を補完し理事会の円滑な運営を図るために、学内理事・評議員等を構成員とした「経営会議」を設置しており、20年度は3回開催した。主な議題は、21年度事業計画策定及び予算編成、定員未充足学科の取り扱い等についてである。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成20年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事は、理事、評議員または法人の職員以外の者から評議員会の同意を得て2名を選任しており、その業務は、寄附行為上次のとおりに規定している。

- 1) 法人業務を監査すること。
- 2) 法人財産の状況を監査すること。
- 3) 監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に提出すること。
- 4) 法人の業務または財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

表8. 2 監事の業務執行状況(平成20年度)

実施時期	執行状況	備 考
平成20年 5月 8日	平成19年度決算及び中間監査の執行	業務の執行状況及び総勘定元帳等の諸帳簿、会計伝票、証憑書類、計算書類等の監査
平成20年 10月 28日		
平成20年 5月 12日	理事会、評議員会へ出席	監査報告及び意見具申
平成20年 9月 19日		
平成20年 12月 2日		
平成21年 3月 13日		

(5) 平成20年度の評議員会の開催状況(主な議案、評議員の出席状況等を含む)を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会は合議制の諮問機関として、寄附行為で、定数、選任、定足数、諮問事項及び

意見具申等について規定されている。

平成20年度の開催状況は、次のとおりである。

表8.3 評議員会開催状況（平成20年度）

開催年月日	議 事 内 容	出席者数	定 数
平成20年 5月12日	・平成19年度事業及び決算、理事の選任	20名	21名以上
平成20年 9月19日	・評議員の選任、理事の選任、公募推薦入学者の優待・奨学制度の試行	21名	
平成20年12月 2日	・業務及び財産状況の中間監査、新校舎の建設計画及び3号館・4号館の耐震改修工事、補正予算（案）、短期大学学則の一部改正	21名	
平成21年 3月13日	・寄附行為の一部変更、事業計画及び予算（案）、学長選考委員の選出、短期大学学則の一部改正、就業規則の一部改正、給与規程等の一部改正	22名	(実数24名)
	・新校舎の建築、耐震改修工事の施工		

（6）法人の管理運営について今後の改善点や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

改正私立学校法及び大学設置・学校法人審議会の「学校法人制度の改善方策について」に基づき、次のような改善を行ったところである。今後、さらなる改善に向けて検討を進めたい。

1) 理事会機能の強化について

審議会の報告書にもられた具体的改善方策のうち既に実施しているものが多いが、これまでに理事長の諮問機関として、学内選出理事等を構成員とする「学校法人中国学園経営会議」を設置した。さらに、平成19年度は、理事会の業務決定の権限のうち、日常の軽易な事項については、理事長等に委任する「学校法人中国学園理事会業務委任規則」を制定し、理事会の迅速かつ円滑な運営と機能を補完する体制を整えた。

2) 監事機能の強化について

監事は2名で、2名とも理事でも評議員でもない。外部の人材（弁護士と税理士）である。本法人では、監事は年2回、監査を行い、監査報告書を作成し、それを理事会及び評議員会へ報告しているが、さらに毎回理事会、評議員会にも出席している。

3) 評議員機能の強化について

本法人においては、審議会の報告書の評議員機能の強化についての具体的方策は既にほとんど実施している。

4) 財務情報の公開について

財務情報については、従前から、消費収支予算書、消費収支決算書及び貸借対照表等の概要を、全保護者あての「後援会だより」により公開しているが、さらに、平成18年度からは本学ホームページにより、事業報告書並びに収支計算書、貸借対照表、財産目録等を公開した。

5) 事務機能の強化について

本法人では、所管大学規模や効率的財政運営の観点から、法人の専任職員は配置しておらず、すべて大学の職員との兼務である。そのための組織の効率化、スリム化に加え、職員の適材適所の人事に配慮している。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規定等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

本学は、学長の強力なリーダーシップの下に、「地域に輝き、地域創生を担う」教育機関として十二分な教育活動を行うべく、常時、教育上の変革を行っている。そのプロセスとしては、学長は各学科からの情報や改革を吟味しつつ、各種関連委員会等の審議を経て、その上で全学的かつ包括的な視座からの最終決定を行っている。

また、教育・研究上の事項についても、各学科からの提案や各種委員会及び各部署等の検討を経て慎重に決定されるが、緊急を要するものは学長による高度の判断に従い、教育・研究の成果をあげている。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成20年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

1. 教授会についての学則上の規定

〈添付資料〉3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集「中国短期大学教授会規程」参照。

2. 平成20年度における教授会開催状況

表 8. 4 教授会開催状況（平成20年度）

回数	開催年月日			主 な 議 題	出席者数	構成員数
	年	月	日			
第 1 回	平20	4	1	○科目等履修生判定・入試状況報告・教職員健康診断について ○卒業生進路状況・優待生について○規程の制定・除籍について ○入学宣誓式について	37名	38名
第 2 回	平20	5	7	○前期オフィスアワー・体育祭・交通指導について ○卒業生進路状況について ○大学案内・募集要項について	33名	
第 3 回	平20	6	4	○短大機関別認証評価について ○クールビス、省エネについて ○優待生決定について ○中国5県保育者団体研究協議会について	37名	
第 4 回	平20	7	2	○自己点検、評価委員会について ○学生証の発行について ○学生生活実体調査について	36名	
第 5 回	平20	9	3	○後期時間割・大学祭について	36名	
第 6 回	平20	10	1	○大学祭前日短縮授業・後期科目等履修生・第三者評価について ○就職ガイダンス、内定状況について ○読書感想文表彰について	36名	
第 7 回	平20	11	5	○学則変更(介護専攻)・入試状況報告・カリキュラム検討委員会の設置について ○証明書自動発行機について○紀要の機関リポジトリについて	36名	
第 8 回	平20	12	10	○岡山共同リポジトリのコンテンツ登録について ○大学入試センターについて ○紀要、インフルエンザの予防について	35名	
第 9 回	平21	1	7	○大学入試センター試験について ○就職内定状況・授業評価アンケートについて	36名	
第10回	平21	2	4	○卒業式・行事予定・第三者評価について	33名	
第11回	平21	3	4	○卒業式・入学式・名誉教授推薦・学則一部改正・職員給与・規程の一部改正・21年度時間割・健康診断について ○3.4号館耐震工事について	35名	

その他、判定教授会（入学合格者の最終決定のための教授会）は随時開催している。こ

のほか教授会に代わるものとして、代議員会（教授会構成員の学科長を中心に学長が指名する代議員で構成）が開かれ、教授会で了承された特定の議題についてのみ審議・決定することがある。代議員会での結果は、直近の教授会で報告、了解を得ることとしている。

（３）学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成２０年度の開催状況等を記述して下さい。

表 8. 5 平成２０年度委員会等リスト（中国学園大学との合同委員会を含む。）

	名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
1	広報委員会	諸規程集「広報委員会規程」	・広報の年間計画の策定(学生募集に関する事項を除く)に関すること ・重要な広報の企画に関すること ・広報誌「しらさぎ」の編集に関すること ・ホームページの作成、検討、改竄に関すること ・その他広報に関し必要なこと	学長補佐、情報処理センター所長、地域連携センター所長、総務課長、募集広報課長	8
2	個人情報保護委員会	諸規程集「個人情報の保護に関する規程」	・個人情報の保護に関する全学的な施策に関する事項の審議 ・管理者から個人情報の収集、利用、提供、開示、訂正等について付議された事項の審議 ・その他個人情報の保護に関する重要な事項	学長、学部長、短期大学部長及び各学科長、事務局長及び事務局各部長、図書館長、情報処理及び地域連携センター所長	0
3	衛生委員会	諸規程集「職員安全衛生管理規程」「衛生委員会設置要綱」	・職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること ・職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること ・労働災害の原因及び再発防止対策に関すること ・その他職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する事項	事務局長、学生部長、総務課長、衛生管理者、産業医、職員のうちで衛生に関し経験を有する者7名	2
4	危機管理委員会	諸規程集「危機管理規程」、「危機管理委員会設置要綱」	・危機管理全般に関すること及び危機管理マニュアルの策定に関する事項 ・安全確保に必要な事項 ・災害対策に必要な事項 ・その他危機管理に対し必要な事項	学長、学部長、短期大学部長及び学科長、事務局長、教務部長、学生部長、総務課長、総務課長、職員のうちで危機管理に関し経験を有する者	0
5	入試委員会	諸規程集「入試委員会規程」	・入学試験に関する審議 ・その他入学に関する重要な事項の審議	学長、短期大学部長、学科長、事務部長、教務部長、学生部長、募集広報部長、就職支援部長、図書館長、教務課長、募集広報課長	7
6	自己点検・評価委員会	諸規程集「自己点検・評価委員会規程」	・本学の教育研究活動に関する事項についての点検及び評価 ・自己点検・評価の結果をとりまとめた報告書の作成及び公表	学長、短期大学部長、教員(学長により選任された者3名)、事務職員(学長により選任された者1名)	1 (小委員会は多数)
7	学生生活向上委員会	諸規程集「学生生活向上委員会規程」	・キャンパスライフの向上に関すること ・地域連携に関すること	学長が指名する教職員若干名、各学科から選出された学生各2名及び学友会役員から推薦された者2名	2
8	募集広報委員会	諸規程集「募集広報委員会規程」	・学生の募集並びにそのための広報に関する事 ・入学案内、募集要項等の作成	募集広報部長、大学学部の学科及び短期大学各学科より選出された者、事務部長、教務部長、学生部長、就職支援部長、教務課長、募集広報課長	12
9	教務委員会	諸規程集「教務委員会規程」	・学科目の履修及び単位の修得に関すること ・授業時間割及びその実施に関すること ・試験及び成績に関すること	各学科各一名、教務部長、教務課長	6
10	学生生活委員会	諸規程集「学生生活委員会規程」	・学生の生活指導に関すること ・学生の福利厚生及び保健に関すること	各学科各1名、学生部長、学生課長	6
11	就職支援委員会	諸規程集「就職支援委員会規程」	・学生の就職支援に関すること ・その他就職に関する重要な事項	各学科各1名、就職支援部長、就職支援課長	6
12	公開講座委員会	諸規程集「公開講座委員会規程」	・公開講座の企画立案 ・公開講座の実施 ・公開講座に関する渉外	各学科各1名、事務部長、学長が委嘱する者	6
13	国際交流委員会	諸規程集「国際交流委員会規程」	・国際交流に関する基本方針の審議	学科長のうちから互選された1名、事務部長を除く各部長及び図書館長のうちから互選された1人、事務部長、各学科各1人	1
14	人権教育委員会	諸規程集「人権教育委員会規程」	・人権教育の企画立案及び実施 ・人権教育に関する研修会への参加	各学科各1名、学部長及び図書館長、教務課長、学生課長及び就職支援課長	1
15	紀要委員会	諸規程集「紀要委員会規程」	・紀要発行に関する諸事項、論文掲載の可否	各課より選出された者	4
16	図書館運営委員会	諸規程集「図書館運営委員会規程」	・図書館の運営に関する事項	各学科各1名、図書館長、図書課長	6
17	情報処理センター運営委員会	諸規程集「情報処理センター規程」	・センターの基本施策及び情報処理システムの管理運営に関する重要事項	センター職員、各学科から選出された者6人、事務局から選任された者2人、センター長から委嘱された者	3 (スタッフ会議は月1回)

	名称	根拠規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
18	地域連携推進委員会	諸規程集「地域連携センター規程」	- 産学官民との共同研究及び受託研究の受け入れに関する事 - 産学官民に対する学術情報の提供、相談に関する事 - 大学コンソーシアムに関する事 - 学生地域連携に関する事 - 高大連携に関する事 - 生涯学習の調査・研究、情報の提供及び相談に関する事 - 公開講座の開設及び大学教育開放事業に関する事 - 知的財産に関する事	学長、学部長・短期大学部長及び学科長、事務局長、センターの所長及び次長、事務局各部(館)長、広報委員会及び公開講座委員会の委員長、その他学長が指名する者	3 (幹部会で協議、スタッフ会議5回)
19	福祉教育センター運営委員会	諸規程集「福祉教育センター規程」	- 学外実習(介護実習、同行訪問実習、施設見学等)の実習先の調整・確保及びそれに付随する事務 - 学外実習に関する学生指導(施設巡回指導) - 関係機関(厚生労働省、岡山県、岡山地方振興局等)への提出書類の作成	所長、教育職員若干名、事務職員若干名	1
20	人事委員会	諸規程集「教育職員人事委員会規程」	教育職員の採用及び昇任昇格等に関する事	学長、専任の教授	3
21	セクシュアル・ハラスメント防止委員会	諸規程集「中国学園大学・中国短期大学におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」	- セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する啓発活動の企画及び実施 - セクシュアル・ハラスメントに起因する問題への対応 - セクシュアル・ハラスメントに関する関係部所との連絡調整	学長、学部長、短期大学部長、学科長のうち学長が指名する者1名、事務局長、学生部長、人権委員会委員長、その他学長が必要と認めた者	0
22	教育実習指導委員会	諸規程集「教育実習指導委員会規程」	- 教育実習の指導に関する事 - 教育実習の単位認定等	各科から選出された教育実習担当教員	3
23	FD委員会	諸規程集「中国学園大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」	- 教育研究活動改善のための基本方策に関する事 - FD推進のための研修会及び講習会の開催に関する事 - 教員の教授活動相互研鑽に関する事 - 学生の授業評価の実施に関する事 - FD活動に関する情報の収集と提供に関する事 - その他、学長の諮問する事項	各学部長及び学科長、大学院研究科長、学長が専任教員から任命した者各学部1名、学長が自己点検・評価委員会から任命した者2名、教務部長、学長が専任職員から任命する者若干名	4

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

本学が抱えている問題や課題はないが、以下のことについて記しておく。

1) 各種委員会の合同運営について

前項(3)に記した各種委員会の多くは併設の中国学園大学と合同で設置または開催されている。効率や効果の面で合同の利点は多いが、短期大学と四年制大学の特性の違いにより別個の運営が望ましい場面も見られる。教務委員会に関しては合同委員会の他、必要に応じ両大学の分科会を設けることを検討中である。

2) 学科間の情報交流の増進について

学科の専門性や特性の違いから、過去において学科間の情報交流がともしれば疎となりがちであった。各学科の特性を活かし相乗効果を発揮すべく、組織および運営面で種々の対策を講じているが、これを補完するために、平成19年より非公式の学科間懇談会「ちゅうたんサロン」が開催され、効果を上げている。短期大学部長をコーディネーター、各学科長とALOをメンバーとし、月1回の会合で短期大学に関わるあらゆるテーマを取り上げ、忌憚ない意見交換・情報交換が行われ、有益なアイデアに繋がることも多い。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

事務組織は、四年制大学併設後、事務量の増大やさらには社会の変革・要請に対応できる組織とするため、募集広報部の分離新設、就職支援組織の充実強化や福祉教育センター及び地域連携センターの新設等を図ってきた。

現行事務組織図は次のとおりである。なお、事務分掌は表のとおりである。

図8. 1 事務組織図(平成21年5月1日現在)

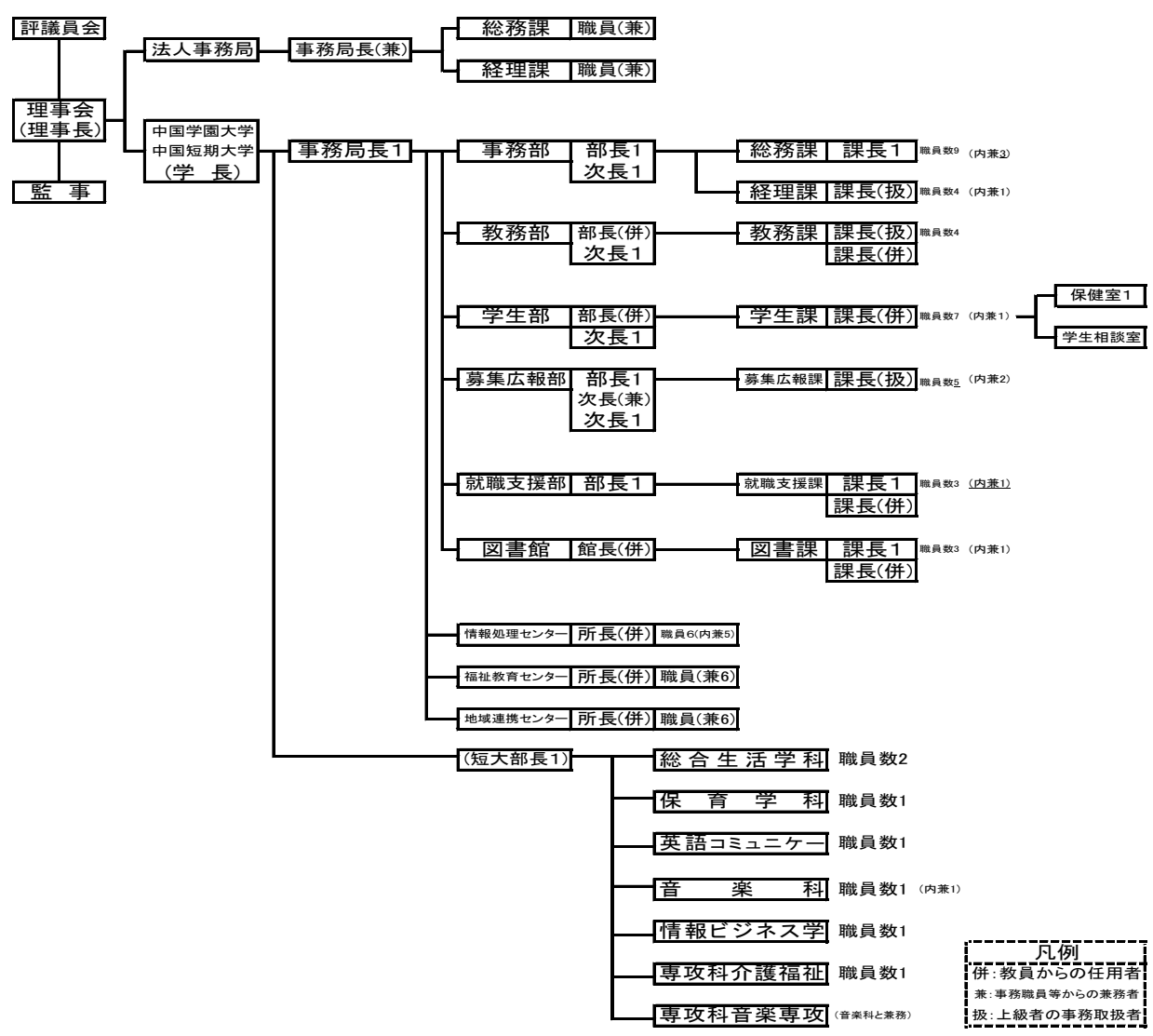


表8. 6 各部門の主な業務

総務課	- 企画、広報に関すること。 - 文書の受発、整理、保存及び公印の管守に関すること。 - 職員の人事、服務、給与及び福利厚生に関すること。 - 諸規程の制定手続に関すること。 - 施設及び設備の維持管理に関すること。 - 物品の受払に関すること。	- 事務全般の連絡に関すること。 - 会議及び儀式等の行事に関すること。 - 資産及び物品の取得、処分に關すること。 - 施設及び備品の利用に関すること。 - 公開講座に関すること。 - その他、他部課分掌に属しないこと。
経理課	- 予算の編成及び経理に関すること。 - 現金及び有価証券の出納保管に関すること。 - その他会計経理に関すること。	- 学納金及び寄付金等の収納に関すること。 - 給与及び旅費の支給に関すること。
教務課	- 教育課程に関すること。 - 学生の入学、休学、復学、退学及び卒業に関すること。 - 学生の学籍記録及び諸証明に関すること。 - FDに関すること。	- 試験及び履修単位に関すること。 - 入学者選考に関すること。 - その他教務に関すること。

学 生 課	・学生の生活指導に関すること。 ・学生の奨学、育英に関すること。 ・学生寮に関すること。	・学生の諸行事に関すること。 ・学生の厚生、補導に関すること。 ・その他学生生活に関すること。
募 集 広 報 課	・募集要項、入学案内の作成に関すること。 ・学生募集のための広報活動に関すること。	・学生募集の企画及び実施に関すること。 ・その他募集活動に関すること。
就 職 支 援 課	・学生の就職支援及び斡旋に関すること。	・その他就職活動に関すること。
図 書 課	・備え付け図書及び資料等の管理、収書、目録作成、閲覧、貸し出し等に関すること。	・その他図書館に関すること。
情 報 処 理 セ ン タ ー	・学内LAN及びパソコン機器の管理運営に関すること。 ・本学の機器を利用して行う学術研究及び教育への協力に関すること。	・学生のコンピュータ利用相談及び利用指導に関すること。 ・その他情報処理センターに必要な事項。
福 祉 教 育 セ ン タ ー	・学外実習先の調整・確保及び付随事務に関すること。 ・学外実習に関する学生指導に関すること。	・関係機関への提出書類の作成に関すること。 ・その他学外実習に関する必要な業務。
地 域 連 携 セ ン タ ー	・産学官民との共同研究及び受託研究の受け入れに関すること。 ・産学官民に対する学術情報の提供、相談に関すること。 ・大学コンソーシアムに関すること。 ・学生地域活動に関すること。 ・高大連携に関すること。	・知的財産に関すること。 ・生涯学習の調査、研究、情報の提供及び相談に関すること。 ・公開講座の開設及び大学教育開放事業に関すること。 ・その他地域連携センターに必要な事項。

（２）事務職員の任用（役職者の任免を含む）についての現状を訪問調査時にご説明下さい。

事務職員の人数は、必要最小限にとどめており、新規採用は、原則的には退職者の補充のみである。採用に当たっては、即戦力となる幹部クラスの人材と将来性豊かな有為な人材とのバランスに配慮している。なお、これまで期限付採用職員等が占めていた学科担当事務職員については、順次派遣社員に替えたところである。

事務職員の職階は、事務局長、部長、次長、課長、課長補佐、主幹、主査、事務員であるが、今後は、高年齢者雇用安定法による定年後の継続雇用制度を導入したことにとともに、新たな職の設置も考える必要がある。昇任・昇格については、勤務年数、勤務実績及び資質能力等を評価して決めているが、職員の女性比率から見ても、女性職員の管理職登用に配慮している。

（３）事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

事務諸規程は、学校法人中国学園寄附行為をはじめ事務組織に関する主な規程は次のとおりである。

学校法人中国学園寄附行為	学校法人中国学園組織規則
学校法人中国学園就業規則	学校法人中国学園職員定年規程

（４）決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

事務処理は、学校法人中国学園組織規則の事務組織、事務局の事務分掌の規程に基づき処理している。さらに、公印の管守や文書処理等については、公印管守規程、文書取扱規程等を制定して、適正に処理している。今後は、事務量の増大や新規事業に対応するため、決裁権限の委譲や事務処理のＩＣＴ化に取り組む。

また、防災の状況については、総務課が管理し、消防法等の法令を遵守し、指定業者に

定期点検保守を委託しているところである。平成19年度は、全施設の消防設備の大規模な改修を実施した。情報システムの安全対策については、本学の情報処理センターが管理している。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者(事務局長等)が現状を率直に記述して下さい。

事務職員は、学園の重要なスタッフとして、教員との連携を密にして、日常業務の処理や重要な行事を執行しており、教員との協力体制は万全である。また、学生に対する応対も親切丁寧であり、学生達の信頼は篤い。なお、将来的には、学生による事務職員評価も行う予定である。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント(SD)活動(業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等)の現状を記述して下さい。

適材を適所に配置することはもとより、財政、教務、就職支援等では、社会変革に対応できるよう多岐に渡る専門的知識と実践力を併せ持った人材養成のため、文部科学省、私学関係団体の研修会、講演会等への参加の他、放送大学大学院への入学や民間教育団体が主宰する管理者養成研修等によりスキルアップに努めた。

毎週の事務局連絡会等で学内情報の共有化を図り、管理職には業務の進行管理の徹底と一般職員には試行的に業務目標を策定させる等、職員の意識の向上を図ると共に業務の見直しや事務処理の改善に着手した。

平成19・20年度に企画した学内SD研修は、次のとおりである。

表8. 7 平成19・20年度学内SD研修の状況

対 象	研修会(講演会)の演題(日時)	講 師	目的・内容
事務職員全員 (管理職員を除く)	平成19年度中堅職員研修 (平成19年9月13~14日、 12月21日)	民間研修機関	中堅職員の役割認識、自己の能力開発と職場での取組み課題 (3日間)
教員及び 役付事務職員	大学認証評価制度 (平成19年9月5日)	(財)日本高等教育評価機構 伊藤敏弘氏	第三者評価の意義と認証評価システム
教員及び 役付事務職員	学長講話 学科長発表 (平成20年2月6日)	学長 総合生活学科長 齋藤美加子 教授	①授業力、学生満足度の向上をめざして ②学科の改革への取組み
教員及び 役付事務職員	他大学教員による講話 (平成20年2月13日)	四国大学経営情報学部長 横島康吉教授	公開研究授業検討 授業改革
教員及び 管理職の事務職員	他大学教員による講演 (平成21年2月18日)	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長 佐藤浩章准教授	組織のFDニーズの把握

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

現在、事務組織の各部門の日常業務量の増大と細分化により、事務処理の迅速化と効率化が必要になっている。そのため、兼務職員を増やし、毎週幹部連絡会(課長以上)を開

催して、事務組織の横の連携を強化し、効果的に業務遂行ができるように努めている。これからは、経営的感覚を身に付け、大学の業務等の知識と能力と実践力を有し、高度な問題発見能力や企画立案能力やコスト意識等を持った人材が絶対必要である。このような人材の育成と職員の意識改革を進め、組織全体を活性化させることが重要と考えている。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規定等）を訪問調査の際にご準備下さい。

本学の教職員の就業に関する諸規程が整備されているが、昨今の新規業務に対応するため、教職員の勤務時間を平成19年4月から8時間体制に変更したが、特に問題はない。職員の定年年齢は教育職員が63歳、事務職員が62歳となっており、高年齢者雇用安定法に則り、再雇用制度の活用で対応するよう定年規程を改正した。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

理事長は高い見識を持ちつつ、高邁な理想を掲げ、中国短期大学の将来ヴィジョンや進むべき方向性を示すことに日夜努力している。その具体化や日常の業務については、教学面は学長に、経営面は主として事務局長に委任している。重要事項は事務局長から常に連絡や報告を受け、決定している。それによって運営面に支障がない。現在、少子化の影響で、本学も経営面を一層強化する一方で、教学面では、地域連携や高大連携、さらには国際交流やインターンシップ等に力を入れる等、法人と教職員の協力状況は良好である。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

本学の各学科の教員や事務局の各部署の事務職員達は本学開設以来、将来を担う若い人材を育成するという共通の目的を持ち、お互いに協力しつつ実りある結果を社会に提示してきた。つまり、双方とも大学のヴィジョンと戦略を基に教育・研究を活性化させると同時に経営基盤を安定化させるため、お互いに協力していくことが重要であるとの共通認識を持っている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康管理については、労働安全衛生法に基づき職員安全衛生管理規程(平成18年4月1日施行)を整備し、定期健康診断、人間ドックの受診等により皆検診に努めている。また、検診科目や日頃の健康管理等についても学内に衛生委員会を設置して職員に喚起している。

平成18年度から、保健室を設置すると共に職員(養護教諭免許保持者)を配置し、職員の健康管理業務に従事している。また、受動喫煙の害を防ぐためすべての建物内では喫煙

所（２ヶ所）以外での喫煙を禁止している。

就業時間の順守については、平成１６年度より事務職員に対してはタイムカード・システムを導入し、時間管理を行っている。教員については、出勤簿に押印する制度にしている。

【特記事項について】

（１）この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

（２）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 ３．中国学園大学・中国短期大学諸規程集

「学校法人中国学園寄附行為」 pp. ３～１０

「学校法人中国学園経営会議設置要綱」 p. ２７

「中国短期大学学長選考規程」 p. ２０７

「中国短期大学教授会規程」 pp. １１１～１１２

「中国短期大学学則」 pp. ８７～１１０

「学校法人中国学園組織規則」 pp. １１～１５

「学校法人中国学園就業規則」 pp. １６～２１

「学校法人中国学園給与規程」 pp. １７０～１７９

「学校法人中国学園公印管守規程」 p. ２６

「学校法人中国学園文書取扱規程」 pp. ２４～２５

〈参考資料〉 ２５．平成２１年度 理事・監事・評議員名簿

２６．過去３ヶ年の理事会議事録

２７．過去３ヶ年の評議員会議事録

２８．過去３ヶ年の各種委員会議事録

３０．過去３ヶ年の「中国学園大学・中国短期大学後援会だより」

《Ⅸ 財務》

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

平成19年度において、創立50周年（平成24年度）を目途に校舎機器備品等の固定資産の取得を図るため第2号基本金の組入計画を変更したが、その後、計画どおり組入を行っている。また、校舎等建物の計画をもとに中・長期の財務計画を策定すべく準備を進めている。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

10月に予算編成の基本方針を策定し、各部門に提示する。各部門はこの予算編成の基本方針に基づいて、予算見積書を作成し、11月までに経理課に提出する。12月に学長・事務局長・総務課長・経理課長と各部門長との予算折衝を行い、調整のうえ、事業計画・予算を内定し、理事長の決裁を経て3月の評議員会の意見を聞いたうえ理事会で決定する。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続を含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規定は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

予算管理簿を経理課にて作成し、各部門に配布している。執行については、購入伺書を作成し、予算管理簿による予算額の確認のうえ、支出行為を行う。また特例的な支出については、別途原議書により、確認のうえ、支出行為を行う。

経理課では、常に予算の残額をチェックするとともに、期中における各部門の執行状況の提出を求める等、適正な予算の執行に努め、学校法人会計基準の徹底を図っている。

月次試算表は毎月10日前後に作成し、内容を吟味したうえ、財務担当理事に提出している。平成19年度から、電算化による伝票の作成を採り、会計システムの効率化を図り、書類の一元化を推進した。さらに内部統制の確立をすると共に、人材の効率的な活用により、経費の節減を図りたい。

経理規程等の財務諸規程について整備している規程名は次のとおりである。

- 1) 学校法人中国学園給与規程(添付資料3. 諸規程集)
- 2) 学校法人中国学園経理規程(添付資料3. 諸規程集)
- 3) 学校法人中国学園職員退職手当規程(添付資料3. 諸規程集)
- 4) 学校法人中国学園財務書類等閲覧規程(添付資料3. 諸規程集)
- 5) 学校法人中国学園固定資産及び物品管理規程(添付資料3. 諸規程集)

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

表9.1 公認会計監査状況(監事) (平成18年度～平成20年度)

年 度	監 査 月 日	監事名	監査の内容
平成18年度	18年4月27日、18年10月27日	岡・入江	業務の執行及び会計監査
平成19年度	19年5月 8日、19年10月26日	岡・入江	業務の執行及び会計監査
平成20年度	20年5月 8日、20年10月28日	岡・入江	業務の執行及び会計監査

表9.2 公認会計監査状況(公認会計士) (平成18年度～平成20年度)

年 度	監査月日	公認会計士名	監査の内容
平成18年度	4月20日、 6月 5日、10月26日、 3月30日	中村・波戸	会計監査
平成19年度	4月26日、 5月 7日、10月30日、 3月31日	中村・波戸	会計監査
平成20年度	4月17日、 4月25日、 5月14日、 6月 3日、3月31日	中村・波戸	会計監査

※公認会計士の監査後、監事の監査を行っている。公認会計士の監査の指摘事項は特になし。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

学園のホームページに、事業報告、収支計算書、貸借対照表、財産目録等を掲載している。また、本学園の利害関係人からの請求があった場合に備え、事業報告等関係書類を閲覧できるよう事務所に備え付けている。そして、毎年7月に発行、学生の保護者並びに教職員全員に配布される「後援会だより」に、貸借対照表及び消費収支計算書と翌年度の消費収支予算書の概要を掲載している。

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規定等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

保有資金の運用は大部分を定期預金としていたが、学納金の増収が見込めない状況の中では、効率的な資産運用を図り収入確保をしていくことが重要であり、平成17年度に策定した資金運用規程に基づき、有利な有価証券にシフトする等積極的な資産運用を行っている。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

今後の予定なし。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を添付して下さい。

〈添付資料〉5. 資金収支計算書/収入の部・支出の部

〈添付資料〉6. 消費収支計算書/収入の部・支出の部

(2) 学校法人の平成21年3月31日現在の貸借対照表の概要を添付して下さい。

〈添付資料〉7. 貸借対照表の概要

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

〈参考資料〉33. 過去3ヶ年の財産目録及び計算書類

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

短期大学における過去3ヶ年の教育研究費は、帰属収入の20%を超えており、内部留保金も充実している。また将来計画を見込んで目的別の引当資産化をしており、今後とも時代に即応した教育研究の活性化及び組織の改組転換等、柔軟で機敏な対応をする経営戦略を進め、安定経営に向けて努力してゆく所存である。

表9. 3 教育研究経費比率(平成18年度～20年度)

年 度	教育研究経費	帰属収入	教育研究経費比率
平成18年度	288, 210, 496	934, 944, 786	30. 8%
平成19年度	264, 586, 812	887, 299, 685	29. 8%
平成20年度	263, 316, 065	858, 914, 370	30. 6%

【設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規定を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

固定資産管理規定、図書管理規定、施設設備等の管理に関する規定、財務諸規定は次のとおりである。

- 1) 学校法人中国学園給与規程(添付資料3. 諸規程集)
- 2) 学校法人中国学園職員退職手当規程(添付資料3. 諸規程集)
- 3) 学校法人中国学園経理規程(添付資料3. 諸規程集)
- 4) 学校法人中国学園固定資産及び物品管理規程(添付資料3. 諸規程集)
- 5) 学校法人中国学園財務書類等閲覧規程(添付資料3. 諸規程集)
- 6) 中国学園学生寮規則(添付資料3. 諸規程集)

7) 学校法人中国学園施設貸与規程（添付資料 3．諸規程集）

8) 中国学園図書館規程（添付資料 3．諸規程集）

（２）火災等の災害対策等、以下の危機管理対策についての現状を簡潔に記述して下さい。
①火災等の災害対策 ②防犯対策 ③学生、教職員の避難訓練等の対策 ④コンピュータのセキュリティ対策 ⑤省エネ及び地球環境保全対策 ⑥その他

① 火災等の災害対策

学内防火管理委員会を組織し、担当業務等を示して防火管理体制を敷くとともに、地震予知情報または警戒宣言が発せられた場合等の消防計画を策定し災害に備えている。

各建物については、消防設備の機能保全と災害対策のため、消防法等に基づく点検を年 2 回実施し、施設の維持に努めている。

② 防犯対策

警備員による有人管理と、巡回警備を行うとともに、原則、21 時 30 分以降は機械警備に切り替えて翌朝までのセキュリティ管理を実施している。

また、学内連絡通路の各所には外灯を設置し、防犯対策措置を講じている。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

自衛消防隊を組織し、各担当班の業務内容を明示し、組織が一体となり素早く対応するよう対策を講じているが、近年防災訓練を実施したことがないのが実態である。今後は、学生及び教職員が災害発生時に的確な行動がとれるように、防災訓練及び消防署員による災害時における注意事項や消火器の取扱いについての講習会等を実施することが課題である。なお、災害時における学内の避難経路は作成済みで、平成 21 年度は寮での避難訓練の再開を決定している。また、改正消防法による防災管理体制の整備を進めている。

④ コンピュータのセキュリティ対策

情報処理センターの委員を中心に、年次計画をたて順次実施している。現時点ではウィルスサーバの設置、学内のクライアントパソコンへのウィルス対策を実施しているが、新種のウィルス等の出現等により完全なものになり得ないのが現状である。学生の学籍、成績、経理等重要データのバックアップについては、ハード、ソフト両面から、引き続き努力が必要である。

⑤ 省エネ及び地球環境保全対策

夏季におけるクール・ビズ運動を始め、冷暖房時の室温目安を周知徹底すると共に、一部の建物を除き、冷暖房運転時間に無駄をなくすよう運転時間を集中管理することにより、経費削減と省エネルギー対策に努力している。

また、電力消費機器の購入に当たっては、省エネルギー性能の高い機器を選択導入することになっている。

⑥ その他

本学において発生する各種の事象にともなう危機に迅速かつ的確に対処するため、危機管理体制、対処方法等に関し、法令で定めるものの他、必要事項を定めることにより、学生、職員及び近隣住民等の安全を確保するとともに、大学の社会的な責任を果たすことを目的とした「中国学園大学・中国短期大学危機管理規程」を制定し、平成 19 年 4 月 1 日から施行している。

【特記事項について】

(1) この《IX財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

- 〈添付資料〉
3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集
 - 「中国学園大学・中国短期大学危機管理規程」 pp. 37～39
 - 「学校法人中国学園給与規程」 pp. 170～179
 - 「学校法人中国学園職員退職手当規程」 pp. 184～185
 - 「学校法人中国学園経理規程」 pp. 223～229
 - 「学校法人中国学園固定資産及び物品管理規程」 pp. 230～231
 - 「学校法人中国学園財務書類等閲覧規程」 pp. 232～233
 - 「中国学園学生寮規則」 pp. 234～236
 - 「学校法人中国学園施設貸与規程」 pp. 237～241
 - 「中国学園図書館規程」 p. 154
 5. 資金収支計算書/収入の部・支出の部
 6. 消費収支計算書/収入の部・支出の部
 7. 貸借対照表の概要
- 〈参考資料〉
29. 事業報告等関係書類
 30. 過去3ヶ年の「中国学園大学・中国短期大学後援会だより」
 31. 学校法人中国学園資金運用内規
 32. 管理に関する各種諸規程及び財務諸規程
 33. 過去3ヶ年の財産目録及び計算書類
 34. 災害時における学内の避難指示及び避難経路等

《X 改革・改善》

【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学では、自己点検・評価の重要性を強く認識していた岸田前学長の提唱により、平成6年4月4日、中国短期大学自己点検・評価委員会規程が施行され、中国短期大学自己点検・評価委員会が発足した。委員会規程によると、

- ・ 委員会は、学長、教員（学長によって選任された者3名）、事務職員（学長によって選任された者1名）で構成され、必要があれば専門部会を置くこともできる。
- ・ 自己点検・評価報告書の作成及び公表は原則として年度ごとに行う。
- ・ 学長は自己点検・評価の結果を理事会に報告し、改善が必要と認められるものについては理事会と協議し、その改善に努めることとなっている。

1) 自己点検・評価の実施、報告書の発行

自己点検・評価委員会が発足し、平成6年6月、第1回目の委員会が開催された。審議項目は規程に定められているとおりであるが、以後、平成6年度内に第9回まで、平成7年度内に第10回～第15回を開催し、審議の結果をまとめて、報告書の発行を行うこととなり、平成8年8月、『自己点検・評価報告書』第Ⅰ集として刊行した。以後、刊行された『自己点検・評価報告書』は全教員に配付し、授業改善、教員の意識改革の一助として活用している。

2) 「学生による授業評価アンケート」

本学では平成7年度に「学生による授業評価アンケート」を初めて実施した。

アンケート項目は資料のとおりであるが、この「学生による授業評価アンケート」は平成8年度、9年度、10年度、12年度、14年度と実施した。平成7年度、8年度、9年度、10年度の結果については、中国短期大学『自己点検・評価報告書』第Ⅱ集（平成11年12月刊）で報告・公開した。平成11年度は学生の意識調査を行ったので、12年度の「学生による授業評価アンケート」とともに第Ⅲ集（平成14年12月刊）で報告・公開した。平成15年度は7月下旬に実施、平成17年度は後期開講授業研究を実施した。平成18年度からは、前・後期の全科目について、授業評価アンケートを行っている。平成19年度以降については、Ⅱの【教育改善への努力について】に記したとおりである。

3) 「教員による授業相互評価」

本学では平成7年度に、本学内で「教員による授業相互評価」を初めて実施した（実施教員3名）。実施担当教員は、事前に授業計画案を作成・配付し、当日の授業を他の教員に公開し、参加教員の意見を徴し、さらに後日授業の検討会を行い、授業改善を図るシステムである。

以後、平成8年度（実施教員9名）、9年度（実施教員6名）、10年度（実施教員6名）、12年度（実施教員6名）と実施し、その結果については、中国短期大学『自己点検・評価報告書』第Ⅱ集（平成11年12月刊）、第Ⅲ集（平成14年12月刊）で報告・

公開した。

特に、平成12年度の1教員については、鳥取女子短期大学教員・短期大学基準協会関係者・本学教員が授業を参観し、短大間の相互評価を行った。平成18、19年度は、「教員による授業相互評価」検討会を、中国学園大学の授業相互評価も合わせて合同で実施した。平成20年度は、FD委員会の決定により、前期と後期にそれぞれ前もって定められた2日間の全授業を学内の教職員が随時参観し、授業への意見書を提出できる方式に変え、公開授業として授業評価の俎上に乗せる授業数を多くした。また、中国学園大学も同時期に同じ方式で公開授業を実施し、組織の枠を越えて、双方とも自由に参観可能とした。この公開授業結果は、前期[7月3日(木)・4日(金)]の参観科目総数は33、参観者総数は延べ53人、後期[11月27日(木)・28日(金)]では科目総数13、参観者総数13であった。平成21年度は、公開授業・参観の日数を5日間に増やして、より多くの参観機会による授業評価にすることが決定している。

平成20年度の公開授業・参観の結果は以下のとおりである。なお、参観者の意見書は、授業者に渡され、授業評価の一助になった。

表10.1 平成20年度公開授業実施一覧表

		総合生活 学科	保育学科	英語・コミュニ ケーション学科	音楽科	情報ビジネス 学科	専攻科	兼任	計
前期	参観科目	3	4	5	3	7	1	10	33
	参観者数	10	8	5	5	11	1	13	53
後期	参観科目	1	5	6	0	1	0	0	13
	参観者数	1	5	6	0	1	0	0	13

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度～20年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

中国短期大学 自己点検・評価報告書 第V集 平成18年12月発行

中国短期大学 自己点検・評価報告書 第VI集 平成19年12月発行

中国短期大学 自己点検・評価報告書 第VII集 平成20年12月発行

以上3回発行している。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成20年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

平成16年度から、学長を委員長とした自己点検・評価委員会の下に、教職員の大部分が関わるワーキンググループを設定して取り組んできた。今後とも、さらに本学全教職員が関与し、各部署、各学科での改革・改善への意欲を高めていきたい。

(2) 平成20年度までに行った自己点検・評価結果の活用についての実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

過去に7度、自己点検・評価報告書を発行して教職員に配布するとともに、希望があれば送付し、公開している。しかし、第Ⅲ集までは評価項目等について手探りの状態であり、授業評価が中心であった。従って、報告書に基づき関係者で意見交換をし、授業の改善にそれなりに寄与したものと考えている。第Ⅳ集より、短期大学基準協会が示した評価項目に沿った形で作成を開始し、自己点検・評価の記録として活用している。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

現在までに本格的なものではないが、教育に関する相互評価を公開授業・授業参観方式で、学外（鳥取女子短期大学）及び学内で実施してきており、最近は学内におけるFD研修の一環としても位置づけられ、授業研究の面で実効があったと判断している。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

自己点検・評価委員会やFD委員会等の各種組織を中心に、相互評価や外部評価の実施についての規程や方策を検討・決定し、実際の業務に対処することになるので、ケーススタディ等を研究して、実りある結果を出す準備を開始している。なお、対象校を決定しての本格的な相互評価は、平成21年度の第三者評価を受けた後に実施する方針である。

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

本学の諸規程集にもあるとおり、平成6年度に自己点検・評価委員会を設置し、委員長の学長による指揮の下、委員達が中心となり、各学科や各部署と連携を取りつつ、第三者評価実施へ向けて努力している。各年度の報告書作成、教育理念に基づく教育体制や学内の教育環境等への絶えざる整備等の実現に向けて、検討を重ねている。平成20年度の反省をもとに、より効果的かつ効率的な組織への構築を計画中である。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びAL O（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

本学は第三者評価に向けて、以前から学長が中心になって、「自己点検・評価」という評価文化に対する全職員の意識作りに努力してきた。教授会等で学長が強調してきた第三者評価の意義を念頭に、短期大学の存在意義や社会的貢献等を踏まえ、訪問調査も計画された第三者評価という貴重な機会を得て、これからの本学のあるべき将来像の輪郭が把握できるよう、全学が一丸になって学内整備に努力していく所存である。

【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、自己点検・評価の視点を持つ絶えざる改革・改善の一環として、年度末までに当該年度の事業計画の進捗状況を精査し、また次年度の事業計画の立案を行っている。平成20年度の事業計画の成果をも反映しつつ、平成21年度は以下のような全学的な改革・改善を旨とした事業計画を作成し、日々、遂行途上にある。

平成21年度事業計画

1. 本学の重要課題

本学園では今後、何をなすべきか、取り組むべき重要課題として次の5点を挙げることができる。

- (1) 学科の新設・改組といった教育・研究の仕組みの改革
- (2) 教職員自身の意識改革と教育・研究の力量の向上をめざす方策
- (3) 入り口（入学者の確保）・内部（カリキュラム・教育の質）・出口（就職や進学）の有機的連関に基づく「学士力」の保証方策
- (4) 中国学園大学と中国短期大学の社会における知名度と名声を向上させる方策
- (5) 収支の均衡と財政の健全化

これらの課題は、相互に関連し合うものである。どの課題についても、今まで改善を図ってきたが、さらに学内での論議を推進し、より実効のあがる具体的手段を講じなければならない。

2. 設置学科の平成21年度重点的取組み

○総合生活学科

- (1) 新たな資格等の検討
 - ①学科のコンセプトの範囲内で高校生にニーズのある食を始め、住環境等に関する新たな資格等を検討
- (2) 教育内容の充実
 - ①医療・介護事務コースについて、病院実習等を中心に教科内容を充実
 - ②生活産業実習の新たな実習先の開拓を含む、さらなる充実
- (3) 地域との連携強化
 - ①地域の学科に対するニーズ等の把握と地域住民や高校生・卒業生との定期的な懇談会の実施
- (4) 学科活動の展開
 - ①学科グッズとして「総生せんべい」の継続作成と活用及び販売可能性等の検討とともに、独自の「新総生せんべい」の開発を業者と共同研究

○保育学科

(1) 教育の充実強化

- ①カリキュラムの見直し
- ②授業の見直しと魅力ある授業の構築
- ③特別講義に特別支援を要する子どもの現状と対応とあり方を学ぶ講義を新設
- ④子どもたちや子育て中の保護者と出会う場づくりの拡大と深化
- ⑤学習の成果を实际の子どもたちに実施し即応性のある学びの場づくりの充実

(2) 卒業生への支援と保育学科への支援力の強化

- ①リカレント教育・懇談会をこれまでの大学祭時に加え、福山地区で新規実施

(3) 社会的責任・地域貢献への取組みの工夫と充実

- ①地域の要請と学科の行事・学生が学ぶものとの利害が適合する場での関係強化

○英語コミュニケーション学科

(1) 教育の質的向上

- ①カリキュラムの再編成(フィールド&ユニット制への移行)
- ②小学校英語指導における最先端メソッドの導入(スマートボード利用)
- ③CALLシステムとiPod機能の連携強化(教授法開発を含む)
- ④キッズ・イングリッシュ・ワーキング・ルームの設置

(2) 専門職就職支援の充実強化

- ①小学校英語指導者資格(J-shine 認定)取得の支援強化
- ②インターンシップの強化

(3) 地域、高校との連携強化

- ①児童英語教育研究会の開催等地域との連携の促進
- ②自主教材の提供等入学前教育の拡大・強化
- ③高大連携出前授業の充実
- ④高校生、社会人等を対象とした資格検定講座(観光英検対策講座等)の実施

○音楽科

(1) 音楽技術の向上及び教育の充実

- ①時代のニーズに合ったカリキュラムの見直し
- ②新人演奏会等へ全員参加等、音楽環境への早期適応、音楽への研鑽姿勢の導入
- ③定期・特別演奏会や吹奏楽特別演奏会等の開催、卒業生の参加等による音楽科の社会的アピールと活性化

(2) 音楽技術指導及び演奏会全般の取組みの充実

- ①教員演奏会を企画し、学生全員参加と運営スタッフとして経験の場の提供

○情報ビジネス学科

(1) 学習支援、就職支援及び学生生活支援の充実

- ①携帯電話の利用によるモバイル型 e-Learning システムの新規導入

(2) インターンシップ及び体験学習取組みの強化

- ①チボリ公園に替わる経営の体験学習の場の確保を検討

3. 平成21年度重点事業

(1) 創立50周年に向けての取組みの推進

(なお、記念行事等については、学校後援会及び同窓会と連携を図りながら進める。)

- ①創立50周年記念事業実行委員会
- ②新校舎棟(仮称13号館)検討委員会
- ③創立50周年記念誌編纂委員会

(2) 安全・安心の施設づくりの推進

(学生、教職員等が安心して活動できる施設づくりが喫緊の課題となっており、次の事業を強力に推進する。)

- ①耐震補強工事 ②改築工事 ③その他の建物棟の対応

(3) 学生募集の充実強化

- ①募集広報組織の充実・強化
- ②効果的な高校訪問の実施
- ③進路ガイダンスを活用した高校生への広報の実施
- ④魅力あるオープンキャンパスの実施
- ⑤効率的な情報媒体の作成と各種メディアの効果的な活用

(4) 学生支援の充実

- ①就職支援の充実強化
- ②学生生活及び学生支援に関わる施設設備の充実
- ③学生相談体制及び健康管理対策の充実等
- ④快適な学生生活への支援

(5) 社会的責任・地域貢献への取組みの推進

- ①産学官民との共同・連携
- ②大学コンソーシアム岡山の企画・活動の牽引と推進
- ③高大連携の推進

(6) 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

(7) 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進

(8) 経営基盤の強化

①円滑な管理運営

ア. ガバナンスの確立 イ. リスク管理体制の構築

②健全な財政運営

ア. 財政基盤の強化 イ. 施設設備及び各種システムの整備充実 ウ. 職員の給与

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集

「中国短期大学自己点検・評価委員会規程」pp. 117～119

〈参考資料〉 35. 過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書

36. 平成21年度認証用 中国短期大学自己点検・評価報告書 執筆・推敲等分担一覧

《将来計画の策定》

この「将来計画の策定」は自由記述です。したがって、必ずしも記述する必要はありません。しかし短期大学の現在を理解するためには、将来どのような方向に向かおうとしているのかを知ることが重要です。その意味で、短期大学の将来計画（中期・長期計画）がありましたら、差し支えない範囲で記述して下さい。

本学では、社会のニーズの変化や高等教育の転換期における変革の流れに対応した学園の将来像を描くため、昭和61年以来、過去5回に渡って将来構想検討委員会が設置された。理事長または学長の諮問による各委員会は、多面的な視点から慎重な審議を重ね、明確な教育的・経営的ヴィジョンを構築し答申にまとめた。その答申は理事会、評議員会、及び教授会等に諮られ、方針として決定されるとともに、その過程において本学が持つ存在意義と将来構想についての共通理解をもたらしてきた。

本学でも複数の学科において、大きな定員割れを継続的に引き起こす等、厳しい状況下で、平成24年には創立50周年の節目を迎えるに当たり、中長期のヴィジョンを構築するため、平成19年7月に、学長の諮問による「中国学園大学・中国短期大学将来構想検討委員会」が発足した。委員会は、検討テーマとして、①「新たな学部・学科の創造」（学科の改組再編も視座に置く）、②「幅広い教養教育システムの創造」、③「ブランド・イメージの創造」（広報体制の強化・確立も含む）を掲げ、10回近くの審議を経て、平成20年10月に答申した。

まず、①「新たな学部・学科の創造」については、以前の「中国短期大学将来構想（中・長期）検討委員会」の答申（平成18年度末）を受け継ぎ、進展させるような方向で、定員割れの厳しい学科の再編を前提に、数種類の新学科・新学部創設プランを提案した。このテーマと課題については、経営会議等において検討・審議を集中させ、可及的早急に結論を出すことになった。②や③のテーマについては答申提出後も、学園内各組織において、討議を継続している。

この委員会の作業の中で特筆すべき点は、本学の教育に関係する学外の組織に対して、以下のようなヒアリングやアンケートによる情報収集に注力したことである。

1) 情報収集：

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営相談センター、日本私立短期大学協会、(株)ベネッセコーポレーション等より情報・データを収集。

2) ヒアリング・相談：

日本私立短期大学協会、岡山県内企業の人事・採用担当者、岡山県内の高教諭（進路指導担当）、及び高校生等にヒアリングを実施。

3) アンケート調査：

岡山県内の県立高校12校の高校3年生に対して、1学期終了時点での『進路に対する意識・希望』に関するアンケートを実施、987件の有効回答数を得た。

ここで得られた情報は、委員会の答申で有意なデータとして活用されるにとどまらず、教職員一人ひとりの教育活動や業務の中でも有効に使われている。

〈参考資料〉37. 「中国学園大学・中国短期大学の将来構想について（報告）
～創立50周年を目途に～」 （平成20年10月）

巻末資料

専攻科介護福祉専攻教育課程

(平成20年5月1日現在)

科目の 種別	授 業 科 目 名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専 門 科 目	社会福祉援助技術	○				2		○			21(1)	
	医学一般	○				2				○	21(1)	
	高齢者の音楽指導	○				2		○			21(1)	
	高齢者の健康と運動	○				2		○			21(1)	
	老人福祉論Ⅰ	○			2					○	21(1)	
	老人福祉論Ⅱ	○			2					○	21(1)	
	リハビリテーション論	○			2					○	21(1)	
	家政学概論	○			2				○		21(1)	
	家政学実習Ⅰ			○	1				○		21(1)	
	家政学実習Ⅱ			○	1				○		21(1)	
	介護概論Ⅰ	○			2			○			21(1)	
	介護概論Ⅱ	○			2			○			21(1)	
	介護技術Ⅰ		○		2			○			21(1)	
	介護技術Ⅱ		○		2			○			21(1)	
	形態別介護技術Ⅰ		○		2			○			21(1)	
	形態別介護技術Ⅱ		○		2			○			21(1)	
	介護実習Ⅰ			○	2			○			21(1)	
	介護実習Ⅱ			○	3			○			21(1)	
	介護実習Ⅲ(訪問介護含)			○	3			○			21(1)	
	介護実習指導		○		1			○			21(1)	

添付資料一覧

1. 中国学園大学・中国短期大学案内2010
2. 平成21年度学生便覧・授業概要
3. 中国学園大学・中国短期大学 諸規程集
4. 平成22年度学生募集要項（社会人・帰国子女特別選抜も含む）、外国人留学生特別選抜要項
5. 資金収支計算書/収入の部・支出の部
6. 消費収支計算書/収入の部・支出の部
7. 貸借対照表の概要

参考資料一覧

1. 過去3ヶ年の中国学園大学・中国短期大学 大学要覧
2. 『学校法人 中国短期大学 創立三十周年記念誌』
3. アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー関連資料
4. 平成20年度「学生による授業評価アンケート」（質問票及び集計結果一覧）
5. 過去3ヶ年の教員の個人調査（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名等、④その他）
6. 平成21年度前期時間割
7. 平成21年度前期教室使用状況一覧
8. 備品一覧表
9. 平成20年度教育・学習方法等改善支援『「地域共創型」図書館絵本ミュージアム』申請資料
10. 平成20年度「卒業生アンケート」（質問票及び集計結果一覧）
11. 平成20年度学科別研修会及びアンケート
「第3回保育学科リカレント研修」関連資料
「第2回総合生活学科総生サロン」関連資料
12. 平成22年度用各科募集用セカンドパンフレット
13. 過去3ヶ年の「中国学園大学・中国短期大学白鷺祭（大学祭）パンフレット」
14. 学生身上書（記入用紙）
15. 過去3ヶ年の進路一覧表等
16. 海外留学希望者に向けた印刷物等
17. 「2008年度学生生活実態調査」資料
18. 過去3ヶ年の専任教員の研究実績一覧表
19. 『中国学園紀要』 第5～7号
20. 過去3ヶ年の中国学園大学・中国短期大学広報誌「しらさぎ」
21. *CHUGOKUGAKUEN Journal* Vol. 5～7
22. 過去3ヶ年の研究に係る経費一覧表
23. 中国学園大学・中国短期大学 地域連携センター関連資料
24. 中国学園公開講座関連資料
25. 平成21年度 理事・監事・評議員名簿
26. 過去3ヶ年の理事会議事録
27. 過去3ヶ年の評議員会議事録
28. 過去3ヶ年の各種委員会議事録
29. 事業報告等関係書類
30. 過去3ヶ年の「中国学園大学・中国短期大学後援会だより」
31. 学校法人中国学園資金運用内規
32. 管理に関する各種諸規程及び財務諸規程
33. 過去3ヶ年の財産目録及び計算書類
34. 災害時における学内の避難指示及び避難経路等
35. 過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書
36. 平成21年度認証用 中国短期大学自己点検・評価報告書 執筆・推敲等分担一覧
37. 「中国学園大学・中国短期大学の将来構想について（報告）～創立50周年を目的に～」（平成20年10月）

おわりに

本学は、平成24年度に創立50周年を迎える。開学以来、高等教育に関する時代と地域の要請に応じて邁進し、現在では「地域に輝く総合短期大学」をモットーに、中島博理事長ならびに、松畑熙一学長の統括の下、全学教職員が共通の目的・目標に向けて、日々、努力を重ねている。本学の確固たる教育理念は、本書冒頭の松畑熙一学長による一文にも明確にされている。

今回の『平成21年度 中国短期大学自己点検・評価報告書』は、認証評価機関の定める指針に基づき、自己点検・評価の10評価領域について、該当する資料を収集し、現状を把握し、将来構想への展望を概説したものである。つまり、前回の『中国短期大学 自己点検・評価報告書 第Ⅶ集』に引き続き、各領域において、本学が培ってきた教育体制の伝統と革新、そして、それを支える人的・物的基盤の様相を記録したものである。本学の教育活動の全容が1冊の報告書の形になり、本学内外の関係諸氏の目に触れることは喜ばしいと同時に、より高次のレベルアップを要望する方面からは厳しい評価と貴重な示唆もいただけるものと信じる。

自己点検・評価の目的は、自らを顧みる「脚下照顧」的な観点もさることながら、「高等教育機関としての主体的な改革・改善への姿勢の形成」こそ、主たるものであると言える。その意味で、点検・評価の全領域・全項目・全観点において、可能な限りでの絶えざる改革と改善が進展中であるかをチェックし、また、実現が困難に見える事柄に直面しても、いかなる対処(break through)の方策があるかを絶えず模索しなければならない。この姿勢こそ、将来の日本を担う若き学生達の教育という、この上ない天職を与えられた我々が持つべきものであり、一言で表現するとすれば、ノブレス・オブリージ(noblesse oblige)である。

最後に、この冊子を纏めるにあたって、委員各位の努力はもちろん、全教職員の理解と協力を大前提に、多くの方々に資料提供や原稿作成に携わっていただいたことに対し、心から感謝と敬意を捧げたい。また、本書の編集に関して、本学独自の事情で不明な点があった時等には、認証評価機関である短期大学基準協会に電話による指導を仰いだが、そのたびに懇切丁寧なご指導をいただいた。併せて、衷心からの感謝をここに記しておく。

平成21年6月 ALO 橋内 幸子

中国短期大学自己点検・評価委員会

委 員

松畑 熙一、大藤 吉雄、橋内 幸子、近藤 信子、谷本 満江
澤津 久司、平岩 武、森脇 晃義、松井 新一